

住民意識に注目した街路景観における 色彩参画の効果に関する研究

安食 陽子

環境計画学科環境社会計画専攻において学士（環境科学）の学位授与の資格の
一部として滋賀県立大学環境科学部に提出した研究報告書

2009 年度

承認

指導教員

住民意識に注目した街路景観における色彩参画の効果に関する研究

近藤研究室 0612002 安食陽子

1. 背景・論点

(1)背景

1994年に制定された景観法により、地域の特色を活かした景観計画の実施が可能になった。景観の構成要素の中でも、色彩については、現在319ある景観行政団体の基準の中でも同じ色彩基準がないなど、地域ごとに景観計画が異なっている¹⁾。

景観色彩における、建物の色に関しては、基調色は公共性を意識し低彩度の指定がなされていることが多い。一方、建物のごく小面積に使用されるアクセントカラーは基調色と差を出し、特徴づけに使用されている。

(2)「色彩参画」について

「色彩参画」とは、小田²⁾の提案した、「決められた色を持つ任意の要素を市民が街並みに飾りつけることで街路景観の形成に参画すること」である。「赤いものなら何でも」といった形で色のみを指定し、住民が自分自身で自由に飾りつけを行うものである。

「色彩参画」については、先行研究があり、「色彩参画」を行うことによる景観イメージの変化²⁾、「色彩参画」とコミュニティの結合³⁾、装飾行動の変化⁴⁾について明らかになった。

「色彩参画」は、住民が景観形成に参画する手法であると同時に、景観に色彩的な変化を与える手法であると考えられる。

(3)風景論と「色彩参画」

①景観と風景

景観とは、「自然であっても人文であっても、すべて人間の視覚でとらえ得るもの」⁵⁾、一方風景とは、それに風土や歴史的なものが関わる。

同じ飾りつけた街並みを見た場合において、地域住民の感じる印象と、それ以外の地域の人を感じる印象は異なることが考えられる。

②風景の構成要素

風景において、構成要素の種類の多少や密度、配列によって、構成要素が多いほどにぎやか・少ないほど活気を欠くなど、印象の変化が起こる³⁾。

「色彩参画」においては、飾るものを風景の構成要素として考えることで、その種類や配列、連続性によって同じ条件下の飾りつけであっても印象が異なることが考えられる。

③多様の統一性

「景観調和で最も基本的な原理は、これもデザイ

ン世界で常識の『多様の統一』である」⁶⁾とあり、なにかひとつの要素に統一性を持たせることで、景観に統一感が出る。

「色彩参画」では、統一した色による飾りつけによって、落ち着いた風景をつくりだすことが出来ることが考えられる。

④「図」と「地」の概念

ゲシュタルト心理学の基礎概念で、図形において注目されて浮き上がって見える部分を「図」、その背景となる部分を「地」という。

「色彩参画」においては、飾りつけたものを「図」、建物や街並みを「地」として考えることで、「図」と「地」の概念を「色彩参画」にあてはめて考えることができると思われる。

(4)色彩論から見た景観色彩

景観計画において具体的な色彩の指定がなされる際、マンセル表色系が使用されることが多い。

マンセル表色系とは、赤(R)や黄(Y)というような色味を表す色相、白を10・黒を0とした明るさの度合を示す明度、色相ごとの色味の量から示される彩度から成る。色相を順序立てて円環にして並べたものを、色相環といい、基準とする色との角度によって色の相性や配色による印象が分かる。

本研究では、街路に色を飾る街路景観形成実験を行い、「赤いもの」と「青い布」を飾る。本研究の対象地である彦根市高宮町の街並みには、木造の建物が多く、茶色が多く見られる。赤と茶の配色については、明度や彩度に大きな変化を与えることで調和が得られる。青と茶の配色では、彩度はそれほど高くなければ、調和が得られる。本研究で行う実験での色彩は、調和が得られる配色であると考えられる。

2. 研究の目的・意義

(1)本研究の目的

本研究の目的は、「色彩参画」の事例より、飾りつけた街並みを通して、どういった要因から景観の色彩に対して印象を抱くのかを明らかにすることである。また、街並みに「色を飾る」という行動が、街並みへの意識をどのように変化させるのか、を明らかにする。

(2)本研究の意義

本研究の意義は、「色彩参画」の事例から明らかになった、景観の色彩に対して印象を抱く要因を明ら

かにすることで、景観色彩の選定や使用の際に参考となることである。

3. 研究方法

(1)調査方法

本研究では、「地域住民が軒先に赤いものを飾り、街並みを赤く彩る」という「百彩」と、「学生が軒先に青い布を飾り、街並みを青く彩る」という「風彩」のふたつの景観形成実験を対象に調査を行った。調査概要を表1に示す。

表1 実験開催概要

	百彩	風彩
開催日時	2009年8月8日・9日	2009年8月23日
開催場所	彦根市高宮町 中山道沿い・新町通り	彦根市高宮町 新町通り
概要	2009サマーフェスティバルinたかみやにて開催 住民が軒先に赤いものを飾り 街並みを赤く彩る	高宮寺地蔵まつり にて開催 学生が軒先に青い布を飾り 街並みを青く彩る

両実験にて、該当地域の住民の方に事後アンケート調査を実施した。地域に関わりのない立場から見た印象を明らかにするため、学生にもアンケート調査を実施した。また、「風彩」では十分なアンケート回答数が得られなかったため、該当地域以外の住民の方にもイメージ調査を実施した。それぞれの調査項目など詳細を表2、表3に示す。

表2 百彩アンケート概要

調査対象	住民	学生	学生 イメージ調査
参画度に関する項目	○	×	×
街路景観イメージに関する項目	○	○	○
街並みをイメージする色に関する項目	○	○	×
街並みへの関心に関する項目	○	×	×

表3 風彩アンケート概要

調査対象	住民	住民 イメージ調査	学生 イメージ調査
街路景観イメージに関する項目	○	○	○
街並みをイメージする色に関する項目	○	○	×
街並みへの関心に関する項目	○	○	×

(2)分析方法

分析の流れを、図1に示す。

また、本研究では、「(1)調査方法」で行った調査結果の他に、先行研究²⁾³⁾⁴⁾での調査結果も用いる。先行研究での結果との比較を行うことで、「色彩参画」を継続することで起こる変化について明らかにする。

因子分析について、因子の解釈は、第1因子は因子負荷量の高い形容詞対が「華やかな」「新しい」であったことから「明度」、第2因子は因子負荷量の高

い形容詞対が「安らいだ」「好きな」であったことから「安らぎ度」とした。

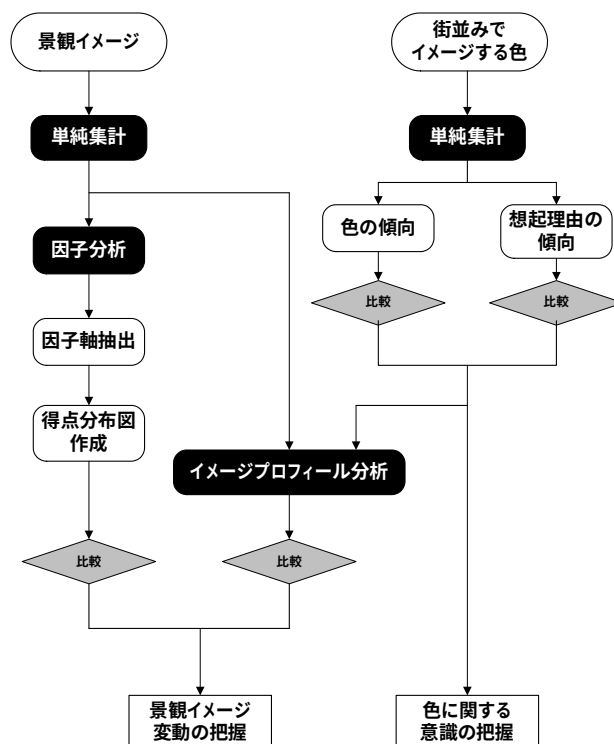


図1 分析の流れ

4. 分析結果

(1)街路景観イメージに関する分析

2005年・2006年・2008年の調査結果及び今回の調査結果の比較を行うことで経年変化を、「百彩」と「風彩」の調査結果の比較を行うことで色による印象の違いを分析した。

それぞれの調査結果について、イメージプロフィール分析(図2)及び因子分析(図3)による比較を行った。

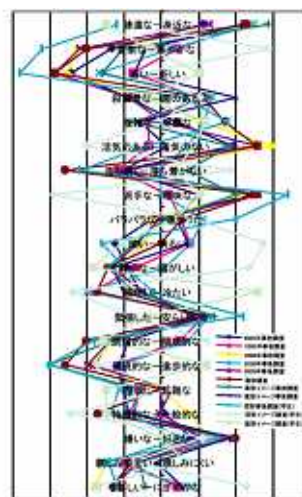


図2 調査結果全体のイメージプロフィール

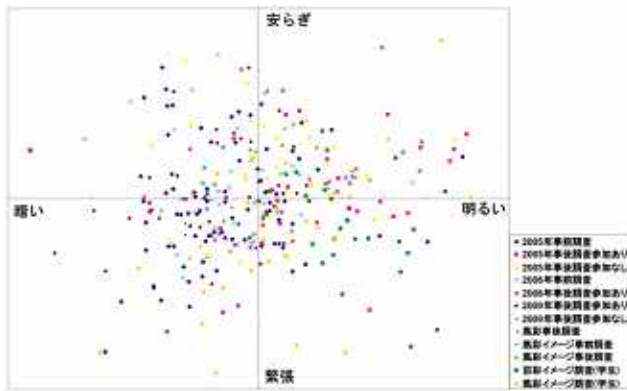


図3 因子分析全体の散布図

①経年変化による印象の違い

イメージプロフィール分析

2009年の調査結果では「暗い」と印象が強い。これは、以前の実験による盛り上がった印象と、今回は赤いものが目につかなかったためと考えられる。

因子分析

因子分析では、2005年事前調査では見られなかった明度は低いが安らぎ度が高いというタイプが見られた。

②立場の違いによる印象の違い

イメージプロフィール分析

同じ学生という立場であっても、実際に街並みを見たかどうかで印象が異なる。住民と街並みを見た学生については「活気のあるー活気のない」という項目について印象が大きく異なり、「地」への意識による違いがあることが考えられる。

因子分析

飾りつけた街並みを実際に見ることで、立場が異なった場合であっても安らぎ度が高くなる。

③色の違いによる印象の違い

イメージプロフィール分析

初めてその色を飾る場合は、「親しみ」を感じる。飾りつけを通して、改めて街並みを見る機会になっていることが考えられる。

飾る色の持つ意味による印象も抱くことから、色による印象の違いがあることが分かった。

因子分析

飾るものに対する意識や知識の有無により、安らぎ度が変化することが分かった。

(2)街並みをイメージする色に関する分析

「百彩」の2005年事前調査、2005年事後調査、2008年事後調査、2009年事後調査と「風彩」の事後調査について、イメージする色について図4に、想

起理由について図5にまとめた。

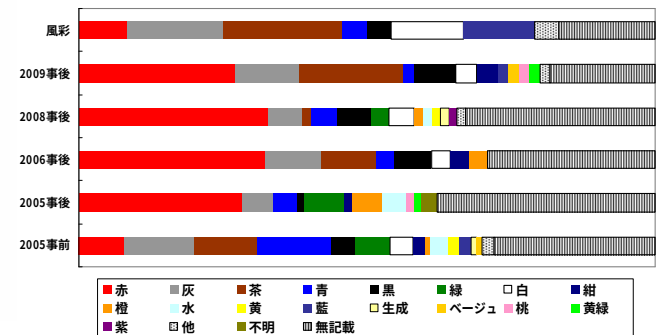


図4 調査年度ごとのイメージする色

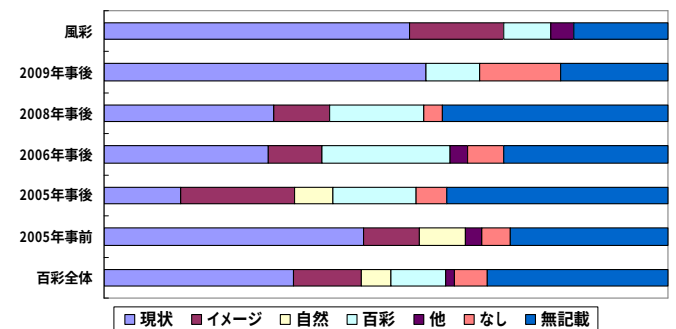


図5 調査年度ごとの想起理由

①色に関する傾向

「百彩」の2009年事後調査では、「赤色」という回答が減少していた。実験中に、赤いものがあまり目につかなかったことが原因として考えられる。しかし、「無記載」という回答の減少から、地域に対して色に関してイメージする機会が増えていることが考えられる。

「風彩」後の調査で、「百彩」を想起理由に「赤色」と回答している回答者が見られた。このことから、「百彩」が定着していることが考えられる。また、飾りつける色に「図」へのなりやすさがあることが考えられる。

②想起理由ごとの傾向

「百彩」で想起理由を「現状」とした回答者は、2005年事前調査と比較し、2009年事後調査に比べ「暗い」という印象が弱くなっている。

想起理由を「百彩」とした回答者は、他の年度に比べ2009年事後調査で「活気のない」という印象が強い。それまでの実験による活気が今回は得られなかったことが原因と考えられる。しかし「風彩」で想起理由を「百彩」とした回答者に関しては、活気はそれほど意識していなかった。

Research on effect of “Color participation” in streetscape where resident consciousness was paid attention

Ajiki Youko

1. Background, purpose, and meaning of research

The execution of Landscape Act that made the best use of the trait in the region became possible by the spectacle law that had been enacted in 1994. As for the color, the landscape planning is different as the same color standard doesn't exist in the standard of a spectacle administrative group where 319 exists now in the component of the spectacle in each region.

"Color participation" is "Participate in the formation of the street spectacle in the citizens' decorating the street with an arbitrary element with the decided color" that Oda proposed. "If it is red, it is anything" It is what only the color is specified in shape, and the resident decorates freely oneself. "Color participation" is a technique that the resident participates in the landscaping. It is thought at the same time that it is a technique for giving the spectacle a color change.

The purpose of the present study is to clarify it though doesn't know from what factor for the color of the spectacle to have the impression through the case with "Color participation".

The meaning of research is to become reference when the landscape color is selected.

2. Research method

In the research, it investigated for the landscaping experiments of two. One is the one "The local populace decorates the front of the house with the red one". Another one is the one "The student decorates the front of the house with the blue fabric".

After it had experimented of each, the questionnaire survey was executed to the resident in a pertinent region. The questionnaire survey was executed to the student and residents other than a pertinent region.

As follows, it analyzed it from the questionnaire that had been done after it had experimented. First, factorial analysis and Image profile analysis were done from assorted traits concerning the image of the street spectacle. Secondly, it simply totaled it from assorted traits concerning the color of the streetscape. And, the comparison and consideration were done as a result.

3. Consideration and conclusion

The factor that the impression of the streetscape changes from the analysis result through "Color participation", Impression and consideration from person who sees, the decorated one and the character, it is thought these are related. Therefore, it is thought eyes come to be suitable for consideration to the street through seeing the color from the color gradually though one that is an at first noteworthy color has the strong impression about the color.

It is easy for the point "To what color do you make it?" to be paid attention about the color in the spectacle. However, it is thought the color that feels not only the selection of the color but also continuousness arrangement and usage are related to the impression of the streetscape.

It is thought that making to the color with which the history in the region is associated and the color that the region thinks of as wanting to make it to such a street is important. Moreover, it is thought that arranging it as felt that the color continues continuously causes the change in the image of the street.

目 次

第1章	序論	1
1-1	研究の背景	1
1-1-1	景観法の制定	1
1-1-2	景観における色彩	1
1-1-3	景観色彩に関する事例	2
1-2	「色彩参画」について	3
1-2-1	「色彩参画」と街並みの景観イメージとの関係に関する研究	3
1-2-2	「色彩参画」とコミュニティの結合効果に関する研究	4
1-2-3	「色彩参画」における装飾物の変遷に関する研究	4
1-2-4	本研究の位置付け	5
1-3	風景論	5
1-3-1	景観と風景	5
1-3-2	風景の構成要素	6
1-3-3	多様の統一性	6
1-3-4	「図」と「地」の概念	6
1-4	色彩論	7
1-4-1	マンセル表色系	7
1-4-2	色の持つ意味	8
1-4-3	高宮町における色彩の現状	9
1-5	研究の目的・意義	10
1-5-1	本研究の目的	10
1-5-2	本研究の意義	10
1-6	本研究の構成	10
第2章	実験・調査概要	13
2-1	「色彩参画」による景観形成実験	13
2-1-1	「百彩」	13
2-1-2	「風彩」	15
2-1-3	高宮布について	16
2-2	実験対象	17
2-2-1	調査対象地域概要	17
2-2-2	実験調査対象者概要	18
2-3	実験・調査の流れ	23
2-4	地域住民の景観イメージに関するアンケート調査	24

2-4-1	調査概要	24
2-4-2	街並みの景観イメージに関するアンケート調査項目	24
2-4-3	景観認識に関するアンケート調査	26
2-4-4	実験への関心に関するアンケート調査	27
第3章	研究方法	31
3-1	分析の流れ	31
3-2	街並みの景観構造の分析	32
3-2-1	イメージプロフィールによる街並みの 景観イメージ構造の分析及び比較	32
3-2-2	因子分析による街並みの景観イメージ構造の分析及び比較	32
3-3	街並みをイメージする色の分析	33
3-3-1	イメージする色及び想起理由に関する単純集計	33
3-3-2	想起理由に関するイメージプロフィール分析	34
第4章	景観イメージ構造に関する調査結果	37
4-1	調査実施概要	37
4-1-1	「百彩」の調査概要	37
4-1-2	「風彩」の調査概要	37
4-2	「百彩」における装飾数の変化	38
4-3	因子分析による街並みの景観イメージ構造に関する分析結果	38
4-3-1	因子の抽出	38
4-3-2	因子の解釈	39
4-4	飾りへの参加の形式による景観イメージの変化に関する分析結果 ..	40
4-4-1	回数を重ねること及び参加の有無による 景観イメージの変化に関する分析結果	40
4-4-2	立場の違いによる景観イメージの変化に関する分析結果	46
4-5	飾るものの色の違いによる景観イメージの違いの傾向と特徴	48
4-5-1	イメージプロフィールによる 街並みの景観イメージ構造に関する分析結果	48
4-5-2	飾るものの色の違いによる景観イメージについての因子分析	51
4-6	景観イメージ構造に関する調査結果のまとめ	53
4-6-1	飾りへの参加の形式による景観イメージの分析結果	53
4-6-2	飾るものの色の違いによる景観イメージの分析結果	54
4-6-3	4章のまとめ	55
第5章	イメージする色に関する調査結果	57
5-1	「百彩」における街並みをイメージする色に関する分析	57

5-1-1	全体の分析	57
5-1-2	調査年度ごとの分析	57
5-2	「百彩」におけるイメージする色の想起理由に関する分析	58
5-2-1	全体の分析	58
5-2-2	調査年度ごとの分析	59
5-2-3	想起理由によるイメージプロフィール分析	59
5-3	「赤」と回答した回答者の想起理由に関する分析	62
5-3-1	全体の分析	62
5-3-2	調査年度ごとによる分析	63
5-3-3	想起理由によるイメージプロフィール分析	64
5-4	「風彩」における街並みをイメージする色に関する分析	66
5-4-1	全体の分析	66
5-4-2	想起理由によるイメージプロフィール分析	68
5-5	イメージする色に関する調査結果のまとめ	69
5-5-1	「百彩」におけるイメージする色のまとめ	69
5-5-2	「風彩」におけるイメージする色のまとめ	69
5-5-3	5章のまとめ	70
第6章	結論	71
6-1	まとめ	71
6-1-1	各章のまとめ	71
6-1-2	全分析結果のまとめ	73
6-2	調査結果と風景論の関係について	75
6-2-1	景観と風景	75
6-2-2	風景の構成要素	76
6-2-3	多様の統一性	76
6-2-4	「図」と「地」の概念	78
6-3	景観色彩についての提言	80
6-3-1	「色彩参画」の事例から見た景観色彩に関する結論	80
6-3-2	景観色彩についての提言	80
6-4	本研究の課題と今後の展望	80
6-4-1	本研究の課題	80
6-4-2	今後の展望	81

図 表 目 次

図 1-1	類似調和の例	2
図 1-2	対比調和の例	2
図 1-3	伊丹市の色彩基準による景観	3
図 1-4	ルビンの盃	6
図 1-5	妻と義母	6
図 1-6	「図」と「地」の概念を「色彩参画」に置き換えた例	7
図 1-7	マンセル色相環	8
図 1-8	高宮町の街並み	9
図 2-1	「百彩」で街路を飾りつけた様子	14
図 2-2	「百彩」で軒先を飾りつけた様子①	14
図 2-3	「百彩」で軒先を飾りつけた様子②	14
図 2-4	「風彩」で街路を飾りつけた様子	15
図 2-5	「風彩」で軒先を飾りつけた様子①	16
図 2-6	「風彩」で軒先を飾りつけた様子②	16
図 2-7	高宮布	16
図 2-8	櫛押捺染	17
図 2-9	型紙捺染	17
図 2-10	彦根市、高宮町の位置	18
図 2-11	実験対象地域	19
図 2-12	「百彩」アンケートに配布した写真	21
図 2-13	「風彩」アンケートに配布した写真	23
図 2-14	街並みの景観イメージに関するアンケート調査項目	26
図 3-1	研究の流れ	31
図 4-1	全体の景観イメージのイメージプロフィール	41
図 4-2	同一範囲内の景観イメージのイメージプロフィール	42
図 4-3	回数を重ねることによる景観イメージの因子得点分布図	43
図 4-4	2005 年事前調査イメージ調査の因子得点分布図	43
図 4-5	2005 年事後調査イメージ調査の因子得点分布図	44
図 4-6	2006 年事後調査イメージ調査の因子得点分布図	44
図 4-7	2009 年事後調査イメージ調査の因子得点分布図	45
図 4-8	「百彩」における立場の違いに関するイメージプロフィール	46
図 4-9	立場の違いに関する因子得点分布図	47
図 4-10	「百彩」「風彩」の事後調査のイメージプロフィール	49
図 4-11	「風彩」における立場の違いに関するイメージプロフィール	50
図 4-12	飾るものの色の違いによる景観イメージの因子得点分布図	51

図 4-13 「百彩」の景観イメージの因子得点分布図	52
図 4-14 「風彩」の景観イメージの因子得点分布図	52
図 4-15 「風彩」の学生の景観イメージの因子得点分布図	53
図 5-1 「百彩」における分析対象全体のイメージする色の割合	57
図 5-2 調査年度ごとのイメージする色の割合	58
図 5-3 分析対象者全体の想起理由の割合	59
図 5-4 調査年度ごとの想起理由の割合	59
図 5-5 全体の想起理由ごとのイメージプロフィール	60
図 5-6 事前調査の想起理由ごとのイメージプロフィール	61
図 5-7 事後調査の想起理由ごとのイメージプロフィール	61
図 5-8 2009 年事後調査の想起理由ごとのイメージプロフィール	62
図 5-9 全体の赤色の想起理由の割合	63
図 5-10 調査年度ごとの赤色の想起理由の割合	63
図 5-11 「現状」によるサンプルのイメージプロフィール	64
図 5-12 「イメージ」によるサンプルのイメージプロフィール	65
図 5-13 「百彩」によるサンプルのイメージプロフィール	65
図 5-14 「なし」によるサンプルのイメージプロフィール	66
図 5-15 「風彩」における分析対象全体のイメージする色の割合	67
図 5-16 「風彩」における分析対象者全体の想起理由の割合	67
図 5-17 想起理由の割合	67
図 5-18 想起理由によるイメージプロフィール	68
図 6-1 街並みへの印象の変化と要因	74
図 6-2 活気・連続性の感じやすい飾りつけの様子	76
図 6-3 活気・連続性の感じられにくい飾りつけの様子	76
図 6-4 赤いもので統一された街並み	77
図 6-5 青い布で統一された街並み	78
図 6-6 「図」へのなりやすさの例	79

表 1-1 色彩関心度	9
表 1-2 色の持つ意味	9
表 2-1 「百彩」の開催概要	13
表 2-2 「百彩」のアンケート対象と調査項目	20
表 2-3 「風彩」のアンケート対象と調査項目	22
表 2-4 「百彩」の実験・調査の流れと対象者の動き	24
表 2-5 「風彩」の実験・調査の流れと対象者の動き	24
表 2-6 街並みをイメージする色に関する項目	27
表 2-7 街並みへの関心に関する項目①	27

表 2-8	街並みへの関心に関する項目②	27
表 2-9	実験への参加度に関する項目①	28
表 2-10	実験への参加度に関する項目②	28
表 3-1	想起理由の分類	33
表 4-1	「百彩」のアンケート対象と調査項目	37
表 4-2	「風彩」のアンケート対象と調査項目	37
表 4-3	飾りつけへの参加の変化	38
表 4-4	各形容詞対の共通性	39
表 4-5	因子分析による固有値と累積寄与率	39
表 4-6	バリマックス回転後の各因子の因子負荷量	39
表 4-7	回数を重ねることによる景観イメージの分析に用いたサンプル数 ...	40
表 4-8	立場の違いによる景観イメージの変化の分析に用いたサンプル数 ...	46
表 4-9	色の違いによる景観イメージの違いの分析に用いたサンプル数	48
表 5-1	イメージする色についての分析で用いたサンプル数	57

第 1 章

序論

第1章 序論

1-1 研究の背景

1-1-1 景観法の制定

2004年、景観についての総合的な法律である「景観法」が制定・施行された。景観法では、「我が国の都市、農山漁村における良好な景観の形成を促進するため、景観計画の策定その他の施策を総合的に講ずることにより、美しく風格のある国土の形成、潤いのある豊かな生活環境の創造及び個性的で活力ある地域社会の実現を図る」¹⁾ことを目的としており、地域特性に応じた景観の形成を図ることや、既にある景観を保全するだけでなく新たに良好な景観を創出することを理念としている。

景観法では、基本的な法律だけでなく、景観計画や景観整備機構等の具体的な規制や支援が定められている。また、条例で規則内容を柔軟に決めることができるなど、地域特性が反映されやすい仕組みとなっている。

また、景観法では、地域の景観行政を担う景観行政団体が景観計画を策定することが定められている。景観行政団体は、地域の特性にふさわしい良好な景観を形成する必要があると認められる地域などに定めることができ、法律上の様々な措置を検討することができる。景観計画が策定された区域では、新改築や修繕などの規定が定められ、基準に該当しない場合は変更命令が出される。違反した場合の規定なども設けられ、景観法により自主的な条例よりも実効力のある仕組みづくりが可能になった。

このように、景観法は景観行政団体により異なる規制を景観計画ごとに定めることができる。景観法と言っても日本全国で同一の規制がなされる訳ではなく、地域の特性を活かす規制を定めることができるものとなっている。例えば、滋賀県彦根市では、「城と湖と緑のまち・美しい彦根の創造」²⁾をテーマに、歴史や緑、湖を活かした景観形成を目指している。

1-1-2 景観における色彩

景観を形成する上で、色彩の果たす役割は大きく、街の印象を大きく左右する。「色彩は人間に美しさなどのさまざまな感情を引き起こす。また、テクスチャーと同様に空間の感覚・知覚にも役割を担っている。それゆえデザインにおける重要な要素である。」³⁾ともあり、景観形成において色彩の規制は重要な要素であるといえる。

実際の景観計画においては、色彩の規制は「周辺環境と調和する色」というような、景観形成の方針は定めるが具体的な基準は定めず、色を決める立場の人の裁量に任せているような場合と、具体的に数値や色票で色の基準を設定する場合がある。

具体的な色の指定については、色相・明度・彩度といった三つの性質からひとつの色を表すマンセル表色系で表されることが多い。色相とは、色味を表すもの、明度とは、明るさの度合を示すもの、彩度とは、鮮やかさの度合を示すものである。均等に尺度化

されており、機械的な測定により緻密なマンセル記号の表示ができるため、色の複製、再現、評価、記録等を正確且つ迅速に行うことができる⁴⁾。

現在、319ある行政団体のうち、色彩の規制に関して同じ基準がないことが明らかになっている。しかし、そういった色彩基準を活用するための景観の慣用色の色見本など景観色彩を運営するためのツール不足が問題になっている⁵⁾。

景観の中でも、建物の色については、基調色、補助色、アクセント色がある。基調色は建物の大面積を占めるものであるため、公共性を意識する必要がある。そのため、低彩度のものを指定する場合が多い。一方、アクセントカラーは建物のごく小面積に使用し、概観にほどよい緊張感を与えるものである。そのため基調色と彩度の差を出し、特徴づけに用いることができる。

建物などの色彩でまとまりを見せ、それが背景と良い関係を持つようにバランスをとることを「色彩調和」という。「色彩調和」には似た色味や明るさ、鮮やかさを組み合わせて調和を図る「類似調和(図 1-1)」と、対照的な色味や明るさ、鮮やかさを組み合わせる「対比調和(図 1-2)」がある。



図 1-1 類似調和の例⁶⁾



図 1-2 対比調和の例⁶⁾

色彩計画については、景観計画や住民協定などの規制について調査・配慮すること、地域に根付いている色を生かすこと、周辺環境に調和する色彩を組み合わせること、派手な色は避けること、経年変化に耐える色を選ぶことが重要となる⁷⁾。

1-1-3 景観色彩に関する事例

景観計画でも、色の規制に関して具体的な数値で基準を定めたものとしては、市内全域の原則 4 階建て以上の建築物を対象に外観の色彩基準を設け、区域ごとに基準を設けた伊丹市(図 1-3)⁸⁾や、地域の風土色を 115 色指定し、基調色にはその色を使うことで統一ではなく調和を目指した草加市⁹⁾などがある。このように、色彩の規制から地域特性を出そうという動きが見られる。



図 1-3 伊丹市の色彩基準による景観

1-2 「色彩参画」について

「色彩参画」とは、小田¹⁰⁾の提案した、「決められた色を持つ任意の要素を市民が街並みに飾りつけることで街路景観の形成に参画すること」¹⁰⁾である。2005年に小田が彦根市高宮町の旧中山道沿いにおいて「赤色を用いて行われた色彩参画」を実施し、その後も続いている。

「赤いものなら何でも」といった形で住民に飾りつけを依頼している。色のみを指定し飾るものは自由であり、これは地域住民が自由に飾りつけを行えるようにすることで、多くの地域住民が容易に実験に参画できるようにすることと、より主体的に実験へ参画できるようにすることを狙いとしている。この条件は、2005年以降の色彩参画でも同じである。

「色彩参画」については3つの先行研究がある。

1-2-1 「色彩参画」と街並みの景観イメージとの関係に関する研究¹⁰⁾

小田は、市民参画の手法として、「1-2『色彩参画』について」で述べた、「色彩参画」を提案した。この研究で分析対象とする「色彩参画」とは、彦根市高宮町の旧中山道沿いにおいて「赤色を用いて行われた色彩参画」のことである。

小田は、「色彩参画」を実施することで地域住民の景観イメージがどのように変化するかを調査し、住民が景観に対して動的に関わることで、街並みに対する不満が減少し、実験前は意識していなかった活気を感じるようになることを明らかにした。また、百彩は楽しみながら景観に「触れる」ことができる手法であるとしている。

「色彩参画」とは「実際に景観の形成を行うことで、視覚以外の身体的感覚を用いて積極的に景観に関わる手法である」としている。また、「今後、市民が景観計画や景観協定などの策定といった、日常の景観を作る際に、市民が参画するための入り口として用

いられることが望ましい」としている。

1-2-2 「色彩参画」とコミュニティの結合効果に関する研究¹¹⁾

迫間は、小田と同じ手法によって「色彩参画」による地域住民の景観イメージがどのように変化したのか調べることで、「色彩参画」の経年的な景観イメージの変化を調査した。

その結果、「色彩参画」による景観イメージは一時的なものであることが示唆されている。しかし、実験後の景観イメージが単調なイメージに変化していること、「マンネリ化への危機感」による緊張や持続することによる安心から、活気ある景観イメージへ変化していることが考えられた。

また、この研究で対象とした「色彩参画」の中で、まちが開示することによるコミュニティの結合効果は、

- ・参画者の景観イメージが「好きな」「親しみやすい」に変化する場合
- ・参加することによって街並みを見た際、統一感、共通意識を感じる場合

という要素、

- ・他の家が気になり近所に注意を向け、強迫観念から情報収集に対する意欲が強くなる場合
- ・実験での行為を楽しみにしている場合

という要素、

- ・「マンネリ化への危機感」は持っているが、積極的に関わっている場合
- ・積極的に関わるがまだこの実験に慣れておらず、新鮮に感じる場合

という要素

の3つの要素の条件で成立していること、3つの要素は相互に関係しあってコミュニティの結合効果を生み出していることを明らかにした。

また、「色彩参画」の実験において、飾るものは毎年違うものを出さないといけないという観念がこの地域では強く、情報収集に対する意欲が強まっていることや、この作用は継続することによって強くなっていることが考えられている。

1-2-3 「色彩参画」における装飾物の変遷に関する研究¹²⁾

松尾は、「色彩参画」の継続による住民の装飾行動の変化を明らかにし、「日常景観マネジメント」としての可能性について調査した。

参加を重ねるごとにより、より活気のある景観をつくりだそうとする傾向や、飾りつけを重ねることで街並みに違和感がなくなることが明らかになった。特に、自らの手でより多くの飾りつけを行う、もしくは統一感ある外観をつくりだすことを意識し飾りつけを行うことで、違和感がなくなる。

また、街並みに活気を与えることだけを考える人は、手軽に飾ることのできるものを

多く飾る傾向が、活気と同時にまとまりのある景観をつくりだそうと考える人は装飾系の装飾物を使うことが考えられる。

「色彩参画」に多くの住民が参加を継続することで、活気ある街並みや整った景観をつくりだす効果があるとともに、活気やまとまりのある景観をつくりだそうとする住民を増やす効果があるということを明らかにした。

1-2-4 本研究の位置付け

「1-1 研究の背景」で述べたように、景観法の制定により地域の特色を反映しやすい景観計画の規制が可能となった。また、景観形成においては色彩が重要な要素であるといえる。

また、そういった中での「色彩参画」については、住民が色彩をツールに景観形成に参画する手法として効果があるものと考えられる。

「色彩参画」に関する先行研究からは、「色彩参画」による景観イメージの変化、装飾による住民の変化について明らかになった。しかし、そういった住民の意識の変化の要因は飾りつけることによるものなのか、色の影響があるのかという点については明らかになっていない。

そこで本研究では、「色彩参画」を通して、色を飾りつけることによる地域住民の意識の変化がどのように見られるのか、特に飾りつける「色」に注目して研究を行う。

また、「色彩参画」の事例から、景観形成において重要な要素である色彩が景観へのイメージの変化を与えているのか、またその要因はどのようなものなのかについて明らかにする。

1-3 風景論

「色彩参画」は、街並みに任意の色のものを飾りつけることで景観形成に市民が手軽に参画できる手法であると同時に、色を飾りつけることで景観に色彩的な変化を与える手法であると言える。そこで、「色彩参画」と関わりの深い風景論について述べる。

1-3-1 景観と風景

景観とは「自然であっても人文であっても、すべて人間の視覚でとらえ得るもの、つまり可視的現象を主として意味するもので、これに副次的に聴覚、嗅覚、触覚などによって把握し得たものをふくめる」¹²⁾とある。一方、風景とは「視覚でとらえ得たものが主体。これに聴覚、嗅覚、触覚を含める」¹²⁾とあり、風土や歴史的なものとも関係が深いという。

その景色を見たときに、風土や歴史的なものとの関わりがあるかどうかで、同じ景色であっても抱く印象や意識が異なってくることが考えられる。「色彩参画」においては、地域への関わりの有無によって景色への印象が異なることが考えられる。

1-3-2 風景の構成要素¹³⁾

風景の構成要素については、構成要素の種類や密度、配列によって風景の印象が様々に変化する。構成要素の種類は多いほどにぎやかで理解されやすく、少ないほど活気を欠くが場合によっては印象を強める。また、記憶による連続性が失われない範囲でその要素が分布していると、まとまりがあるように感じられ、要素が横に配列することで連続性や非連続性を感じさせる。

「色彩参画」においては、飾るものを風景の構成要素として考えることで、その種類や配列、連続性によって同じ条件下の飾りつけであっても印象が異なることが考えられる。

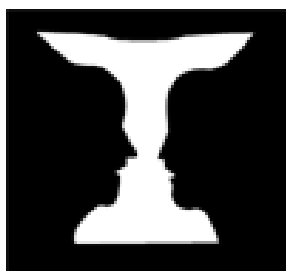
1-3-3 多様の統一性

「景観調和で最も基本的な原理は、これもデザイン世界で常識の『多様の統一』である。色、大きさ、材料、寸法、モチーフなどのいずれかを統一し、他を自由にするという方法である。向きも形も色々違う家並みであっても、屋根だけを黒瓦で統一するというような方法で、それだけで落ちついた風景になるはずである。」¹⁴⁾とあり、なにかひとつの要素に統一性を持たせることで、景観に統一感が出る。

「色彩参画」では、色を統一し、ものは自由に飾りつけを行う。そのため、『多様の統一』であることが言える。統一した色による飾りつけによって、落ち着いた風景をつくりだすことが出来ると考えられる。

1-3-4 「図」と「地」の概念

ゲシュタルト心理学の基礎概念で、図形において注目されて浮き上がって見える部分を「図」、その背景となる部分を「地」という。「ルビンの盃(図 1-4)」や「妻と義母(図 1-5)」などが有名である。



ルビンの盃

図 1-4 ルビンの盃¹⁵⁾



妻と義母

図 1-5 妻と義母¹⁵⁾

街路や空間を限定して面にとらえる場合には、街路や広場が図となり、建物は地となる。『図』と『地』の理論を、実態的な建築空間や街並みの構成、さらには景観のみえかたにまで応用することは学問的に問題であるかもしれない。(中略) 一つのまとまりのある空間領域を『図』として考えるということは、建築や都市の空間を論ずる場合、重要な糸口を与えてくれると思われる。」¹⁶⁾とあり、「図」と「地」の概念から景観について考察することで、考察に対して新たな視点を得ることができると考えられる。

「色彩参画」においては、飾りつけたものを「図」、建物や街並みを「地」として考えることで、「図」と「地」の概念を「色彩参画」にあてはめて考えることができるのではないか(図 1-6)。

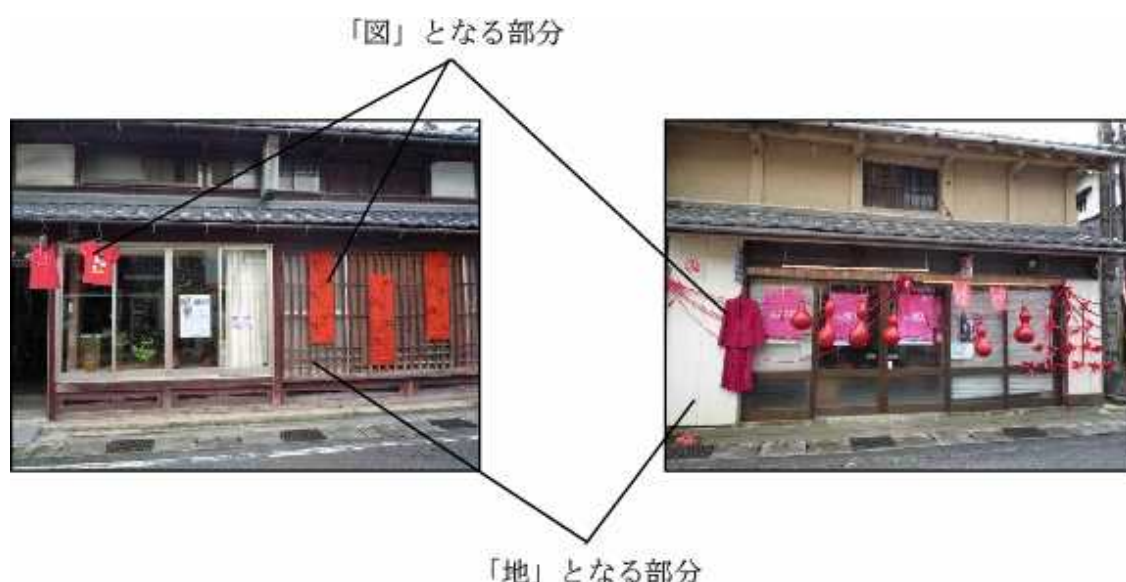


図 1-6 「図」と「地」の概念を「色彩参画」に置き換えた例

1-4 色彩論

1-4-1 マンセル表色系

マンセル表色系とは、「1-1-2 景観における色彩」でも述べたように、景観計画における色彩の指定に用いられることが多く、色相・明度・彩度といった要素から色を示す。具体的には、赤(R)や黄(Y)といった色相と、白を 10、黒を 0 とした彩度、色相ごとの色味の量をから示される彩度から【色相 明度／彩度】といった形式で示される。

また、色相を順序立てて円環にして並べたものを、色相環という。(図 1-7)

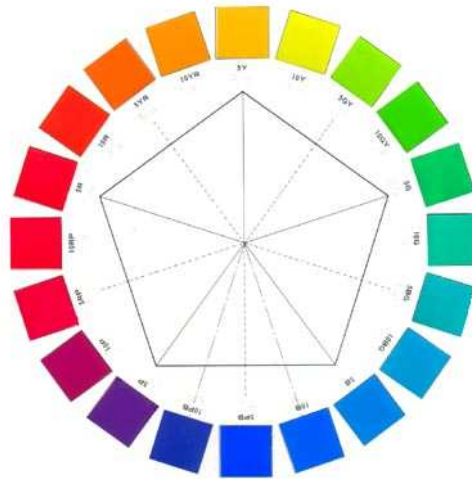


図 1-7 マンセル色相環¹⁷⁾

色相環から、基準とする色との角度によっての色の相性や配色による印象が分かる。隣接した色は差が少ないために不調和になりやすい、反対色であり明度が同じであると調和しにくいなどがある。図 1-7 の直線と破線で結ばれた色は補色となる。また、五角形で結ばれた色は「マンセル 5 主要色相」である¹⁷⁾。

本研究における「色彩参画」に関わる色について比較をすると、建物の色として多く見られる茶色と飾りつける赤色であると、色味が共通で差が少ないために不調和になりやすいが、明度や彩度に大きな変化を与えることで調和が得られる。明度については赤と茶では差が大きいため、類似の調和が得られやすいことが考えられる。一方、建物の色として多く見られる茶色と飾りつける青色では色相が反対の要素であるため、両方の色を高彩度の配色にすると強烈になりすぎる。しかし、どちらも彩度はそれほど高くないため、調和が得られることが考えられる。

1-4-2 色の持つ意味¹⁸⁾

色彩には、その色に対しての関心度によって分類される「色彩関心度」というものがある(表 1-1)。

表 1-1 色彩関心度

	特徴	色の例 (上:有彩色 下:無彩色)
嗜好優位色	大勢から好まれ、滅多に嫌われない色	ブルー系、グリーン系 白
嫌悪優位色	大勢から嫌われ、滅多に好かれない色	オレンジ系、赤紫系 グレイ・ダークトーン
注目色	好きという人が多い反面、嫌う人も多い色	赤・黄系 黒
無関心色	好きとも嫌いとも言われない色	その他 ディープトーン

また、色によってイメージや意味が大きく異なる。本研究における「色彩参画」に関わる色である、赤色と青色の持つ意味について表 1-2 にまとめた。

表 1-2 色の持つ意味

赤	青
・人間的な動物臭を感じさせるイメージ ・生命に関わる色 ・日常生活において特別な効果 ・暖色の代表 ・「動」	・神秘的 ・自然界にない ・ネガティブなイメージでもある ・寒色の代表 ・「静」

赤は暖かさや活気を感じる色、青は冷たさや落ち着きを感じる色であることが分かる。

1-4-3 彦根市高宮町における色彩の現状

実験対象地域である高宮町(図 1-8)は、比較的古い建造物が多く残っている。また、白色の壁と黒色の瓦が、伝統的な建造物として意識されている。しかし、先行研究¹⁰⁾¹¹⁾¹²⁾の調査結果より、空き家が多いことなどから暗い印象を抱いている住民も見られる。



図 1-8 高宮町の街並み

「色彩参画」で飾りつける赤色は普段の街並みの中にはあまり見られない。しかし先行研究¹⁰⁾¹¹⁾¹²⁾より「高宮でイメージする色」が赤色という意見が見られたことから、「色彩参画」を通して赤色が地域の色と結びついている住民がいることが分かる。実験が景観に影響を与えている要因となっている。

ある任意の色を持つものを飾ることが、景観色彩に関して何らかの影響を与えていることが分かる。

1-5 研究の目的・意義

1-5-1 本研究の目的

本研究の目的は、景観の色彩について「色彩参画」の事例を過去の調査結果との比較、及び風景論・色彩論からの考察を通して、どのように変化するのかを明らかにすることである。

具体的には、「色彩参画」の経年変化・立場の違い・色の違いから出る結果の違いについて、「1-3 風景論」や「1-4 色彩論」で述べた概念を踏まえた上で考察することで、「色彩参画」が及ぼす街路景観への影響について明らかにすることを目的とする。

1-5-2 本研究の意義

「色彩参画」による景観への印象の変化を明らかにすることで、景観に対する色への意識の変化や、こういった要因で印象が変わるのかを明らかにする。明らかになった要因などから、景観における色彩に対する選定の際の参考となることが、本研究の意義である。

1-6 本研究の構成

本研究は、6つの章により構成されている。各章の内容を以下に示す。

第1章 序論

本研究の背景や先行研究、目的、意義について述べる。

第2章 実験・調査概要

本研究で行った景観形成実験イベントの概要、及び調査方法について述べる。

第3章 研究方法

本研究で用いる分析方法について述べる。

第4章 景観イメージ構造に関する調査結果

分析結果のうち、景観イメージ構造に関する結果及び考察について述べる。

第5章 イメージする色に関する調査結果

分析結果のうち、色に関する結果及び考察について述べる。

第6章 結論

各章をまとめたあと、景観イメージと色の関係について述べる。

参考文献

1)国土交通省：景観法案要項

<<http://www.mlit.go.jp/crd/townscape/keikan/index.htm>>,2009-12-15

2)彦根市：彦根市景観マップ<<http://www.city.hikone.shiga.jp/index.html>>, 2010-2-19

3)日本建築学会：空間学辞典, p26, 井上書院(1996)

4)Moon：マンセル表色系< <http://color.kagennotuki.jougennotuki.com/>>2010-1-13

5)宮川理香, 景観法による建築物等の色彩基準の状況, 塗料の研究, 149, 31-35(2008)

6)旭川市：カラーガイド・旭川<

http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/tosi_kei/keikan/index.htm >2010-1-15

7)宮川理香, 景観法施行とこれからの建築物の色彩, 塗料の研究, 146, 40-46(2006)

8)伊丹市：景観計画・景観条例<<http://www.city.itami.lg.jp/>>,2009-12-18

9)草加市：草加市景観計画及び草加市景観条例< <http://www.city.soka.saitama.jp/index.html>>, 2009-12-18

10)小田憲治, 近藤隆二郎：市民による「色彩参画」と街並みの景観イメージとの関係に関する研究, 都市計画. 別冊, 都市計画論文集, 41(3), 511-516(2006)

11)迫間勇人：まちの開示に見るコミュニティの結合効果に関する研究, 滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻学士論文 (2006)

12)松尾清：装飾物の変遷から見た「百彩」の日常的景観マネジメントとしての可能性, 滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻学士論文(2009)

13)高橋進：風景美の創造と保護, 大明堂(1982)

14)進士五十八・他：風景デザイン 感性とボランティアのまちづくり, pp.26-27, 学芸出版社(1999)

15)Kasabake：ゲシュタルト心理学成立の背景

<http://www.oak.dti.ne.jp/~xkana/psycho/intro/intro_52/index.html>2010-1-13

16)芦原義信：続・街並みの美学, p.47, 岩波書店(1990)

17)ニシムラ：色の基本<<http://yu-nagi.net/piscis/color/index.htm>>2010-1-15

18)財団法人日本色彩研究所編：色彩と人間, 日本規格協会(1993)

第 2 章

実験・調査概要

第2章 実験・調査概要

2-1 「色彩参画」による景観形成実験

本研究では、景観形成実験イベントとして、地域住民が軒先に赤いものを飾る「百彩」というイベントと、学生が軒先に青い布を飾る「風彩」というイベントを実施した。

以下で、その概要について説明する。

2-1-1 「百彩」

この実験は、赤色を用いた「色彩参画」によって、住民が自宅の前に飾りつけを行うことで街路景観を形成し、街並みを捉えなおすことを目的としている。

「百彩」はこれまでに、2005年の『百彩創装』、2006年の『続・百彩』、2007年の『百彩2007!』、2008年の『百彩2008in高宮』、そして2009年の『百彩in高宮』というタイトルで、過去5回にわたり実施された。詳細を表2-1に示す。

表 2-1 「百彩」の開催概要

	2005	2006	2007	2008	2009
タイトル	百彩創装	続・百彩	百彩2007!	百彩2008in高宮	百彩in高宮
実施日	8月14日	8月13日	8月10日, 11日, 12日	8月9日, 10日	8月8日, 9日
対象地域	本町, 中町	本町, 中町, 七軒町, 宮町, 高橋町	本町, 中町, 七軒町, 宮町, 高橋町	本町, 中町, 七軒町, 宮町, 高橋町, 中北町, 大北町, 新町	本町, 中町, 七軒町, 宮町, 高橋町, 中北町, 大北町, 新町

街路の飾りつけは、地域住民による飾りつけと、2005年は小田¹⁾ら、2006年と2007年は迫間²⁾ら、2008年は松尾³⁾ら、2009年は筆者らによる飾りつけによって行った。地域住民による飾りつけは、各軒先に、家にある「赤いもの」を飾りつけることによって行った。このとき、『赤いもの』であればなんでも!!ご家庭にある『赤いもの』であれば何でも飾ってください。例)Tシャツ, 座布団, ポット, カサ, おもちゃ, 帽子, 人形, エプロン, ハンカチなど」と依頼文を対象地域の各家庭に配り、色だけを指定し、飾るものや飾る数は指定せず、自由に飾るように指示した。これは、地域住民が自由に飾りつけを行えるようにすることで、多くの地域住民が容易に実験へ参画できるようにすることと、より主体的に実験へ参画できるようにすることを狙いとしている。これらの指示などの条件はどの年においても同一である。

今回の実験は、平成21年8月9日に彦根市高宮町で開催された『2009 サマーフェスティバル in たかみや』の一環として行った。『中山道高宮宿の夏まつりサマーフェスティバル in たかみや』とは、8月第2日曜日に開催される夏まつりで、高宮連合自治会が主催となり、各種団体組織も多く参加しているイベントである。なお実験は、第2日曜とその前日の土曜に実施した。

実験においては、「色彩参画」によって街路に飾りつける色は「赤」と定めた。これは、

昔の高宮の建築物にベンガラ色という赤に近い色の塗装が多かったこと、江戸時代の彦根城主である井伊直政の「井伊の赤備え」など彦根市の歴史的な色が「赤」であること、「色彩参画」による景観形成実験は高宮町の夏祭りと同時に行うため祭りの雰囲気を害さないことが理由である。

今回の実験の飾りつけた様子を、図 2-1、図 2-2、図 2-3 に示す。



図 2-1 「百彩」で街路を飾りつけた様子



図 2-2 「百彩」で軒先を飾りつけた様子①



図 2-3 「百彩」で軒先を飾りつけた様子②

2-1-2 「風彩」

この実験は、青色の布を学生が街路に飾りつけを行うことで、街路景観を形成し、市民が街並みを捉えなおすことを目的としている。

実験は、平成 21 年 8 月 23 日に彦根市高宮町高宮寺で開催された『高宮寺地蔵祭り』の一環として行った。

実験において飾りつけるものは「青色の布」と定めた。これは、高宮に古くからある高宮布をイメージし、市民にとってより馴染みの深いものを飾ることで、「百彩」とはどういった印象の違いを抱くかを調査するためである。高宮布については、「2-1-3 高宮布について」で説明する。

今回の実験の飾りつけた様子を、図 2-4、図 2-5、図 2-6 に示す。



図 2-4 「風彩」で街路を飾りつけた様子



図 2-5 「風彩」で軒先を飾りつけた様子①



図 2-6 「風彩」で軒先を飾りつけた様子②

2-1-3 高宮布について ⁴⁾⁵⁾⁶⁾

「風彩」での飾りつけは、高宮に古くからある高宮布をイメージしたものである。

高宮布(図 2-7)とは、湖東で生産された麻布で、江戸時代には高宮の間屋に運ばれ、そこから全国に運ばれた。そのため、高宮布という名で知られている。高宮は麻布の生産地であると同時に、販売、流通の一大拠点でもあった。特に、流通に関しては 18 世紀後半では、最も錚々たる布惣では、7つの倉庫いっばいに集荷された製品が全て出荷する。それが年に 12 回繰り返さなければ平年ではないというほどであった。



図 2-7 高宮布 ⁶⁾

起源は、鎌倉時代中期に京都から移り住んだ職人によって伝授されたとされている。江戸時代に高宮が彦根藩になると、藩主井伊家は高宮布を将軍への定式献上品としたため、産業として安定するようになる。しかし、昭和に入り、男性の服装の洋装化が進み、需要が急減した。そのため女物着尺への重点移行を開始した。現在は、手づくりの伝統技法を守りながらも大半が機械化された工場で生産されている。

原料の仕入れから製品の販売に至るまでの過程としては、原料の買入を行う元仕入れ屋、一定の区域内の織屋への分売を行う仕入屋、製織を行う織屋、買取を行う仲買という流れがあった。

しかし、現在では、生産・販売・仲通もかつてのような産地問屋が消え、専門商社を通し、百貨店や呉服屋に流れている。

伝統技法としては、原則は生平もしくは緋という手織の平織に大別され、緋はさらに縮と平に分けられる。生平は座布団地や帯、法衣などに用いられる。緯糸に大麻糸を水に浸したものを、経糸に苧麻糸を使い「居座機」で織るなどが条件となる。緋は盛夏用着物が中心で、糸を先に染めてから織る。経緯両方にかすり糸のかすり及び耳を手作業で柄合わせ、耳合わせを行い、緋模様を出すものである。また、染色には羽定規を用いる。「櫛押捺染(図 2-8)」もしくは「型紙捺染(図 2-9)」という櫛押捺染技法による櫛押緋がはじまりである。これらの技法は、独自の伝統技法として継承されている。

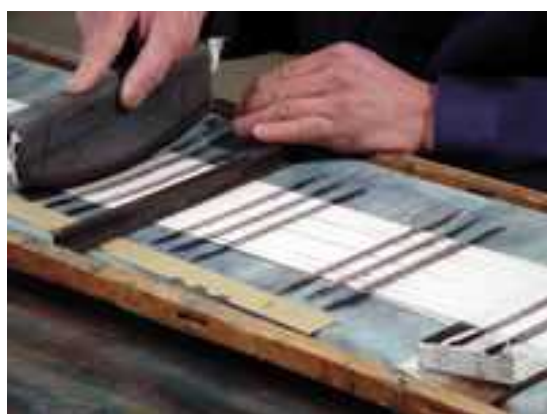


図 2-8 櫛押捺染⁷⁾



図 2-9 型紙捺染⁷⁾

2-2 実験対象

2-2-1 調査対象地域概要

高宮町は、滋賀県の湖東地方、彦根市の西の端に位置し(図 2-10)、平成 21 年 11 月末現在、2828 世帯、人口 6882 人(男: 3620 人 女: 3262 人)の町である⁸⁾。

現在の高宮町は江戸時代には近江国犬上郡高宮町であった。中山道六十七宿の六十四宿目と言われた、歴史ある町である。高宮宿の発足は寛永 13 年であり、そこから幕末まで 230 年間、代々高宮宿の間屋家で脇本陣を兼務していた。一般に、一宿は一村から成立しており、高宮においてもそうであった。宿泊施設にあたる旅籠屋のうち最大のものを本陣、それに次ぐものを脇本陣と呼び、高宮宿では、本陣は 1 軒、脇本陣は 2 軒であった。また、一般の旅籠屋は天保 13 年には計 23 軒あった。

高宮町となったのは大正元(1912)年に行われた町制の施行である。それまでは、明治 4(1871)年に制定された区制の区分で、「第十三区三箇村高宮村猿木村呉竹村」となっており、隣村近郷と一区をなしていた。1912 年の町制により、「滋賀県犬上郡高宮町」となった。

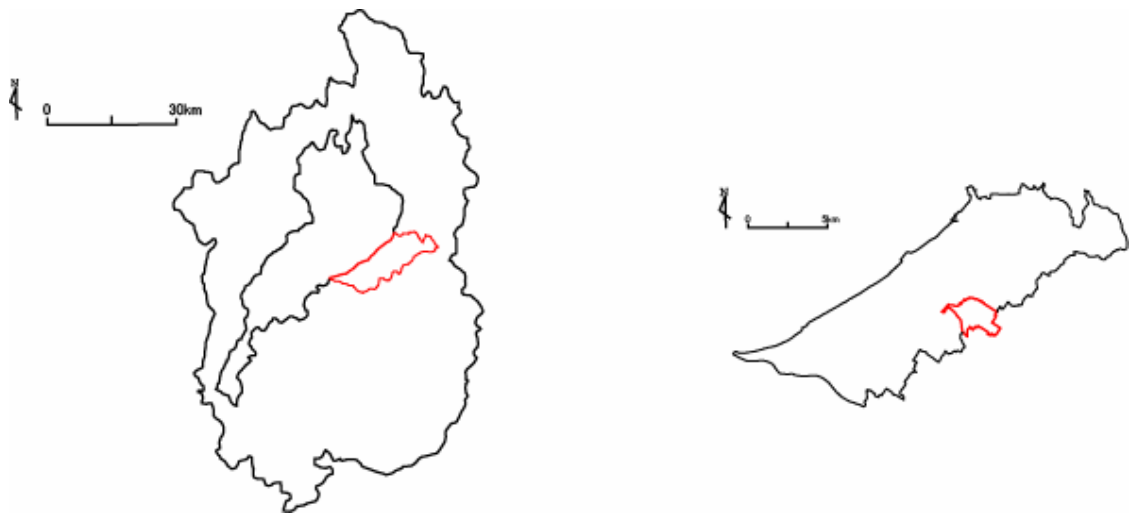


図 2-10 彦根市，高宮町の位置

本調査の実験を行う地域は，旧中山道の宿場町として栄えた歴史ある地域である。その趣は現在も残っており，歴史ある建物と現代の建物が連なって建つ商店街となっている。

現在では，高宮学区街づくり推進委員会の設置や高宮学区文化協会の新設・中山道高宮宿拠点事業実行委員会・“いっしょにやろうかい”の会・太鼓の会等々の組織づくりが進められ各面で目的をもって積極的に活動されている⁹⁾。

2-2-2 実験調査対象者概要

「百彩」の実験対象者は，実験を行う地区に家を持つ地域住民となっている。2005 年では，本町と中町に家を持つ地域住民。2006 年と 2007 年では，本町，中町，七軒，高橋，宮町に家を持つ地域住民，2008 年と 2009 年では，本町，中町，七軒，高橋，宮町，中北，大北，新町に家を持つ地域住民である。高宮町の住民であっても，これらの地区に居住していない場合は実験の対象者とししない。

「風彩」の実験対象者は，実験を行う新町に家を持つ地域住民となっている。

それぞれの実験対象地域を，図 2-11 に示す。

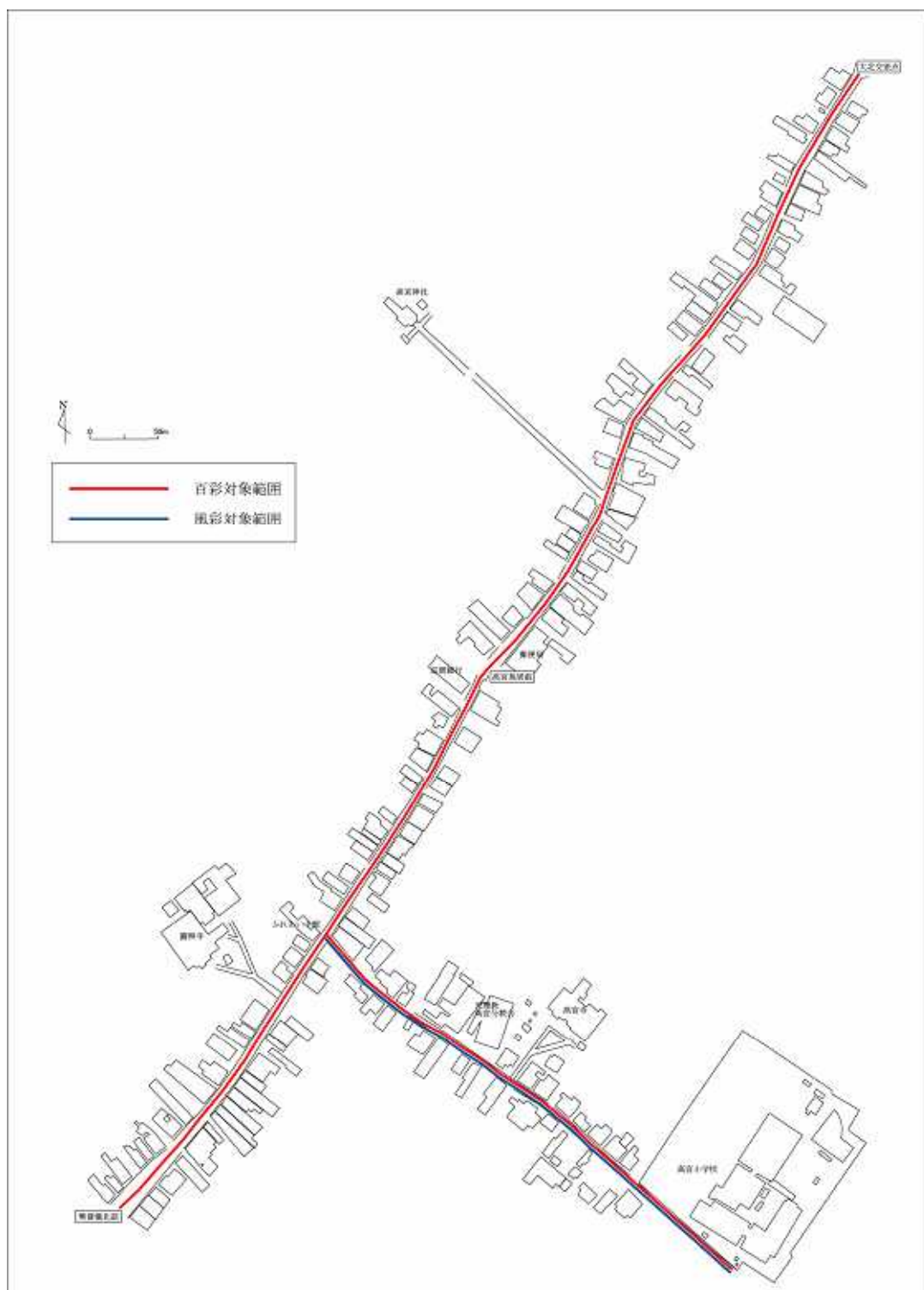


図 2-11 実験対象地域

「百彩」の調査対象者は、実験対象者でもある地域住民、飾りつけに参加した学生、飾りつけた街並みを見ていない学生である。飾りつけに参加した学生は地域住民以外の立場ではどういった違いがあるのかを明らかにするために、飾りつけた街並みを見ていない学

生は実際には見ずに、写真によるイメージではどのような印象があるのかを比較するために、調査を実施した。

また、調査対象により質問内容が異なる。詳細は、表 2-2 の通りである。

表 2-2 「百彩」のアンケート対象と調査項目

		2005	2006	2007	2008	2009		
調査対象		住民	住民	住民	住民	住民	学生	学生 イメージ調
調査項目	参画度に関する項目	○	○		○	○	×	×
	街路景観イメージに関する項目	○	○		×	○	○	○
	街並みをイメージする色に関する項目	○	○		○	○	○	×
	街並みへの関心に関する項目	○	×		×	○	×	×

網掛けの項目は調査に関係しないこと、×はその項目の調査を行わなかったことを表す。調査項目の詳細については、「2-4 地域住民の景観イメージに関するアンケート調査」にて述べる。

飾りつけに参加した学生には、住民へのアンケートと同じく事後に記入を依頼した。見えていない学生には、飾りつけた様子の分かる写真 (図 2-12) を付けたアンケートを配布し、そのイメージについて記入を依頼した。

赤いものを飾りつけた街並みの様子



図 2-12 「百彩」アンケートに配布した写真

「風彩」の調査対象者は、実験対象者でもある地域住民、実験該当地域外に居住する地域住民、飾りつけを見ていない学生である。実験該当地域外に居住する地域住民は、同じ地域住民といってもどのような違いがあるのかを明らかにするため、飾りつけた街並みを見ていない学生はイメージではどのような印象があるのかを比較するために、調査を実施した。

また、調査対象により質問内容が異なる。詳細は、表 2-3 の通りである。

表 2-3 「風彩」のアンケート対象と調査項目

調査対象		事後調査	イメージ調査	イメージ調査 (学生)
調査項目	街路景観イメージに関する項目	○	○	○
	街並みをイメージする色に関する項目	○	○	×
	街並みへの関心に関する項目	○	○	×

×はその項目の調査を行わなかったことを表す。調査項目の詳細については、「2-4 地域住民の景観イメージに関するアンケート調査」にて述べる。

事後調査の回収数が少なかったため、調査地域以外の地域の方にイメージ調査を依頼した。依頼対象は、高宮寺地蔵祭り実行委員会の方と、高宮で業種を越えて親睦を図る「いっしょにやろう会」の会員の方である。高宮寺地蔵祭り実行委員会の方は、「風彩」の対象地域に居住でない場合もあるが、実験に関わりがある。いっしょにやろう会は、高宮布のれんをつくるなど、高宮布への関わりある。それぞれ、実験に対しての関わりがあるため、調査を依頼した。

イメージ調査では、飾りつけた様子の分かる写真(図 2-13)を付けたアンケートを配布し、記入をお願いした。

青い布を飾りつけた街並みの様子



図 2-13 「風彩」アンケートに配布した写真

2-3 実験・調査の流れ

本研究で扱う実験・調査の流れを表 2-4、表 2-5 に示す。

本研究では、「色彩参画」による景観形成実験を継続すること及び飾りつける色による影

響を明らかにするために、ふたつの実験後にそれぞれアンケート調査を行う。また、以前までの調査結果からどのような変化があったのかを明らかにするため、小田、迫間、松尾の調査結果¹⁾²⁾³⁾も参考にする。

本研究の調査結果及び先行研究における調査結果から、調査対象者の抱く街並みに対する景観イメージの変化及び色による影響を明らかにする。

表 2-4 「百彩」の実験・調査の流れと対象者の動き

	実施日	実験の流れ	調査の流れ	調査対象者の作業
説明日	7月28日	実験への調査依頼 実験内容説明	アンケート配布 アンケート調査依頼・説明	
実験日	8月8日, 9日	景観形成実験開始		街路の飾りつけ(参画者) アンケート記入
回収日	8月17日		アンケート調査票回収	

表 2-5 「風彩」の実験・調査の流れと対象者の動き

	実施日	実験の流れ	調査の流れ	調査対象者の作業
説明日	8月17日	実験への調査依頼 実験内容説明	アンケート配布 アンケート調査依頼・説明	
実験日	8月23日	景観形成実験開始	街路の飾りつけ	アンケート記入
回収日	8月31日		アンケート調査票回収	

2-4 地域住民の景観イメージに関するアンケート調査

2-4-1 調査概要

本研究では、調査対象者の抱く景観イメージを把握するため、実験を行った後にアンケート調査を行った。本研究における景観イメージとは、対象地域の街並みの雰囲気を目指す。

景観イメージに関するアンケート調査項目は、SD 法(Semantic Differential method)を用いた景観イメージに関する項目からなる。詳細は「2-4-2 街並みの景観イメージに関するアンケート調査項目」にて述べる。

なお、アンケート調査票の内容は、「2-4-4 実験への関心に関するアンケート調査」の項目を除き、「百彩」・「風彩」共に同じである。「風彩」では、住民は飾りつけに参加しないため、実験の参加度などの項目については省いている。

2-4-2 街並みの景観イメージに関するアンケート調査項目

本研究では、街路に色を飾ることによる景観形成実験を行うことによる調査対象者の抱く景観イメージを把握するために、SD 法を用いた街並みの景観イメージに関するアンケート項目を用意した。SD 法とは、「空間の<雰囲気>のような全体的な心的反応を、用意した多くの評定尺度上の量として回答してもらう方法」¹⁰⁾である。

街並みの景観イメージに関するアンケート項目を図 2-14 に示す。

本研究では、SD 法による景観イメージ調査を、「色彩参画」による景観形成実験後に行うことによって、「色彩参画」が景観イメージに与える影響を調査する。本研究で用いる 20 対の形容詞による評価尺度は、「色彩参画」による景観形成実験によって変化すると予想される、街並みの活気、統一感及び街並みへの親近感のイメージに関する形容詞対を考慮しつつ、景観のイメージを基に研究を行っている既往研究を参考に選定した。

なお、街並みの景観イメージに関するアンケート調査項目は、「色彩参画」の既存研究のうち、小田¹⁾、迫間²⁾の調査項目に共通して含まれているアンケート項目である。小田¹⁾は、このアンケート調査項目を景観形成実験の前後に行い、比較をすることで景観形成実験イベントにより街路景観のイメージがどのように変化したのかを分析した。迫間²⁾は、同様に景観形成実験の前後に調査を行い、小田¹⁾の調査結果とどのような変化が表れたかについて分析した。

	非常に	かなり	やや	でもない どちら	やや	かなり	非常に	
疎遠な								身近な
質素な								華やかな
古い								新しい
殺風景な								趣のある
複雑な								単調な
活気のある								活気のない
落ち着く								落ち着かない
派手な								地味な
バラバラな								連なった
暗い								明るい
静かな								騒がしい
暖かい								冷たい
緊張した								安らいだ
閉鎖的な								開放的な
伝統的な								進歩的な
整った								乱雑な
特徴的な								一般的な
嫌いな								好きな
親しみやすい								親しみにくい
さびしい								にぎやかな

図 2-14 街並みの景観イメージに関するアンケート調査項目

2-4-3 景観認識に関するアンケート調査

本研究では、景観形成実験を行うことによる調査対象者の景観認識の変化を明らかにするために、景観認識に関するアンケート調査項目を用意した。景観認識に関するアンケート調査は、街並みをイメージする色に関する調査項目と街並みへの関心に関する調査項目からなる。

なお、街並みをイメージする色に関する調査項目は、小田¹⁾、迫間²⁾、松尾³⁾の調査と、街並みへの関心に関する調査項目は小田¹⁾、迫間²⁾の調査と共通して含まれているアンケート調査項目である。

本研究では、調査対象者の景観における色と景観への意識の関連を、街並みをイメージする色に関する調査項目から明らかにしていく。

街並みをイメージする色に関する項目は、街並みをイメージする色とその理由を回答する形式とした。これにより、調査対象者の景観認識を理由とともに色で把握することができる。また、先行研究結果と比較して、今回の調査ではどのような変化がみられたかを分析することで、「色彩参画」による景観形成実験が街路景観における色に対してどのような影響を与えているのかを明らかにしていく。

街並みへの関心に関する項目への回答形式は、関心のある景観要素とその理由を自由に記述する形式で調査を実施した。これは、調査対象者の回答する街並みの景観要素をあらかじめ予測することが不可能であること、自由記述形式にすることで多様な回答を得られることを期待した、という小田¹⁾の調査によるものである。なお、本研究ではこの項目の調査結果を分析には用いなかった。

街並みをイメージする色に関する項目を表2-6に、街並みへの関心に関する項目を表2-7、表2-8に示す。

表2-6 街並みをイメージする色に関する項目

内容	街並みをイメージする色
質問	高宮の街並みでイメージする
方法	自由記述
記述内容	色、理由

表2-7 街並みへの関心に関する項目①

内容	街並みへの関心(選択)
質問	高宮の街並みで変えたい場所、守りたい場所がありますか？
方法	一つ選択
記述内容	ある
	ない
	その他()

表2-8 街並みへの関心に関する項目②

内容	街並みへの関心(自由記述)
質問	高宮の街並みで変えたい場所、守りたい場所がありますか？
方法	自由記述
記述内容	場所、理由

2-4-4 実験への関心に関するアンケート調査

本研究では、景観形成実験への関心と景観イメージの関係、景観認識との関係を明らかにするため、実験への関心に関するアンケート調査項目を用意した。実験への関心に関す

るアンケート調査は、実験への参加度に関する項目からなる。

参加度に関する項目を、表2-9、表2-10に示す。

表2-9 実験への参加度に関する項目①

内容	実験への参加度(選択)
質問	今年、赤いものを軒先に飾っていただけましたか？
方法	一つ選択
記述内容	飾った
	飾らなかった
	その他()

表2-10 実験への参加度に関する項目②

内容	実験への参加度(自由記述)
質問	どこに何を飾られましたか？
方法	自由記述
記述内容	飾ったもの、数、飾った場所

参考文献

- 1)小田憲治, 近藤隆二郎: 市民による「色彩参画」と街並みの景観イメージとの関係に関する研究, 都市計画. 別冊, 都市計画論文集, 41(3), 511-516(2006)
- 2)迫間勇人: まちの開示に見るコミュニティの結合効果に関する研究, 滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻学士論文 (2006)
- 3)松尾清: 装飾物の変遷から見た「百彩」の日常的景観マネジメントとしての可能性, 滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻学士論文(2009)
- 4)江頭恒治: 高宮布考, 彦根論叢(61)1-17 (1959)
- 5)川村隆一: 近江上布, 繊維と工芸(61)249-252(2005)
- 6)渡邊弘人: 犬上郡誌・高宮町史, 明文堂印刷所(1986)
- 7)湖東繊維工業共同組合: 伝統技法<<http://www.biwa.ne.jp/~kotosen/>>, 2010-1-18
- 8)彦根市: データ<<http://www.city.hikone.shiga.jp/>>, 2009-12-12
- 9)記念事業実行委員会: 高宮の軌跡, p.37, つくし出版印刷, (2002)
- 10)日本建築学会編: 建築・都市計画のための調査・分析方法, 井上書院(1994)

第 3 章

研究方法

第3章 研究方法

3-1 分析の流れ

本研究の分析の流れを図 3-1 に示す。

本研究では、街路に「色」を飾るといった景観形成手法が、景観への印象やイメージする色にどのような影響を与えるのか、また経年変化がどのように起こるのかについて明らかにするため、下記の流れに沿って分析を行う。

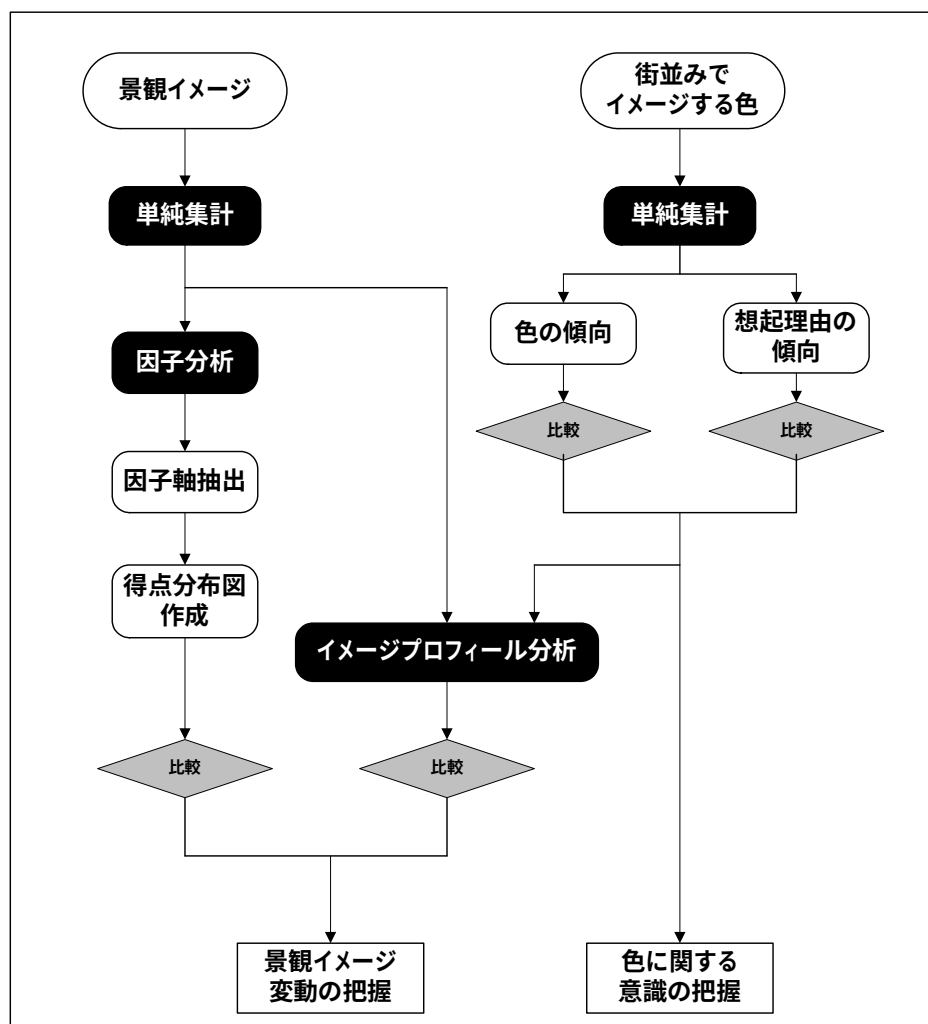


図 3-1 研究の流れ

調査対象者の景観イメージを把握するために、「2-4-2 街並みの景観イメージに関するアンケート調査項目」で述べたアンケート項目(図 2-13 街並みの景観イメージに関するアンケート調査項目)の結果を基に、単純集計(3-2-1 イメージプロフィールによる街並みの景観イメージ構造の分析及び比較)による分析を行い、イメージプロフィールを作成、

プロフィール分析を行う。単純集計によって得た結果を基に因子分析(3-2-2 因子分析による街並みの景観イメージ構造の分析及び比較)を行い、景観イメージの変動の波形パターンの抽出、調査対象者の景観イメージ構造を明らかにする。

調査対象者の景観における色のイメージを把握するために、「2-4-3 景観認識に関するアンケート調査」で述べた、イメージする色の項目(表 2-6 街並みをイメージする色に関する項目)の結果を基に、単純集計(3-3 街並みをイメージする色の分析)による分析を行う。その後、イメージする色についての理由について分類を行い、イメージプロフィールを作成する。そこから、理由ごと、時期ごとの比較を行う。これらの分析によって、景観における色のイメージを明らかにする。

全ての分析を終えた後、景観イメージと景観における色のイメージの関係を明らかにする。

3-2 街並みの景観構造の分析

3-2-1 イメージプロフィールによる街並みの景観イメージ構造の分析及び比較

調査対象者の景観イメージを把握するため、景観イメージに関するアンケート項目への回答を基に分析を行う。

ここでは、「2-4-2 街並みの景観イメージに関するアンケート調査項目」で述べたアンケート項目(図 2-13 街並みの景観イメージに関するアンケート調査項目)への回答結果を基に、単純集計を行う。得られた数値を基にグラフを作成する。これをイメージプロフィールと呼ぶ。イメージプロフィールとは「サンプルごとの平均値をプロットしたもの」¹⁾である。イメージプロフィールを用いた分析は、「プロフィール分析といい、対象の評価の特性を検討する材料となる」¹⁾。つまり、イメージイメージプロフィールを基に分析することにより、対象の評価の特性を明らかにすることが出来る。

本研究では、単純集計で得た結果を用いてイメージプロフィールを作成し、調査年及び色の違いのイメージプロフィールの変動の比較によって考察を行い、そこから実験の回数を重ねること、飾る色の違いによる街路景観イメージの変動を把握する。

3-2-2 因子分析による街並みの景観イメージ構造の分析及び比較

街路景観イメージに関するアンケート項目への回答を基に因子分析による分析を行う。因子分析とは「複数の量的データの測定値に共通する変動(因子)を取り出す統計手法」³⁾である。

本研究では SD 法を用いた景観イメージ調査を行う。SD 法によるイメージ調査は「空間の<雰囲気>のような全体的な心理反応を、多くの評定尺度の量として回答してもらう方法である。(中略)数学的处理(因子分析)を施してこれを整理する。もしその結果、 n 個の項目(尺度)で代表させることが適当であることが分かったら、実際の 3 次元の空間(物理的空間)は、 n 次元の心理的空間上の点として、定量的に表現されたこととなる」⁴⁾。

また、「SD 法で多数の評価尺度(形容詞対)によって測定されたデータを因子分析することによって、いくつかの類似特性を持つ評価言語を統合して共通因子として抽出し、その因子の意味を解釈することによって、対象の評価を測定する代表的な評価軸を明らかにすることができる」⁵⁾。

以上から分かるように、景観イメージの調査手法として SD 法を採用した場合、調査によって得た言語尺度の評定値のデータを基にして、景観イメージを表現するための代表尺度を得るために因子分析を行う必要がある。

本研究では、対象地域の街路景観イメージ構造を把握するために、「2-4-2 街並みの景観イメージに関するアンケート調査項目」で述べたアンケート項目(図 2-13 街並みの景観イメージに関するアンケート調査項目)の結果を用いて因子分析を行う。因子分析後は、潜在的な共通因子として抽出された各軸を解釈し、ネーミングを行う。また、各調査対象者に与えられた因子得点を基に、因子得点分布図を作成し、その傾向を把握する。

3-3 街並みをイメージする色の分析

3-3-1 イメージする色及び想起理由に関する単純集計

調査対象者の景観の色に対する意識を明らかにするため、街並みをイメージする色の項目への回答結果の単純集計を行う。

ここでは、「2-4-3 景観認識に関するアンケート調査」で述べたアンケート項目(表 2-6) 街並みをイメージする色に関する項目)への回答結果を基に、記述内容、想起理由を集計及び分類を行うことによって、街並みをイメージする色の傾向と特徴を把握する。

回数を重ねること及び色の違いによる傾向と特徴の違いを明らかにすることで、イメージする色から分かる景観への意識とその変化や違いについて把握する。

また、想起理由の分類については表 3-1 の通りである。

表 3-1 想起理由の分類

分類名	理由	具体例
現状	高宮の状態やものなどから	古い街並み・車通り 高宮布 など
イメージ	想起した色のイメージのもの	赤色：活気がある 灰色：沈んでいる など
自然	琵琶湖、犬上川など 自然により想起したもの	琵琶湖・犬上川 松並木 など
百彩	景観形成実験イベントによる 影響があったと考えられるもの	その日は赤が目についた など
他	その他	好きな色 など
なし	記述が無かったもの	

3-3-2 想起理由に関するイメージプロフィール分析

ここでは、「2-4-3 景観認識に関するアンケート調査」で述べたアンケート項目(表 2-6 街並みをイメージする色に関する項目)への回答結果を基に、想起理由の集計及び分類を行い、同一サンプルの「2-4-2 街並みの景観イメージに関するアンケート調査項目」で述べたアンケート項目(図 2-1 街並みの景観イメージに関するアンケート調査項目)の結果から、イメージプロフィールを作成する。分類ごと及び調査時期ごと比較及び考察を行うことによって、街並みに対する意識の傾向と特徴を把握する。

ここで得る結果と、前述の街並みの景観イメージ構造の分析結果を基に考察を行い、街路における色彩の意識と「色彩参画」の関係性を明らかにする。

参考文献

- 1) 杉原健一・松島桂樹：コミュニティにおける情報開示および合意形成を図る GIS ベースの 3 次元仮想都市の構築，情報文化学会全国大会講演予稿集，7，pp.75-78(1999)
- 2) 土田昭司：社会調査のためのデータ分析入門，p.137，有斐閣(1998)
- 3) 日本建築学会編：建築・都市計画のための調査・分析方法，p.65，井上書院(1994)
- 4) 盛山和夫・他：社会調査法，p.111，財団法人放送大学教育振興会(1996)
- 5) 土田昭司：社会調査のためのデータ分析入門，p.70，有斐閣(1998)

第 4 章

景観イメージ構造に関する調査結果

第4章 景観イメージ構造に関する調査結果

4-1 調査実施概要

4-1-1 「百彩」の調査概要

「色彩参画」による景観への意識の変化を明らかにするため、地域住民に対して、小田¹⁾が行った調査と同じ形式でのアンケート調査を行った。また、地域に関わりのない立場からの意識を明らかにするため、学生に対してのアンケート調査を行った。

アンケート調査と項目についての詳細を表4-1に示した。

表4-1 「百彩」のアンケート対象と調査項目

		2005	2006	2007	2008	2009	
調査対象		住民	住民	住民	住民	住民	学生 学生イメージ調
アンケート総回収数/総配布数		168/270	66/150		74/120	49/120	13/13 27/27
事前アンケート回収数/配布数		100/132	33/75				
事後アンケート回収数/配布数		68/138	33/75		74/120	49/120	13/13 27/27
実験参加世帯数		46世帯	55世帯	57世帯	119世帯	87世帯	
実験不参加世帯数		31世帯	43世帯	41世帯	64世帯	72世帯	
調査項目	参画度に関する項目	○	○		○	○	×
	街路景観イメージに関する項目	○	○		×	○	○
	街並みをイメージする色に関する項目	○	○		○	○	×
	街並みへの関心に関する項目	○	×		×	○	×

網掛けの項目は調査に関係しないこと、×はその項目の調査を行わなかったことを表す。

4-1-2 「風彩」の調査概要

「百彩」とどのような違いがあるのかを把握するため、「百彩」と同じ形式のアンケート調査を行った。また、地域に関わりのない立場からの意識を明らかにするため、学生に対してのアンケート調査を行った。

アンケート調査についての詳細を表4-2に示した。

表4-2 「風彩」のアンケート対象と調査項目

調査対象		事後調査	イメージ調査	イメージ調査 (学生)
アンケート総回収数/総配布数		7/14	14/45	27/27
事前アンケート回収数/配布数			14/45	
事後アンケート回収数/配布数		7/14	14/45	27/27
調査項目	街路景観イメージに関する項目	○	○	○
	街並みをイメージする色に関する項目	○	○	×
	街並みへの関心に関する項目	○	○	×

網掛けの項目は調査に関係しないこと、×はその項目の調査を行わなかったことを表す。

4-2 「百彩」における装飾数の変化

「百彩」のアンケート調査項目の参画度に関する項目より、参加者の割合・飾りつけたものの数や種類についてまとめたものを表 4-3 に示す。なお、2007 年の「百彩」ではアンケート調査を行っていないため、表には載せていない。

表 4-3 飾りつけへの参加の変化

	装飾物数 合計	装飾物数 平均	種類平均
2005	347	11.19	3.81
2006	189	7.88	3.83
2008	489	9.06	3.81
2009	256	6.1	3.53

表 4-3 及び表 4-1 の実験参加世帯数より、飾りつけの参加の割合・参加度共に年度を経るごとに減少していることが分かる。

なお、2008 年の実験では松尾³⁾らによって、空き地や飾りのない空き家に赤い動物が飾られているのに対し、本研究の実験ではそれが行われていない。

4-3 因子分析による街並みの景観イメージ構造に関する分析結果

4-3-1 因子の抽出

街並みの景観イメージ構造を把握するため、分析対象とする全てのアンケート票の SD 法を用いた街並みの景観イメージに関するアンケート項目について、因子分析を行った。因子分析は因子抽出法として主因子法、回転はバリマックス回転を採用した。因子分析の結果、各形容詞対の共通性を表 4-4 に示す。

因子分析の結果、得られた因子の固有値、累積寄与率を表 4-5 に示す。表を見ると、固有値が 1.0 を越えている因子は第 2 因子までである。そのため、第 2 因子までを採用する。

表 4-4 各形容詞対の共通性

変数名	初期値	推定値
疎遠な－身近な	0.3671	0.3643
質素な－華やかな	0.5818	0.5894
古い－新しい	0.5165	0.4614
殺風景な－趣のある	0.4991	0.5106
複雑な－単調な	0.1071	0.0666
活気のある－活気のない	0.4937	0.5109
落ち着く－落ち着かない	0.3639	0.3664
派手な－地味な	0.6617	0.6922
バラバラな－連なった	0.4349	0.4112
暗い－明るい	0.6814	0.7026
静かな－騒がしい	0.3877	0.3398
暖かい－冷たい	0.4680	0.4014
緊張した－安らいだ	0.4611	0.5038
閉鎖的な－開放的な	0.5860	0.5955
伝統的な－進歩的な	0.4352	0.4022
整った－乱雑な	0.3620	0.2987
特徴的な－一般的な	0.3274	0.3521
嫌いな－好きな	0.4689	0.4925
親しみやすい－親しみにくい	0.3695	0.3776
さびしい－にぎやかな	0.5346	0.5495

表 4-5 因子分析による固有値と累積寄与率

因子№	固有値	寄与率	累積寄与率
因子№ 1	5.19176840	25.96%	25.96%
因子№ 2	3.03713484	15.19%	41.14%
因子№ 3	0.75977535	3.80%	44.94%
因子№ 4	0.61512783	3.08%	48.02%
因子№ 5	0.31855274	1.59%	49.61%
因子№ 6	0.24200744	1.21%	50.82%
因子№ 7	0.13091006	0.65%	51.48%
因子№ 8	0.09249495	0.46%	51.94%
因子№ 9	0.06657958	0.33%	52.27%
因子№ 10	0.03752292	0.19%	52.46%
因子№ 11	0.00712896	0.04%	52.50%

4-3-2 因子の解釈

バリマックス回転後の第 1 因子と第 2 因子の因子負荷量を表 4-6 に示した。

表 4-6 バリマックス回転後の各因子の因子負荷量

変数名	因子№ 1	因子№ 2
暗い－明るい	0.83443422	0.04062720
閉鎖的な－開放的な	0.77086081	0.01471103
派手な－地味な	0.71810403	0.37617359
さびしい－にぎやかな	0.71535416	0.14069440
質素な－華やかな	0.67730004	0.30514869
殺風景な－趣のある	0.66316346	0.23679726
活気のある－活気のない	0.65209929	0.13264330
バラバラな－連なった	0.50739692	0.36019965
古い－新しい	0.49298593	0.36323248
暖かい－冷たい	0.48431844	0.39973038
特徴的な－一般的な	0.41816297	0.00261182
緊張した－安らいだ	0.08848249	0.68177791
落ち着く－落ち着かない	0.04582865	0.60286667
親しみやすい－親しみにく	0.30088373	0.52974325
伝統的な－進歩的な	0.25631331	0.52101700
静かな－騒がしい	0.25751696	0.52009386
嫌いな－好きな	0.45919202	0.50874028
疎遠な－身近な	0.21192938	0.48682369
整った－乱雑な	0.35577262	0.33394185
複雑な－単調な	0.15928947	0.16590940

因子の解釈については、因子負荷量の大きさを絶対値で判断したため、マイナスの数値は形容詞対の逆の意味に解釈した。

第1因子は、因子負荷量の高い値を示す形容詞対から、「華やかな」「新しい」「にぎやかな」「進歩的な」「明るい」といったキーワードが挙げられる。逆の意味となる形容詞対は、「質素な」「さびしい」「伝統的な」「暗い」といったキーワードが挙げられる。そのため、この因子を街並みの「明度」と解釈した。

第2因子は、因子負荷量の高い値を示す形容詞対から、「安らいだ」「好きな」「身近な」「落ち着く」といったキーワードが挙げられる。逆の意味となる形容詞対は、「緊張した」「嫌いな」「疎遠な」「落ち着かない」といったキーワードが挙げられる。そのため、この因子を街並みの「安らぎ度」を表している因子と解釈した。

4-4 飾りへの参加の形式による景観イメージの変化に関する分析結果

飾りへの参加の形式による街並みの景観イメージ構造を把握するため、SD法を用いた街並みの景観イメージに関するアンケート項目についてイメージプロフィールによる分析を行った。

4-4-1 回数を重ねること及び参加の有無による景観イメージの変化に関する分析結果

分析対象とするアンケート調査票のうち、2005年事前調査、2005年事後調査、2006年事後調査、2009年事後調査の街並みの景観イメージに関するアンケート項目について作成したイメージプロフィールを図4-1に示す。

また、本年度の実験では、2005年、2006年の実験よりも範囲が広がっている。そのため、5年続けて実験を行っている範囲は限られている。2005年事前調査、2005年事後調査、2006年事後調査及び5年続けて実験を行っている範囲内の2009年の事後調査の街並みの景観イメージに関するアンケート項目について、作成したイメージプロフィールを図4-2に示す。なお、2006年事後調査については実験参加者のデータのみであったため、事後調査については実験参加者のみのデータでイメージプロフィールを作成した。

それぞれの分析に用いたサンプル数は、表4-7の通りである。

表 4-7 回数を重ねることによる景観イメージの分析に用いたサンプル数

	2005年事前調査	2005年事後調査	2006年事後調査	2009年事後調査	2009年事後調査 (同一範囲内のみ)	合計
サンプル数	86	67	25	45	18	241

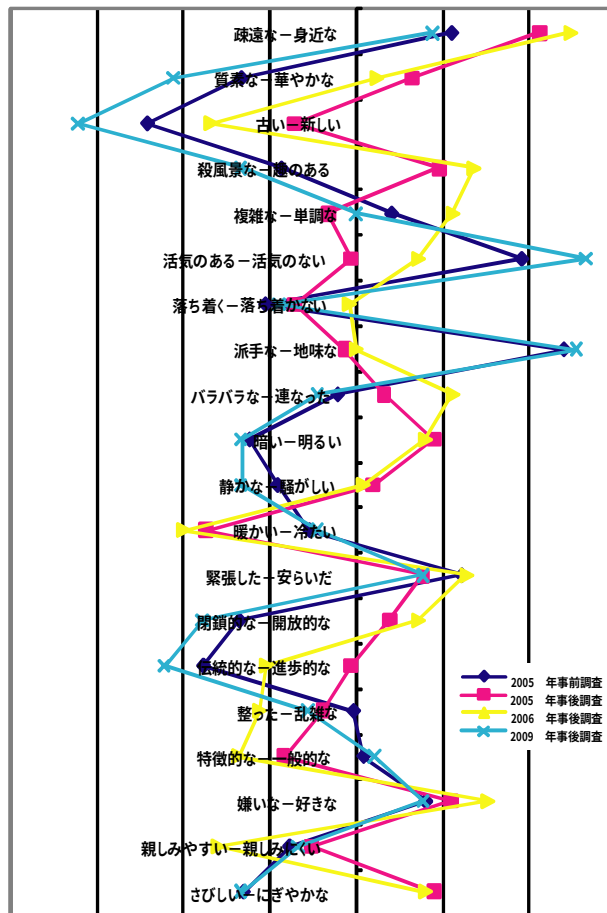


図 4-1 全体の景観イメージのイメージプロフィール

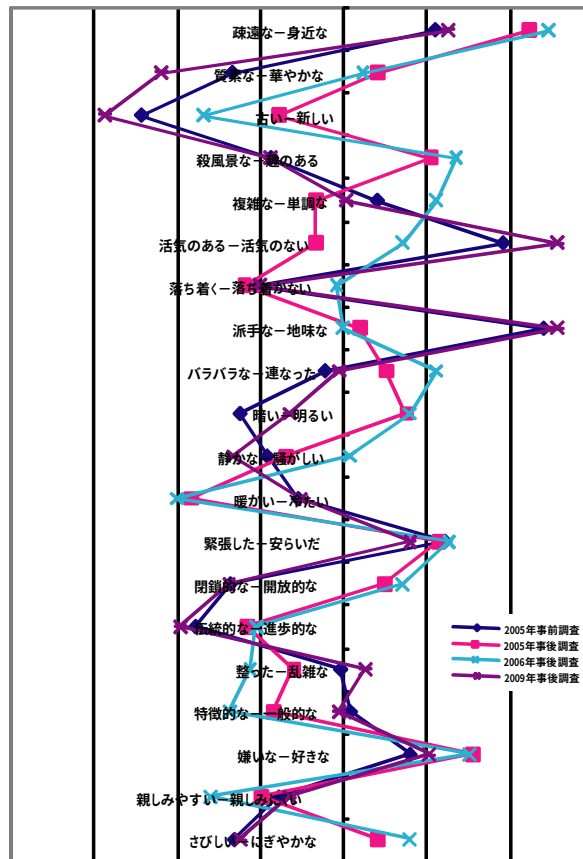


図 4-2 同一範囲内の景観イメージのイメージプロフィール

2005 年事前調査と 2009 年事後調査は似た結果となっている。また、2009 年事後調査結果の、「暗い—明るい」という項目について、同一範囲内では「暗い」という印象が強くなっている。実験の回数を経て、2008 年の実験だけでなくそれ以前の実験の様子とも比べ、より強く「暗い」という印象を持ったことが考えられる。

飾りつけの種類はあまり見られないが、数の減少や参加世帯数の減少から、飾りつけの「密度」や「連続性」が下がったことが考えられる。飾りつけた印象がそれまでよりも下がったこと、今までの盛り上がっているイメージの強さなどから、2009 年事後調査の結果が 2005 年の事前調査の結果と似たものとなったことが考えられる。

同様に、「活気のある—活気のない」の項目については、2009 年事後調査結果が「活気がない」に偏っている。それまでの景観形成実験により活気のある街並みを見慣れたことから、今回の参加度や飾りつけた様子を見て、それまでと比較し活気がなく感じられたことが考えられる。

2005 年事前調査、2005 年事後調査、2006 年事後調査、2009 年事後調査について、作成した因子得点分布図を図 4-3 に、それぞれの年ごとの因子得点分布図を図 4-4、図 4-5、図

4-6, 図 4-7 に示す。

「4-3-2 因子の解釈」で解釈した因子を基に分析を行った。

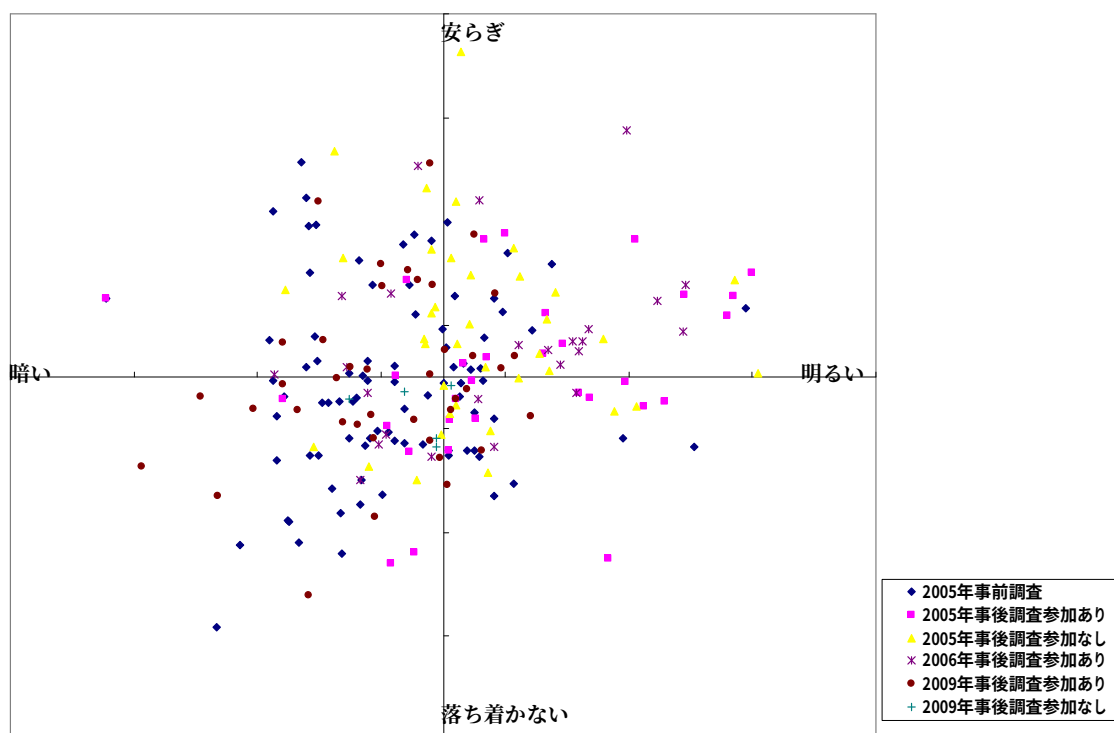


図 4-3 回数を重ねることによる景観イメージの因子得点分布図

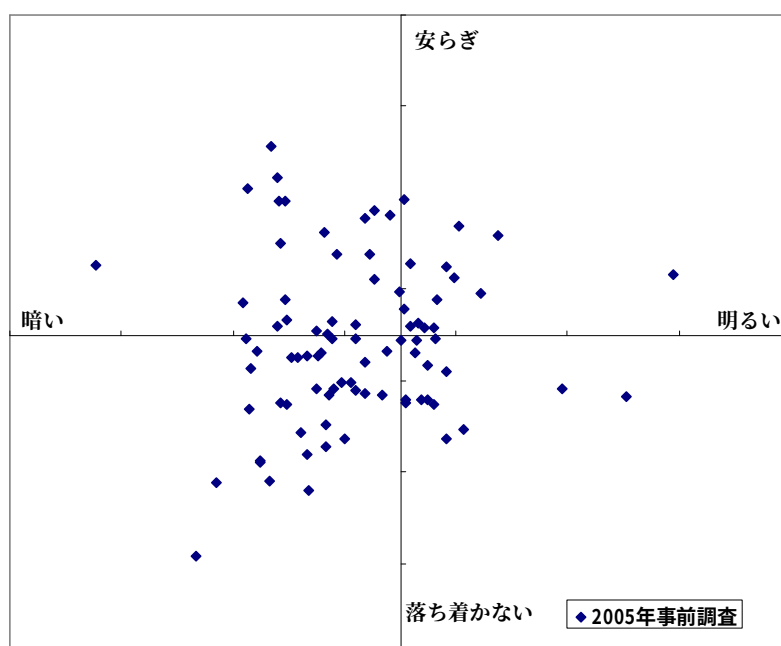


図 4-4 2005 年事前調査イメージ調査の因子得点分布図

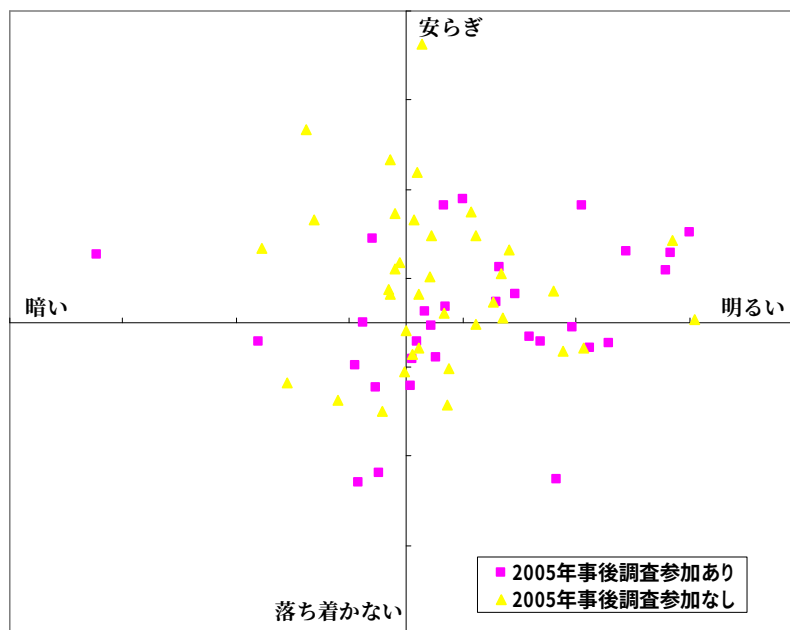


図 4-5 2005 年事後調査イメージ調査の因子得点分布図

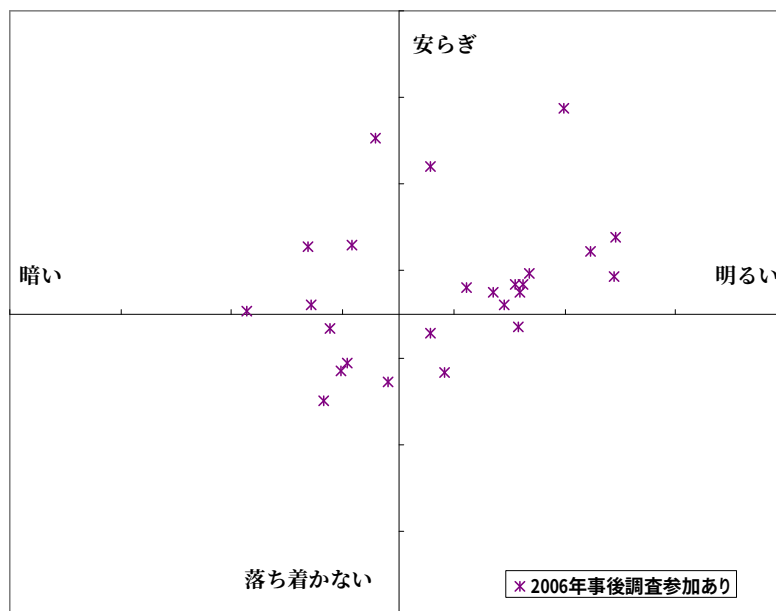


図 4-6 2006 年事後調査イメージ調査の因子得点分布図

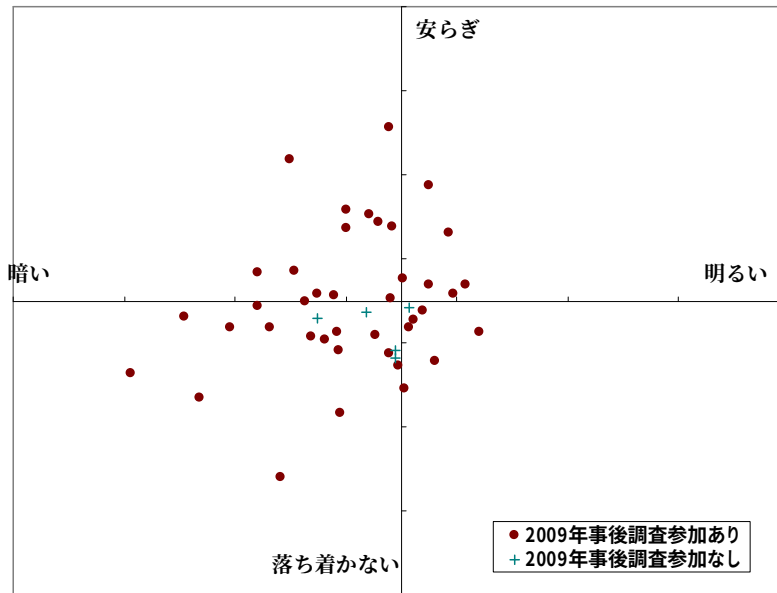


図 4-7 2009 年事後調査イメージ調査の因子得点分布図

2005 年事後調査、2006 年事後調査共に街並みに対して明度が高く、安らぎ度も高いという結果になっている。一方で、2009 年事後調査ではばらつきが大きい、2005 年事後調査及び 2006 年事後調査では見られなかった明度は低い安らぎ度は高いという傾向が、少ないながら見られる。

飾りの「密度」や「連続性」がそれまでの実験よりも低かったことから、自分が飾りつけることと街並みが明るく感じられることがつながらなかったということが考えられる。一方で、明度は低い安らぎ度が高いという傾向が見られたことから、街並みに対する安らぎ感は得られていることが考えられる。

街並みに対して「暗い」などの印象を持つことは、それまでの実験による活気への期待に対する反動であることが考えられる。また、飾りつけの数や目についた「赤」の少なさなどから 2009 年事後調査では実験前と変わらない印象を抱いたことが考えられる。

因子分析からは、飾りつけに参加した場合であっても、街並み全体の変化を感じないことが明らかになった。

迫間の研究では、『色彩参画』での景観イメージの変動は、実験後の一過性の効果である²⁾と述べている。しかし、分析結果より、実験を実施したからといって必ずしもイメージが変化するのではないことが考えられる。自分の手で軒先を飾りつけることで街並みの印象の変化を感じることがイメージの変動につながるものであり、飾りつけに参加したとしても街並みの印象の変化を感じられなければ、イメージの変動にはつながらないと考えられる。

4-4-2 立場の違いによる景観イメージの変化に関する分析結果

分析対象とするアンケート調査票のうち、2009 年事後調査、2009 年学生事後調査、学生イメージ調査の街並みの景観イメージに関するアンケート項目について作成したイメージプロフィールを図 4-8 に示す。

それぞれの分析に用いたサンプル数は、表 4-8 の通りである。

表 4-8 立場の違いによる景観イメージの変化の分析に用いたサンプル数

	2009年事後調査	学生 事後調査	学生 イメージ調査	合計
サンプル数	45	10	27	82

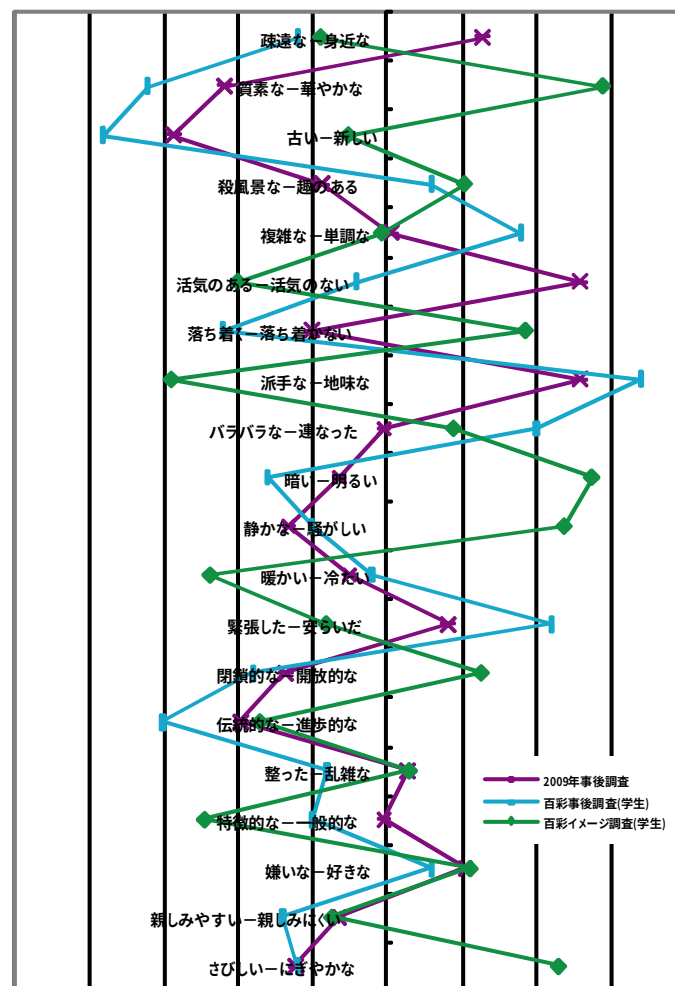


図 4-8 「百彩」における立場の違いに関するイメージプロフィール

同じ学生という立場でも、実際に見ていないイメージ調査に回答している学生は「華やかな」「派手な」「明るい」「騒がしい」「にぎやかな」などの印象を持っているのに対し、

実際に飾り付けた学生はそれらの項目でそういった印象を持っていない。イメージ調査では、連続感は分かりにくいものであったため、「赤いものを飾った」ということによる影響が大きいと考えられる。

しかし一方で、実際に飾りつけに参加することで、「落ち着く」「安らいだ」というような印象を持っている。街並みを見て、触れることで地域に関わりがなくても街並みに対する落ち着きや安らぎを感じる事が分かる。

「活気のある－活気のない」という項目では、地域の方と学生で印象が大きく異なる。住民は、実験を行った場合でも普段の「活気のない」印象が強いことが考えられる。元の街並みへの意識や印象の有無で、飾りつけた街並みへの印象も違ってくることが考えられる。

2009 年事後調査, 2009 年学生事後調査, 百彩イメージ調査(学生)について, 作成した因子得点分布図を図 4-9 に示す。

「4-3-2 因子の解釈」で解釈した因子を基に分析を行う。

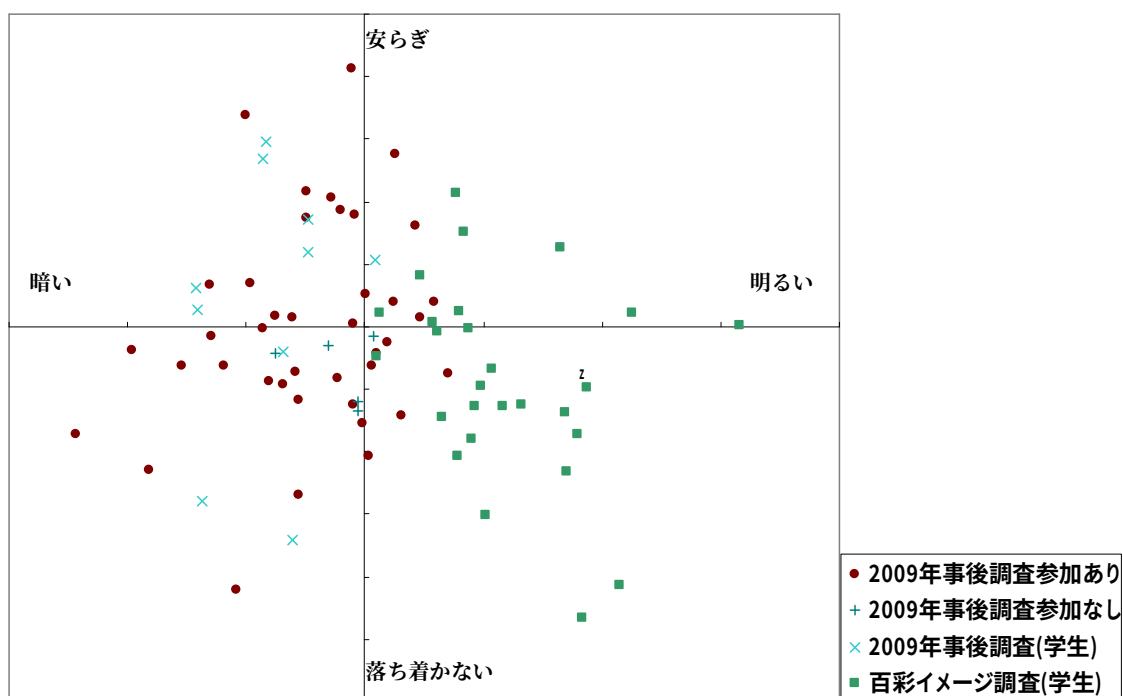


図 4-9 立場の違いに関する因子得点分布図

イメージ調査では、他の調査結果と比較しても明度が高く安らぎ度が低いことが分かる。飾りつけた街並みというものに対して明るさを感じる一方で、緊張感も感じていることが考えられる。

同じ学生という立場であっても、飾りつけに参加した学生は明度が低いが安らぎ度はイメージ調査の学生に比べ高いことが分かる。実際に飾りつけに参加し、その街並みや飾りつけの密度を見ていることから、それほどの緊張感を感じなかったことが考えられる。

連続感を感じず飾りつけそのものを見ると、盛り上がりや活気、同時に緊張を感じる事が分かる。しかし実際に飾りつけに参加し街並みに触れることで、地域と関係ない立場であっても安らぎを感じる事が分かる。飾りつけに参加した学生は、飾りつけを見るだけでなく街並みの雰囲気を感じる事が出来るため、安らぎを一層感じたことが考えられる。

これらのことより、飾りつけだけでなく「地」である実際の街並みの雰囲気を知ることによって印象の変化があることが分かる。しかし、住民にとってはそれまでの実験の印象や普段の街並みを見ていることで、飾りつけた街並みに対してより活気を感じていない。「地」に対する意識による印象の違いというものも見られる。

4-5 飾るものの色の違いによる景観イメージの違いの傾向と特徴

4-5-1 イメージプロフィールによる街並みの景観イメージ構造に関する分析結果

飾るものの色の違いによる街並みの景観イメージ構造を把握するため、SD法を用いた街並みの景観イメージに関するアンケート項目についてイメージプロフィールによる分析を行った。

分析対象とするアンケート調査票のうち、2005年事前調査、2005年事後調査、2009年事後調査、風彩事後調査の街並みの景観イメージに関するアンケート項目について作成したイメージプロフィールを図4-10に示す。

それぞれの分析に用いたサンプル数は、表4-9の通りである。

表 4-9 色の違いによる景観イメージの違いの分析に用いたサンプル数

	2005年事前調査	2005年事後調査	2009年事後調査	風彩事後調査	風彩イメージ調査	学生イメージ調査	合計
サンプル数	86	67	45	7	14	27	246

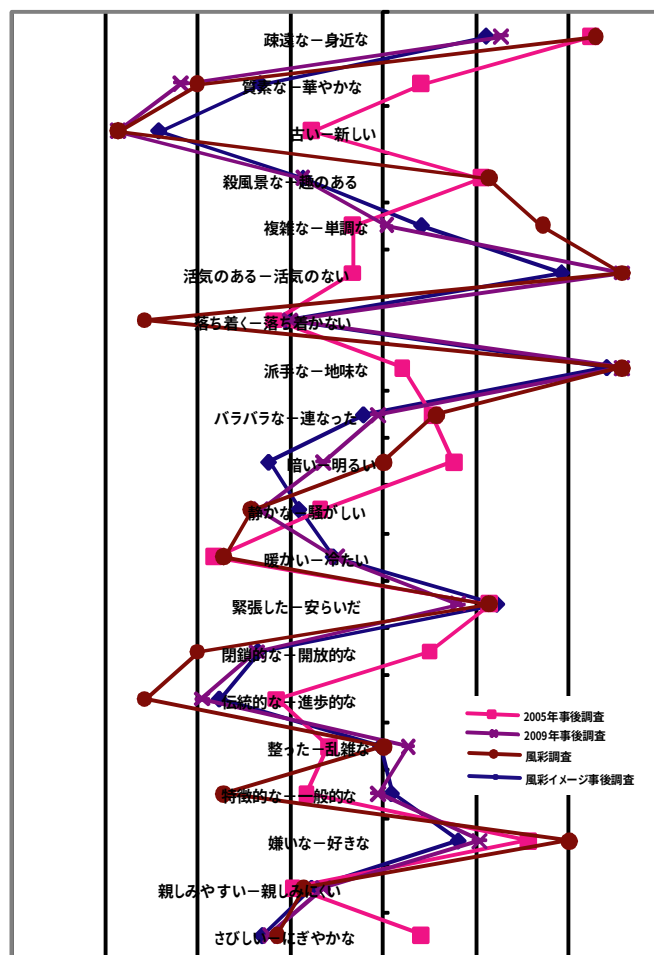


図 4-10 「百彩」「風彩」の事後調査のイメージプロフィール

2005 年の事後調査と、風彩の事後調査では、それぞれ「初めてその色のものを街路に飾りつけ」をした事後の結果となっている。

「質素な－華やかな」「活気のある－活気のない」「さびしい－にぎやかな」の項目については、色のイメージや飾るものによる影響が大きいことが考えられる。

一方、「身近な」「趣のある」「暖かい」「好きな」の項目については 2005 年事後調査及び風彩事後調査は他の調査結果に比べ、高い傾向にある。色を問わず、飾りつけを行うことで「地」である街並みを改めて見る機会が生まれ、そういった印象を抱くことが考えられる。

また、2009 年の「百彩」と「風彩」を比較すると、「単調な」と「連なった」の項目についても、「風彩」の方がその印象が強い傾向が見られる。飾るものは指定せず自由に飾りつけを行う「百彩」と比べ、「風彩」では飾るものが青い布と統一されている。そのため、「風彩」は「単調」「連なった」というようなイメージが感じられたことが考えられる。

分析対象とするアンケート調査票のうち、風彩事後調査、風彩イメージ事前調査、風彩イメージ事後調査、風彩イメージ調査(学生)の街並みの景観イメージに関するアンケート項目について作成したイメージプロフィールを図 4-11 に示す。

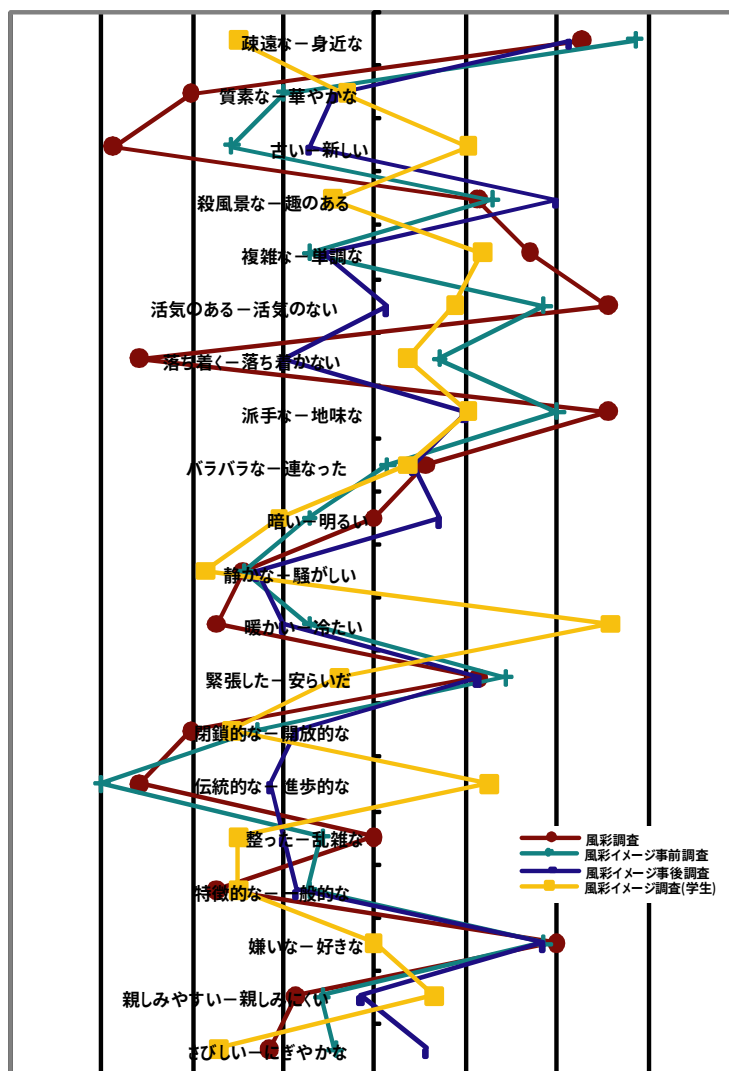


図 4-11 「風彩」における立場による違いに関するイメージプロフィール

「百彩」の場合と同じく、学生のイメージ調査では飾りつけたことによる影響の強い結果となっていることが考えられる。「冷たい」「進歩的な」などの項目は、飾りつけた色や飾りつけを行ったことによる影響ということが考えられる。また、地域住民であっても実際に見た住民の事後調査とイメージ調査では結果が大きく異なっている。

イメージ調査は、実際の飾りつけた街並みを見たときには感じる飾りつけ連続感を感じにくいものとなっていることが考えられる。そのため、地域住民、学生といった立場を問

わず、飾った部分や飾りつけを行ったということによる印象が強いことが考えられる。

「古い－新しい」「活気のある－活気のない」「落ち着く－落ち着かない」などの項目では、実際に飾りつけた街並みを見ている住民ほど、「地」である街並みの印象を強く持っている。

これらのことから、実際に街並みの雰囲気を感じた上で飾りつけた街並みを見るということがイメージの変化に関わるということが分かる。

4-5-2 飾るものの色の違いによる景観イメージについての因子分析

2005 年事前調査、2009 年事後調査、風彩事後調査、風彩イメージ事前調査、風彩イメージ事後調査、イメージ調査(学生)について、作成した因子得点分布図を図 4-12 に示す。また、「百彩」の景観イメージの因子得点分布図を図 4-13、「風彩」の景観イメージの因子得点分布図を図 4-14、「風彩」の学生の景観イメージの得点分布図を図 4-15 に示す。

「4-4-2 因子の解釈」で解釈した因子を基に分析を行う。

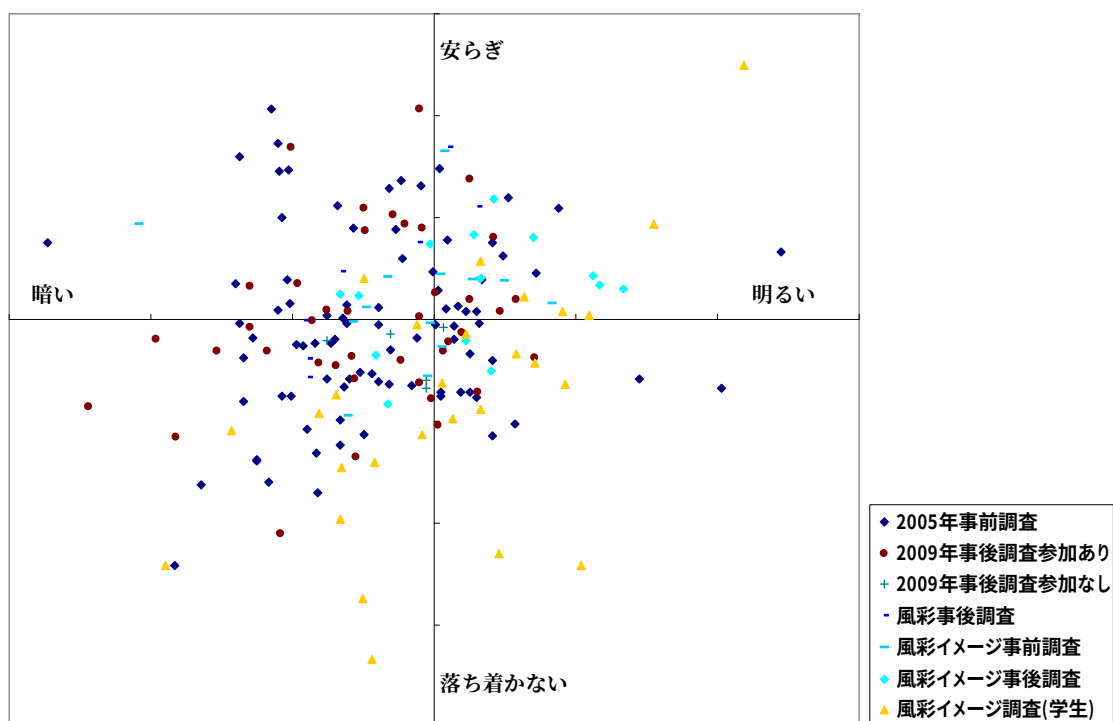


図 4-12 飾るものの色の違いによる景観イメージの因子得点分布図

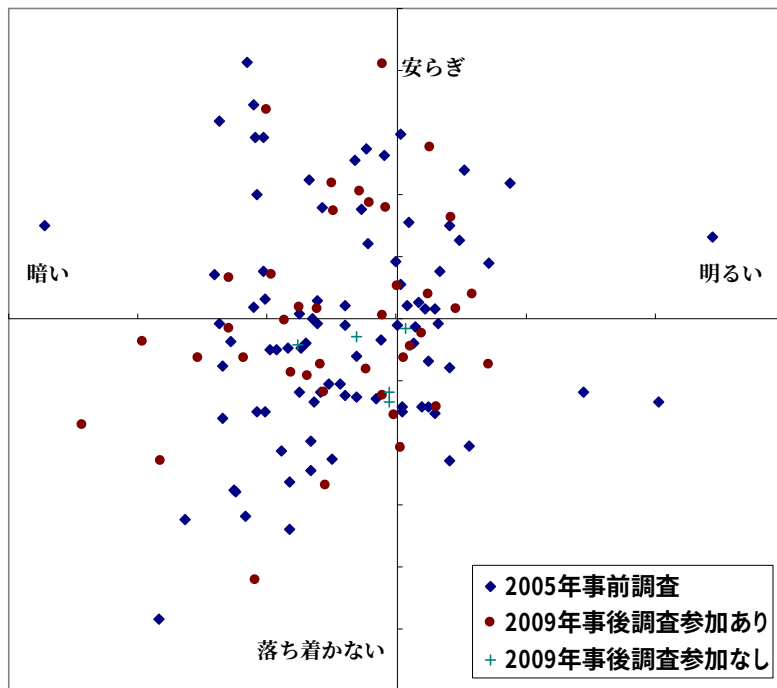


図 4-13 「百彩」の景観イメージの因子得点分布図

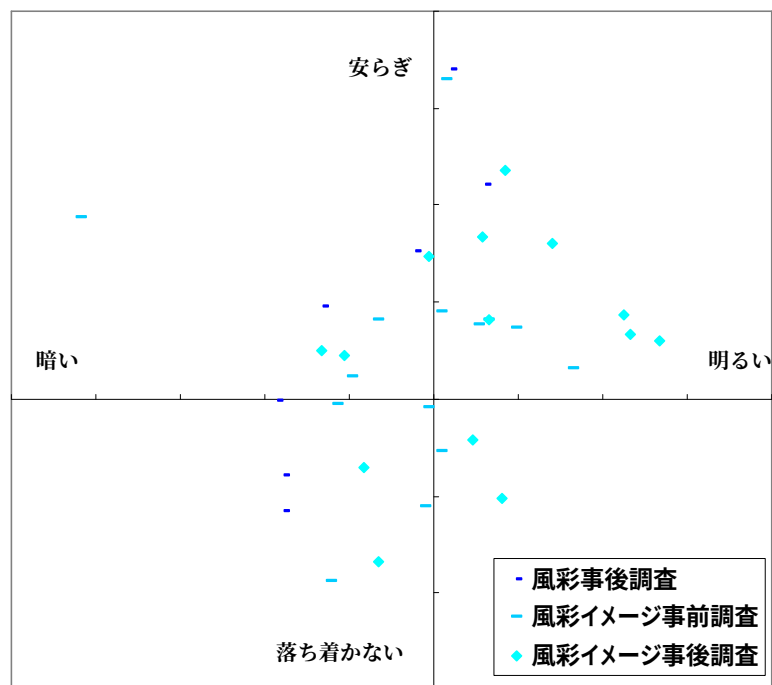


図 4-14 「風彩」の景観イメージの因子得点分布図

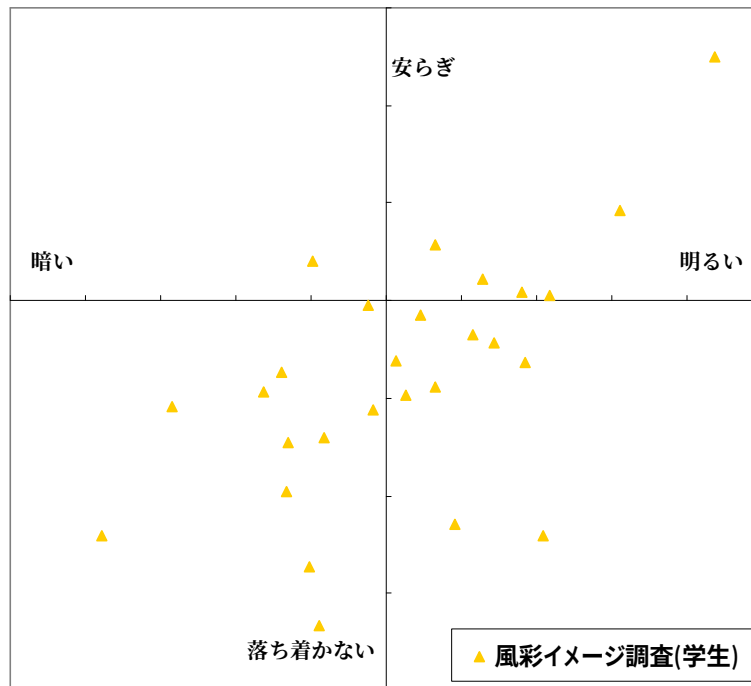


図 4-15 「風彩」の学生の景観イメージの因子得点分布図

「風彩」の地域住民の調査では、「百彩」と比べ安らぎ度が比較的高い。赤色の持つ意味としての活気や緊張感に対して、青色の持つ意味としての安らぎなどを強く感じたことが考えられる。イメージ調査では開放度が高いことに対し、事後調査ではそれほど高くない。

「図」としての飾りつけの印象はあまり高くない。そのため「地」としての街並みの印象を強く感じ、開放感は感じられなかったことが考えられる。また、実際に飾りつけた街並みを見ることで、色の持つ印象も少なからず感じていることが考えられる。

学生のイメージ調査では、安らぎ度が低い。飾りつけた「青い布」に対しての意識や知識、愛着といったものがないことが原因と考えられる。

飾りつけるものの意味についての知識や意識の有無により、安らぎ度が大きく変化していることが考えられる。

4-6 景観イメージ構造に関する調査結果のまとめ

4-6-1 飾りへの参加の形式による景観イメージの分析結果

経年変化については、今回の実験結果では活気がないといった印象が強い。それまでの実験の盛り上がった印象の強さや今回の実験では飾りの数がそれまでよりも少なかったことから、今回の実験に物足りなさを感じたことが考えられる。

安らぎという点については各年の事後調査の調査結果が 2005 年事前調査の調査結果に比べ高く感じられていることから、実験が住民に定着し、地域に対する愛着が湧いたということが考えられる。

今回の実験では活気がないという印象が強かったことから、飾りつけに参加することと、街並みの印象が変わることがつながることで、街並みへのイメージが変動する可能性があることが考えられる。

立場の違いについては、今回の調査結果から、地域に対する意識の違いによる実験後の景観イメージに違いがあることが分かった。「地」である街並みへの意識によって、身近さや、飾りつけた場合でも普段の街並みの「活気のない」様子が印象として強く残っていることが考えられる。

しかし、立場の違いがあった場合でも、実際に街並みを見ることで似た印象を抱くことが分かった。街並みの雰囲気を知ること、景観イメージが異なることが分かった。

「飾りつけ」をすることにより活気を感じても、それが連続的に飾られていなければ活気が無く感じられることが考えられる。

「1-3-2 風景の構成要素」で仮定した、飾りつけを風景の構成要素として考えた場合、今回の実験では、飾りつけの減少により「密度」や「連続性」の低下を感じたことが考えられる。特に、「連続性」については、2008年の実験では松尾³⁾らが赤い動物を飾ったことで空き地などにも赤いものの「連続性」を感じることができたと考えられる。しかし今回の実験ではそういった装飾はなかった。そのため、今回の実験ではより「連続性」を感じにくかったことが考えられる。

4-6-2 飾るものの色の違いによる景観イメージの分析結果

飾りつける色が異なった場合でも、飾りつけを行うことで街並みをより身近に感じられることが分かった。改めて街並みを見直すきっかけになっていることが考えられる。

一方で、色の持つイメージ通りの印象を飾りつけた街並みに対して抱いていることから、飾る色が街並みに与える影響があることが分かった。「質素な—華やかな」「活気のある—活気のない」「さびしい—にぎやかな」などの項目で、その傾向が見られたことから、そういったことが考えられる。

また、飾りつけるものへの意識の有無が街並みに与える影響もあることが分かった。地域に関わりがあり、それを理解することで安らぎを感じることが考えられる。

「1-3-2 風景の構成要素」で仮定した、飾りつけを風景の構成要素として考えた場合については、結果にそれほど大きな変化が見られなかった。「風彩」においては、筆者自身が、「百彩」に比べ「連続性」を感じられると考えられる装飾を行った。しかし、「連続性」を

感じる飾りであっても変化が見られなかったことから、「連続性」を感じるには、風景の構成要素の種類もある程度必要なことが考えられる。

「1-3-4『図』と『地』の概念」から考えた場合、「風彩」の装飾が「百彩」と比べ「図」としての印象が弱かったことが考えられる。そのため、構成要素として捉えづらかった可能性がある。

4-6-3 4章のまとめ

これらのことから、飾りつけを行う場合はその「連続性」が重要となること考えられる。積極的に住民が飾りつけを行うことや、松尾³⁾らが行った赤い動物を飾る等、連続性を感じられるような装飾をすることで、活気を感じられることが分かった。

逆に、飾りつけを行った部分、という連続感を感じづらいものだけであれば、活気を感じられる可能性がある。しかしこの場合は、街並みに対しての緊張感も同時に感じる。飾りつけと同時に街並みの雰囲気を実際に見ることで、緊張感は抱かなくなると考えられる。

回数を重ねない段階であれば、飾りつけを通して街並みそのものを見直す機会になることが分かった。

また、色の違いによる印象の違いとしては、「飾りつけること」で抱く共通の景観イメージと、色の持つ意味により抱く景観イメージがあり、印象の違いがあると言える。

住民にとっては、色やものを問わず、飾りつけを行うことにより「地」である街並みを見直す機会になることが分かった。また、実際に街並みの様子を知っていても事後調査とイメージ調査の景観イメージの結果に違いがみられたことから、飾りつけた街並み実際に見ることが重要であると考えられる。

また、学生のイメージ調査の因子得点分布図から、飾りつけるものに対する意識によって、飾りつけた街並みの景観イメージに対し、「緊張」を抱くことが分かった。飾りつけるものに対して何らかの意識や知識があることで、飾りつけた街並みがより安らぎの高いものとなる。

参考文献

- 1)小田憲治, 近藤隆二郎: 市民による「色彩参画」と街並みの景観イメージとの関係に関する研究, 都市計画. 別冊, 都市計画論文集, 41(3), 511-516(2006)
- 2)迫間勇人: まちの開示に見るコミュニティの結合効果に関する研究, 滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻学士論文 (2006)
- 3)松尾清: 装飾物の変遷から見た「百彩」の日常的景観マネジメントとしての可能性, 滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻学士論文(2009)

第 5 章

イメージする色に関する調査結果

第5章 イメージする色に関する調査結果

5-1 「百彩」における街並みをイメージする色に関する分析

街並みをイメージする色の傾向と想起理由を明らかにするために、アンケート内の「街並みをイメージする色」の項目への回答結果の単純集計を行い、考察を行った。また、景観形成実験を重ねることによる色や想起理由の変化について分析する。

5-1-1 全体の分析

アンケート調査票より、「高宮でイメージする色は？」という調査項目について、単純集計による分析を行った。

調査対象となるのは、2005年、2006年、2008年、2009年の事後調査で、「2-3-3 景観認識に関するアンケート調査」の項目のうちイメージする色についての分析を行った。

回答全体のうち、イメージする色についてまとめたものを図5-1に示す。

それぞれの分析に用いたサンプル数は、表5-1の通りである。1回答者につき複数の回答を得られた場合は、その数を示している。

表5-1 イメージする色についての分析で用いたサンプル数

	2005年事前調査	2005年事後調査	2006年事後調査	2008年事後調査	2009年事後調査	風彩事後調査	合計
サンプル数	100	57	33	74	49	21	334

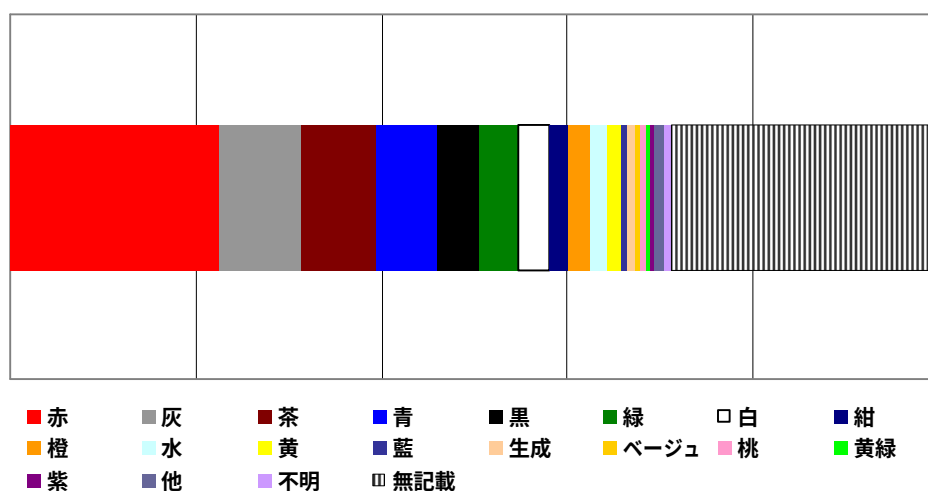


図5-1 「百彩」における分析対象全体のイメージする色の割合

5-1-2 調査年度ごとの分析

2005年事前調査と、2005年、2006年、2008年、2009年の事後調査とを分け、比較を

行った結果を図 5-2 に示す。

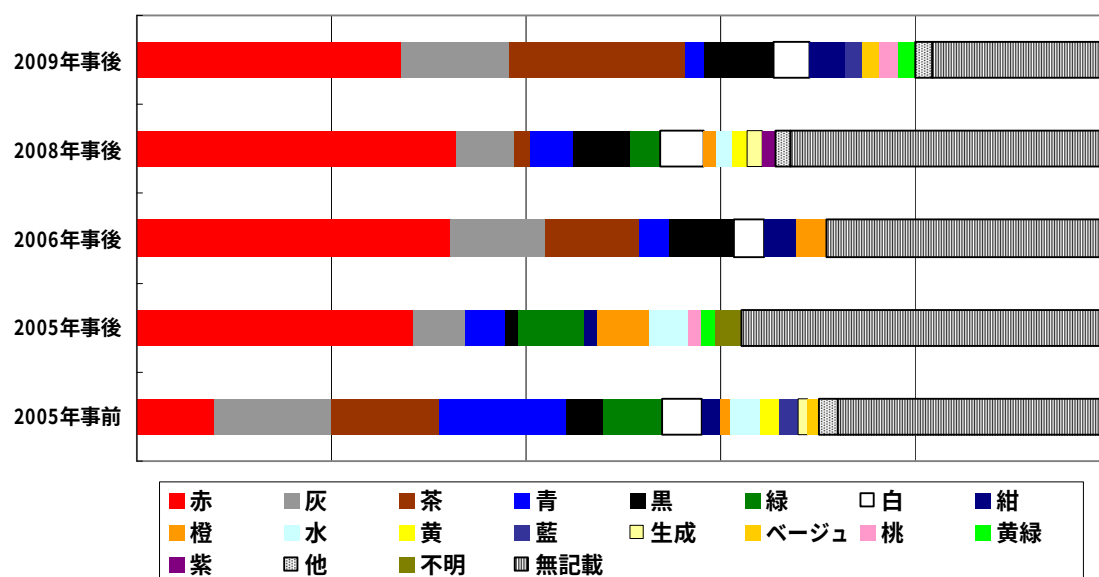


図 5-2 調査年度ごとのイメージする色の割合

2005 年事前調査では、「赤」と回答した回答者はあまりみられなかった。しかし、「赤」を飾る景観形成実験を通して、赤色をイメージする割合は増えた。

2009 年事後調査では赤色と回答した回答者は減っている。景観形成実験を重ねる中で、飾る色である赤色を単純に地域でイメージする色だとは感じなくなったことが考えられる。だが、「4-2 百彩における装飾数の変化」で述べた通り、2009 年の実験では飾りつけの数が少なくなっている。そのため、目についた赤色が他の年に比べて少なく、実験の印象が薄かったということも考えられる。

一方で、2009 年事後調査の回答者のうち、無記載という回答者も大きく減少している。また、茶色と回答した回答者が 2008 年事後調査と比べ 2009 年事後調査では増加している。

2008 年以前の調査で見られており今回の調査では見られない色や一方でその逆もあるので、実験が色をイメージする機会となっていることが考えられる。また、茶色など高宮の街並みにある色を挙げた回答者が増加していることから、街並みそのものを見る機会ともなっていることが考えられる。

5-2 「百彩」におけるイメージする色の想起理由に関する分析

5-2-1 全体の分析

同一回答者の、想起理由について、分類を行った。

分類の詳細は「3-3-1 イメージする色及び想起理由に関する単純集計」で述べた、表 3-1

の通りである。分類ごとの割合を図 5-3 に示す。

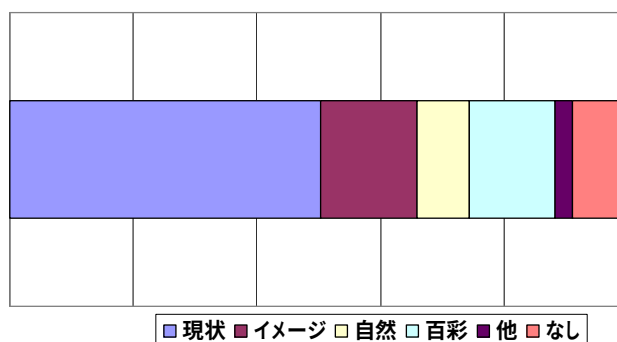


図 5-3 分析対象者全体の想起理由の割合

5-2-2 調査年度ごとの分析

2005 年事前調査の結果と、2005 年、2006 年、2008 年、2009 年の事後調査の結果とを分け、比較を行った結果、図 5-4 の様になった。

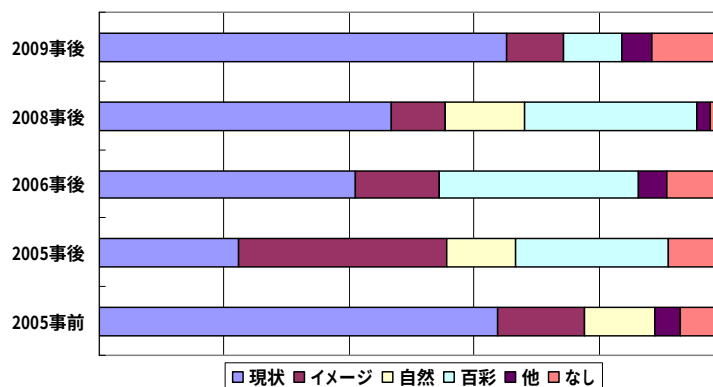


図 5-4 調査年度ごとの想起理由の割合

想起理由について、色のイメージよりも高宮の現状から回答する割合が 2005 年の景観形成実験以後の調査以降、増加傾向にある。「イメージする色」という点から考えたときに、イメージする色が飾りつけるものの色ではなくなったこと、イメージする色の想起理由が高宮の現状であるものが増加していることから、景観形成実験イベントが街並みを見直すきっかけになっているということが考えられる。

だが、飾りつけを見慣れたてきたことや、マンネリ化などの意識を抱いていることなど、「百彩」に対する関心の低下から、想起理由とならなかったということも考えられる。

5-2-3 想起理由によるイメージプロフィール分析

分類した想起理由を、全体平均・事前調査平均・事後調査平均・2009 年事後調査平均と分け、それぞれの想起理由ごとにイメージプロフィールを作成した。全体平均のイメージプロフィールを図 5-5、事前調査平均のイメージプロフィールを図 5-6、事後調査平均のイメージプロフィールを図 5-7、2009 年事後調査平均を図 5-8 に示す。

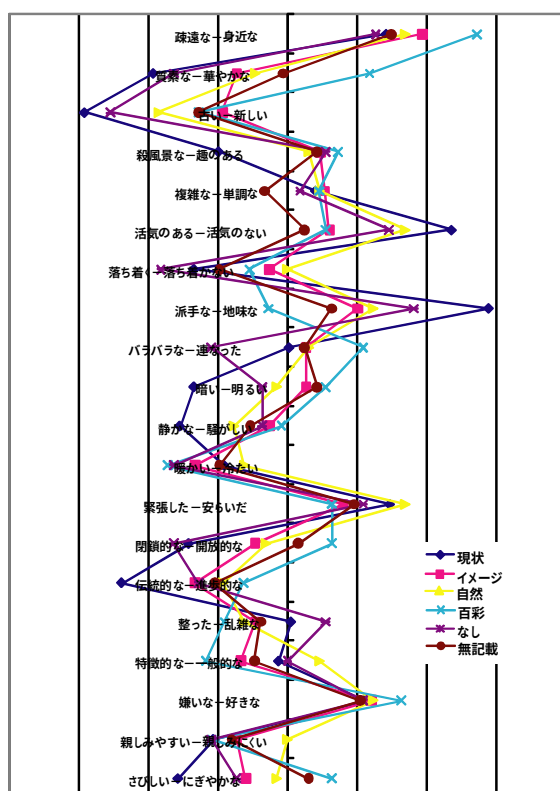


図 5-5 全体の想起理由ごとのイメージプロフィール

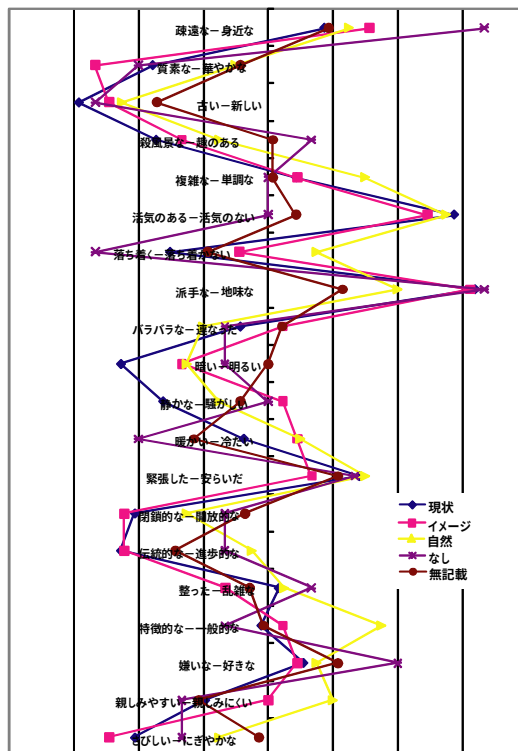


図 5-6 事前調査の想起理由ごとのイメージプロフィール

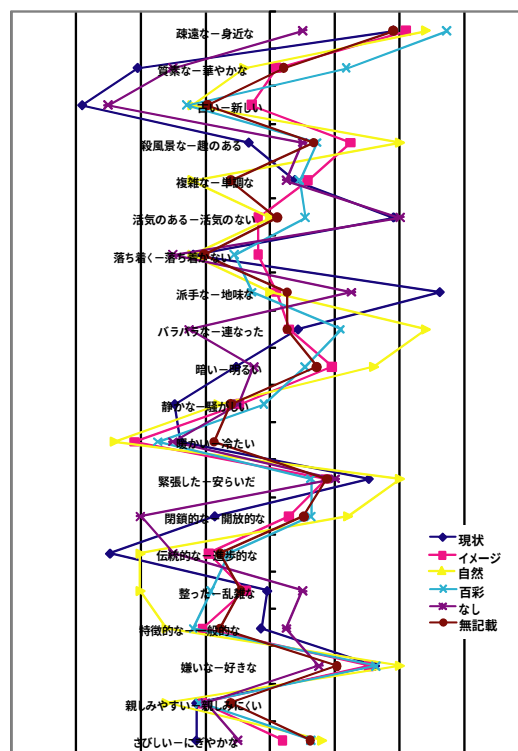


図 5-7 事後調査の想起理由ごとのイメージプロフィール

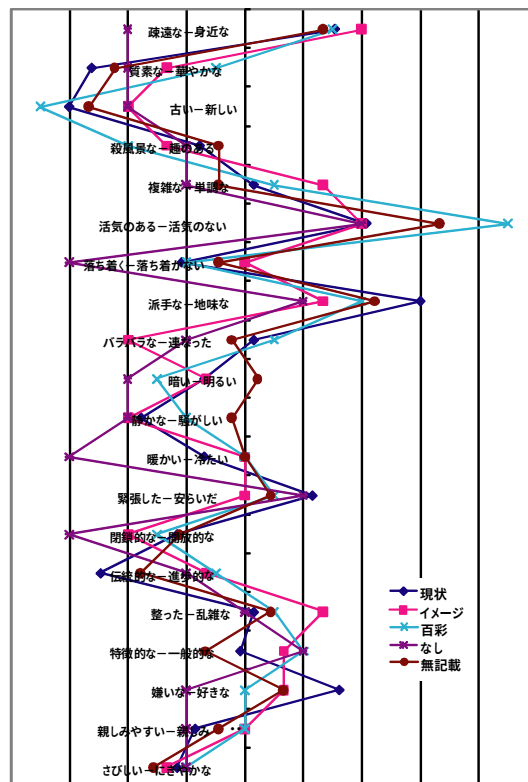


図 5-8 2009 年事後調査の想起理由ごとのイメージプロフィール

2005 年事前調査で想起理由を現状としたサンプルは、「暗い」という印象が強い。現状といってもマイナスイメージから想起したサンプルが多かったことと関係していると考えられる。しかし、2009 年事後調査で現状としたサンプルでは、「暗い」印象が弱まっている。これは、マイナスイメージから色をイメージするサンプルが減少し、建物などから色をイメージしているサンプルが増加しているためと考えられる。

2009 年事後調査では、想起理由を百彩としたサンプルのイメージは他の想起理由のサンプルに比べ、「質素な」「活気がない」などの印象が強い。これは、実験により街並みがもっと盛り上がることを期待していたことが考えられる。「図」への意識がより高く、その分「地」の印象に対して、活気がないと感じていることが考えられる。

5-3 「赤」と回答した回答者の想起理由に関する分析

5-3-1 全体の分析

イメージする色について、「百彩」の飾りつける色である「赤」を回答した回答者のうち、その想起理由についての比較を行った。想起理由の割合を、図 5-9 に示す。

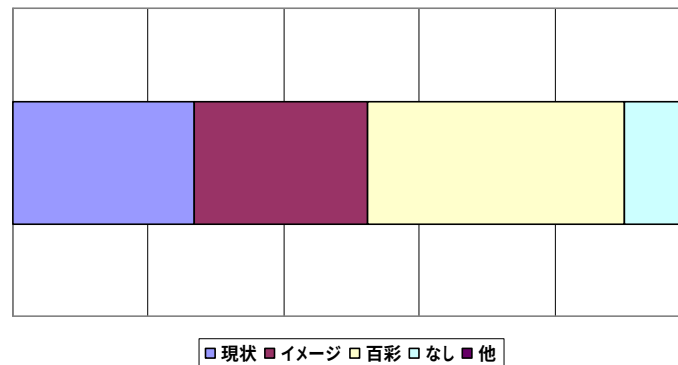


図 5-9 全体の赤色の想起理由の割合

図 5-9 より、赤色の想起理由が百彩である回答者が半数近いことが分かる。2005 年事前調査結果では「赤」という回答が少なかったのに対し、その後は「赤」という回答が一定以上あることから、実験による影響が強いことが分かる。

しかし一方で、半数程度は百彩以外の理由により「赤」をイメージしている。実験で赤色を設定した理由として、ベンガラなどの地域に関わりのある色ということもあったためそれを意識しているサンプルも見られることが考えられる。

5-3-2 調査年度ごとによる分析

2005 年事前調査と、2005 年、2006 年、2008 年、2009 年の事後調査の結果のうち、「赤」を回答した回答者の想起理由の比較を行った。想起理由の割合を図 5-10 に示す。

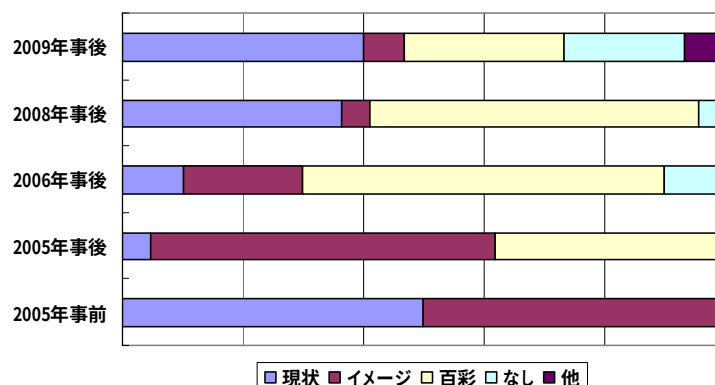


図 5-10 調査年度ごとの赤色の想起理由の割合

景観形成実験イベント初期では、色のイメージや実験の影響による回答が多かったのに対し、2009 年では百彩を想起理由とした回答者は減少していた。一方で、現状を想起理由とした回答者が増加している。

また、2005 年事前調査では、約半数が現状を理由に赤色をイメージしていることから、

実験の有無に関わりなく、元から「赤」が地域に関わりがあったことが考えられる。

色の想起理由として「百彩」と答える人が少なくなったのは、飾りつけを通して「赤い飾り」を見るのではなく、地域や街路にあるものを改めてみるようになった・赤色と地域を関連させて感じるようになったということが考えられる。しかし、実験で赤いものが目につかず、特に意識しなかったということも考えられる。

5-3-3 想起理由によるイメージプロフィール分析

「赤色」と回答した想起理由ごとにイメージプロフィールを作成した。想起理由が「現状」によるサンプルのイメージプロフィールを図 5-11、「イメージ」によるサンプルのイメージプロフィールを図 5-12、「百彩」によるサンプルのイメージプロフィールを図 5-13、「なし」によるサンプルのイメージプロフィールを図 5-14 に示す。

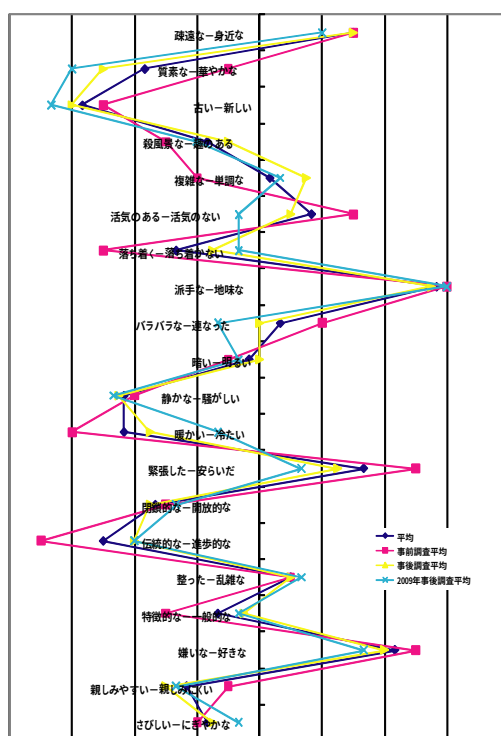


図 5-11 「現状」によるサンプルのイメージプロフィール

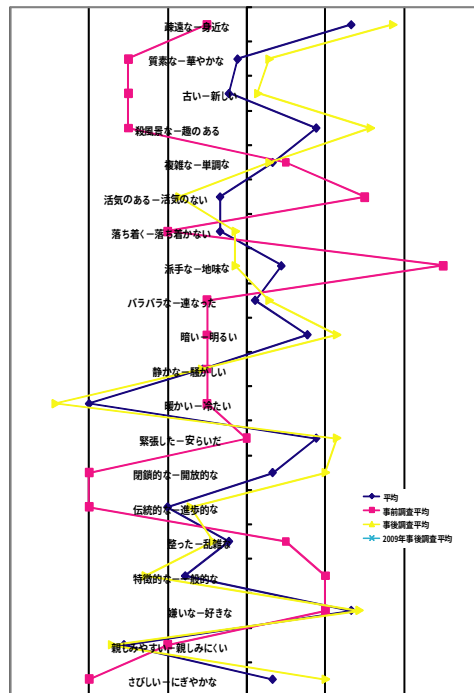


図 5-12 「イメージ」によるサンプルのイメージプロフィール

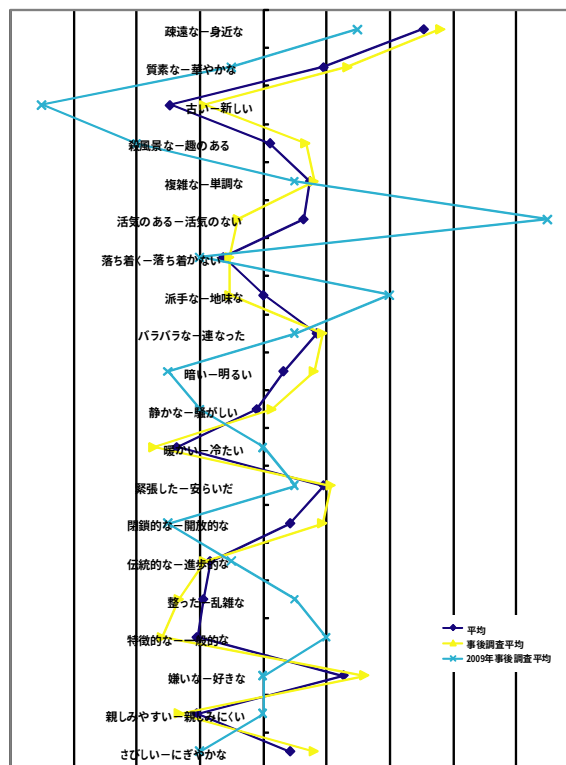


図 5-13 「百彩」によるサンプルのイメージプロフィール

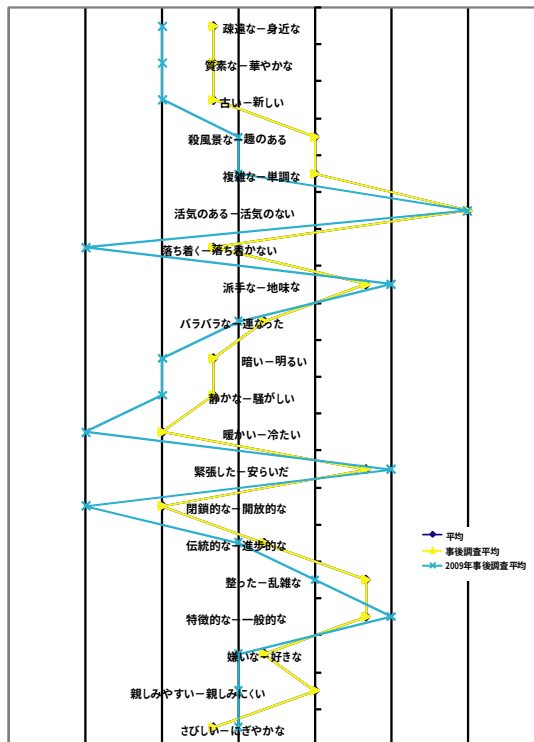


図 5-14 「なし」によるサンプルのイメージプロフィール

イメージする色が「赤」であるサンプルは、全体的に「古さ」と「明るさ」、また、「地味さ」を感じているということが考えられる。街並みの活気を願う反面、実際の街並みの様子を見ていることと、赤色の持つ意味による印象を持っていることが考えられる。

5-4 「風彩」における街並みをイメージする色に関する分析

街並みをイメージする色の傾向と想起理由を明らかにするために、アンケート内の「街並みをイメージする色」の項目への回答結果の単純集計を行い、考察を行った。また、景観形成実験を重ねることによる色や想起理由の変化について分析する。

5-4-1 全体の分析

アンケート調査票より、「高宮でイメージする色は？」という調査項目について、単純集計による分析を行った。

調査対象となるのは風彩事後調査及び風彩イメージ事後調査で、「2-4-3 景観認識に関するアンケート調査」の項目のうちイメージする色についての分析を行った。

回答全体のうち、イメージする色についてまとめたものを図 5-15 に示し、想起理由の分類についてまとめたものを図 5-16 に示す。なお、分類の詳細は「3-3-1 イメージする色及び想起理由に関する単純集計」で述べた、表 3-1 の通りである。

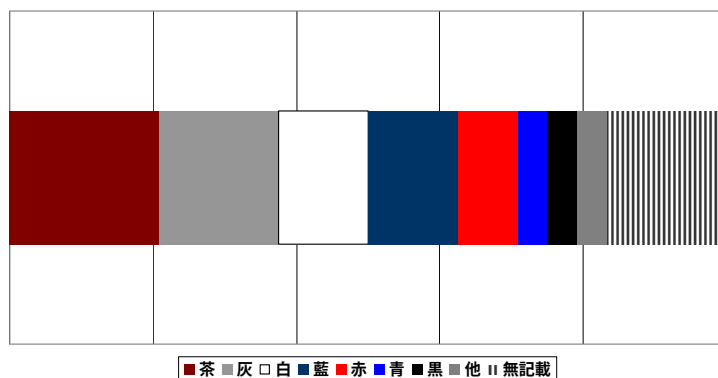


図 5-15 「風彩」における分析対象全体のイメージする色の割合

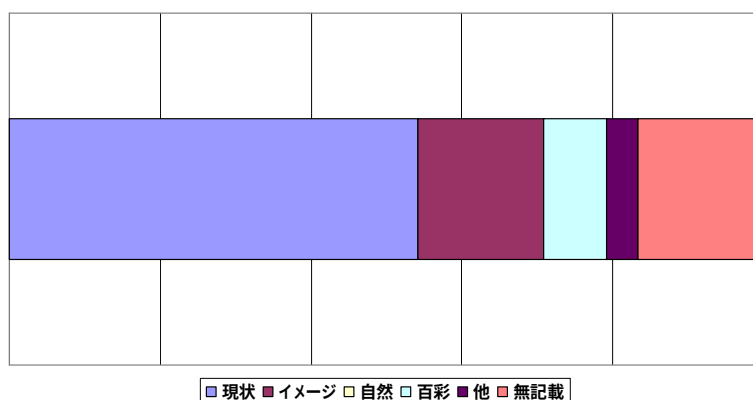


図 5-16 「風彩」における分析対象者全体の想起理由の割合

また、想起理由について、「百彩」と「風彩」の比較を行うため、それぞれのグラフをまとめたものを図 5-17 に示した。

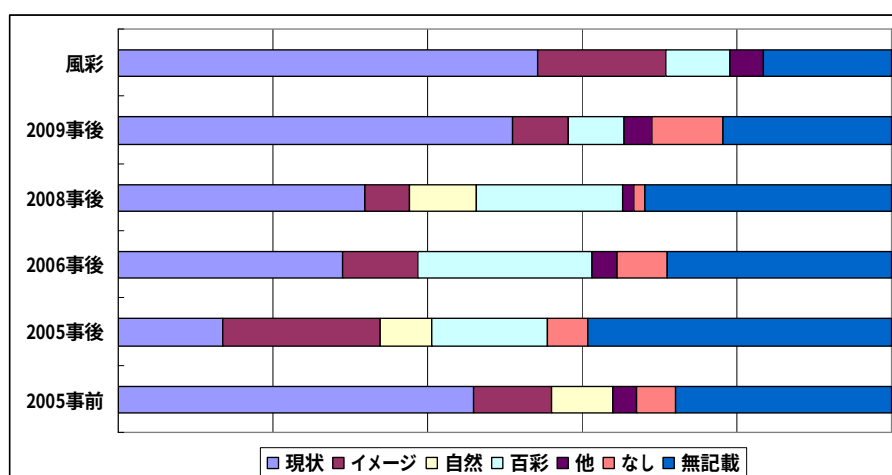


図 5-17 想起理由の割合

図 5-15 より、「風彩」でも「百彩」の 2009 年事後調査と同じく現状による色の想起が多いことが分かる。飾る色とそこからイメージする色では、その原因については変化がないことが考えられる。

5-4-2 想起理由によるイメージプロフィール分析

分類した想起理由についてイメージプロフィールを作成し図 5-18 に示す。

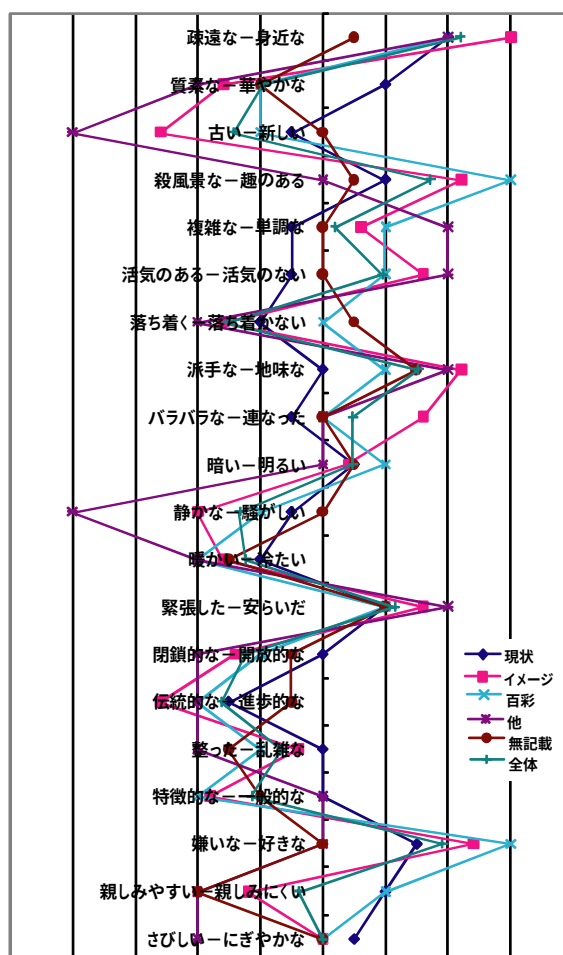


図 5-18 想起理由によるイメージプロフィール

想起理由が「百彩」である回答者であっても、「百彩」後の調査に比べ「質素な」「活気のない」という印象は少ない。「百彩」での実験では盛り上がり进行期待していたのに対し、「風彩」での実験ではそれほど盛り上がりについては意識されていなかったことが考えられる。

また、想起理由が「現状」である回答者と「百彩」である回答者は比較的親しみにくさを感じている。「百彩」で赤い飾りつけに見慣れたことで、青い飾りに親しみを感ぜられなかったことが考えられる。

5-5 イメージする色に関する調査結果のまとめ

5-5-1 「百彩」におけるイメージする色のまとめ

「百彩」では、飾る色である赤色をイメージしたサンプルが減少している。その想起理由として、「現状」を挙げたサンプルが増加、「百彩」を挙げたサンプルが減少していることから、百彩への関心が低下していること、その分、街並みに対して意識が向いていることが考えられる。また、2005 年事前調査に比べ、2009 年事後調査では、想起理由を「現状」としたサンプルの中でもマイナスイメージから想起したサンプルは減少しており、景観イメージに対して「暗い」という印象も弱くなっていた。飾りつけを通して街並みを見ることで、暗さはあまり感じなくなったことが考えられる。

しかし、想起理由を「百彩」としたサンプルは、景観イメージに対して他の想起理由のサンプルよりも「活気がない」「暗い」と感じている。このことから、想起理由を「百彩」としたサンプルは実験を通して街並みへの活気をより強く求めていることが考えられる。

「1-3-3 多様の統一性」から考えた場合、色を統一した飾りを通して、実験初期は統一性を感じ、飾りつけた色によるイメージが強かったこと、今回の実験では飾りの数の減少等から色の統一性が感じられなかったため、飾りつけた色によるイメージが弱かったことが考えられる。

「1-3-4 『図』と『地』の概念」から考えた場合、飾りつけを「図」として感じる印象が弱くなっているため、赤色を連想することが少なくなっていることが考えられる。一方で、「図」に対する意識が低下した分、「地」を見ようとする意識が高まったことが考えられる。

5-5-2 「風彩」におけるイメージする色のまとめ

「風彩」においては、飾りつけたことによる変化よりも実際の街並みの様子を見ていることが分かった。飾りつけたものの印象が薄かったこと、「百彩」の印象が強いことが考えられる。

また、「風彩」では、「百彩」のときほど、盛り上がりについては意識していないことが考えられる。「百彩」では過去の実験からの印象が強かったのに対し、「風彩」は初めての試みであること、飾る色からなど盛り上がりとは結びつかないことが考えられる。

「1-3-4 『図』と『地』の概念」から考えた場合、「風彩」の装飾が「図」として捉えづらいものであったことが考えられる。そのため、飾りつけた色がイメージする色とつながらなかったこと、また、盛り上がりに対する意識があまり見られなかったことが考えられる。

5-5-3 5章のまとめ

これらのことから、「百彩」では回数を重ねることで、初めて飾りつけた街並みを見たときと同様、飾りつけそのものだけではなく、街並みそのものを見るようになることが明らかになった。イメージする色についても、現状に関わりの強いものが多くなっている。

「風彩」では、飾りつけたものの印象があまり感じられなかったことが考えられる。イメージする色は、「百彩」で飾りつける赤を除いては「百彩」とあまり変わらず、街並みにある色をイメージするという傾向が見られた。しかし、古くから地域にあるものをイメージしたものによる飾りつけを行ったため、より改めて街並みを見直すことが出来たということも考えられる。

また、「百彩」では飾った色である赤をイメージする人が一定以上に増えたのに対し、「風彩」では飾りつけによる色のイメージの変化がなかったことから、飾りつける色のインパクトや、「図」としての意識のしやすさからイメージする色が変化する可能性が考えられる。

第 6 章

結論

第6章 結論

6-1 まとめ

6-1-1 各章のまとめ

ここで、第1章から第5章までの内容と結果についてまとめる。

第1章では、本研究の背景及び先行研究と本研究の位置づけ、目的・意義について述べた。

第2章では、本研究の実験概要及び調査概要について述べた。

実験の概要として、赤いものを住民が街並みに飾りつける「百彩」と、青い布を学生が飾る「風彩」について、それぞれの概要や調査対象、実験の流れについて述べた。

調査の概要として、調査対象者や、景観イメージ調査と景観認識調査からなるアンケート調査についての説明を述べた。

第3章では、本研究の分析方法について述べた。

単純集計による分析やプロフィール分析、因子分析による分析についての説明を述べた。

第4章では、本研究で実施した調査結果のうち、景観イメージ構造に関する調査結果について述べた。

「百彩」について回数を重ねることによる変化、住民と学生という異なる立場から見たときの景観イメージに関する違い、飾るものの色による違いについてそれぞれ分析、比較及び考察を述べた。

以下に第4章で得た結果をまとめる。

- ・本研究の結果から、「百彩」による実験を通して街並みに対して活気やにぎやかさを感じるためには、飾りつけの「密度」や「連続性」が重要になることが分かった。過去の景観形成実験を通して、住民にとっては実験を行うことで飾りつけた街並みの景観イメージに活気を感じる。しかし、本研究での実験では「4-2「百彩」における装飾数の変化」にて述べたとおり、装飾数の減少が見られた。また、松尾¹⁾らが行った、空き家などへの赤い動物の装飾も行わなかった。そのため、飾りつけの「密度」や「連続性」を感じられず暗いという景観イメージを感じている。
- ・飾りつけに参加することと、街並みの印象が変わることがつながることで、街並みへ

の印象の変動があることが明らかとなった。

- ・「百彩」においては、飾りつけたことに対して連続感についての意識がなければ、活気やにぎやかさを感じることが分かった。しかし同時に、落ち着かないという印象も抱くことが分かった。
- ・住民と学生、など立場が異なる場合であっても、実際に飾りつけへの参加や飾りつけた街並みを見るということを通して、落ち着きや安らぎを感じるということが分かった。「地」である街並みの雰囲気を感じることで景観イメージに変化が見られる。
- ・色が異なっている場合であっても、初めて街並みに飾りつけを行った場合、住民にとっては身近さや暖かさを感じる事が明らかになった。改めて街並みを見直すきっかけになり、そういったイメージを抱くということが考えられる。
一方で、色の持つ意味の通りのイメージを持つことから、飾る色によるイメージの違いがあることが分かった。
- ・実際に飾りつけた街並みを見ることで、「地」である街並みの雰囲気からの印象も強くもつ一方で、イメージ調査という連続感を感じづらい調査である場合は、住民・学生問わず飾りつけたことによる印象が強くなる事が明らかになった。
- ・飾る色やものの意味を意識することで、飾りつけた街並みへの安らぎ度が違ってくる。

第5章では、本研究で実施した調査結果のうち、色に関する調査結果について述べた。

「百彩」においては、回数を重ねることでイメージする色がどのように変化するか、またその想起理由はどのように変化するか、その中でも飾った色である「赤」をイメージした人の変化はどのようなものかについてそれぞれ比較、考察を述べた。

「風彩」においては、飾る色が違った場合にイメージする色や想起理由に異なる傾向があるのかについて、比較、考察を述べた。

以下に第5章で得た結果をまとめる。

- ・「百彩」においては、飾る色である赤色をイメージする回答者が減少傾向にある。これは、飾る色を単純に地域の色としてイメージしなくなったことが考えられる一方で、飾りつけたものがあまり目につかなかったため、イメージしなくなったということも考えられる。

- ・本年度の調査では、イメージする色の想起理由について「現状」がそれまでの調査に比べ多かったこと、2005年事前調査で同じ「現状」を想起理由として挙げていた回答者に比べ「暗い」という印象が弱くなっていたことから、飾りつけを通して街並みを見ることで、暗さについてはあまり感じなくなったことが考えられる。
- ・本年度の調査で、イメージする色の想起理由について「百彩」と答えた回答者は、景観イメージに対して他の想起理由の解答者よりも「活気がない」「暗い」と感じている。実験を通して街並みが活気づくことをより期待していること、そのため今回の実験ではより「活気がない」などの印象を持ったことが考えられる。
- ・「風彩」においては、飾りつけたことによる変化よりも実際の街並みの様子を見ていることが考えられる。飾りつけたものが、「図」としては印象がうすく、「百彩」の印象の方が強いことが考えられる。
- ・「風彩」では、「百彩」のときほど、飾りつけにより街並みが活気づくことを意識していないことが考えられる。「百彩」では過去の実験からの印象が強かったのに対し、「風彩」は初めての試みであること、「百彩」の赤を飾ることと比べ「風彩」の青を飾ることによる街並みが活気をそれほど期待していないことが考えられる。

6-1-2 全分析結果のまとめ

本研究での分析結果についてまとめる。

本研究より、「色彩参画」を通しての街並みの印象が変化する要因は、

- ・「地」である街並みの印象の有無
- ・「図」である飾りへの意識や知識の有無

というような見る人からの意識や印象と

- ・飾ったものの「図」としての意識
- ・飾りの数やその配置
- ・飾るものの色

というような飾るものやその性質が関わる事が考えられる(図 6-1)。

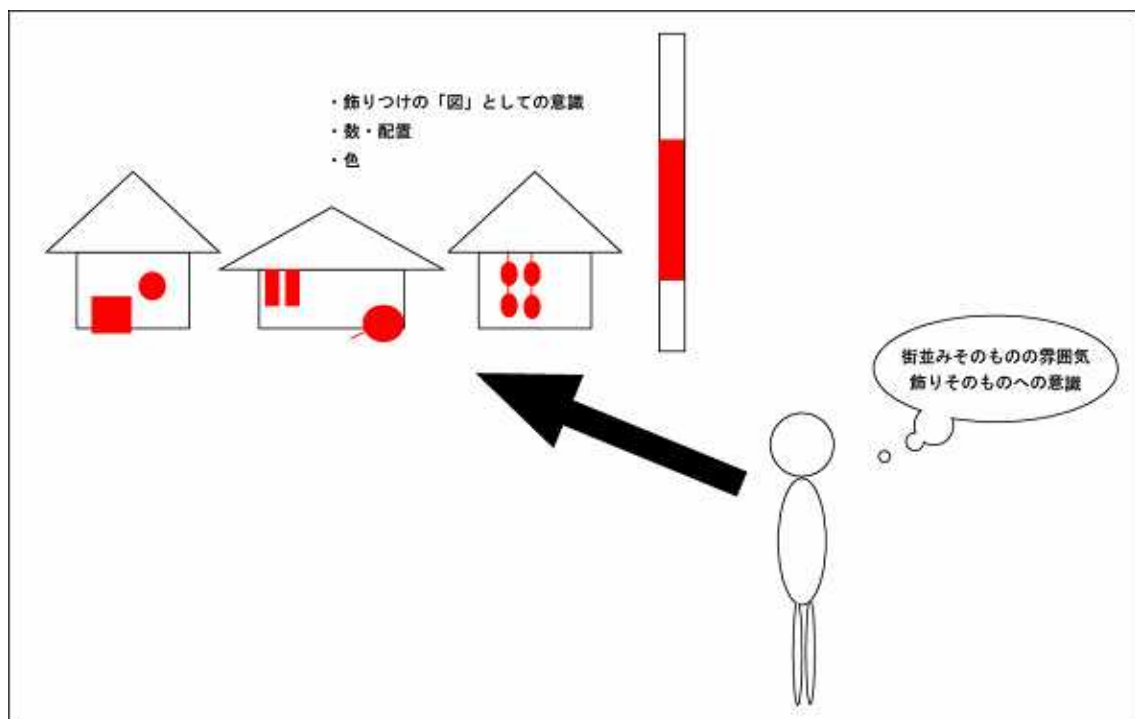


図 6-1 街並みへの印象の変化の要因

「地」である街並みの印象の有無については、分析結果より飾りつけたものだけを見るか飾りつけた街並みを見るかによって「安らぎ」といった印象が異なることが分かった。そのため、飾りつけた街並みを見て活気を感じられても、同時に街並みそのものも見ていることが考えられる。また、実験の回数を重ねることで活気を感じなくなっていることから、飾ることが街並みに定着していることが考えられる。そのため、特別活気を感じず街並みそのものの印象が強く感じられていることが考えられる。

「図」である飾りへの意識や知識の有無については、「風彩」において地域住民と学生の間で「殺風景な一趣のある」や「伝統的なー進歩的な」などの印象が大きく異なっていたことから、飾りへの意識や知識の有無が飾りつけた街並みの景観イメージに関わっていることが考えられる。飾るものに愛着を感じることで、飾りつけた街並みへの愛着も感じる事が考えられる。

飾ったものへの「図」としての意識については、「風彩」後の『高宮でイメージする色は』というアンケート項目について、「百彩」を想起理由に赤色と回答した回答者がいたのに対し、藍色や青色の想起理由として「風彩」を挙げた回答者がいなかった。そのため、「図」となりやすい飾りとなりにくい飾りがあることが考えられる。飾りをどの程度「図」として意識できるかということが飾りとしての印象の残りやすさに関わることが

考えられる。

飾りの数や配置については、今回の「百彩」では、「4-2『百彩』における装飾数の変化」より、それまでの実験よりも飾りの数が減少していることが分かった。また、松尾¹⁾らの行った空き家などへの赤い動物の装飾を行わなかった。それらのことより、今回の実験ではそれまでに比べ装飾が目につかず、活気のないイメージや『高宮でイメージする色は』というアンケート項目で赤色を回答した回答者が減少したことが分かった。そのため、飾りの数や配置が活気に直接的に影響していることが考えられる。

飾るものの色については、「百彩」と「風彩」それぞれのアンケート結果において、飾るものや色によるイメージの違いが見られたことから、色による印象の違いがあることが考えられる。「1-4-2 色の持つ意味」で述べたとおり、赤は注目色であることから、特に印象に残りやすかったことが考えられる。

これらの要因から、飾りつけた街並みを見ている人は、ただ単純に飾りつけた街並みを見るのではなく、「地」である街並みの雰囲気を見ていること、飾りつけたものそのものだけでなくそのものの背景や意味も見ていること、が考えられる。

また、飾ったものが「飾り」として意識されること、飾りの数や配置、飾るものの色の違いによっても印象が異なることが分かった。それぞれ、「飾り」として意識されること、数が多く連続的に配置されることにより活気を感じることに、色の持つ意味により街並みのイメージが変動することが分かった。

6-2 調査結果と風景論の関係について

4章と5章で述べた調査結果について風景論との関係を述べ、「色彩参画」を一般的な論点から見ること、で、「色彩参画」を行うことによる景観の印象の変化についての効果について明らかにする。

6-2-1 景観と風景

「1-3-1 景観と風景」にて、景観と風景の違いについて述べた。

本研究の研究結果より、地域住民と学生の間で景観イメージの意識の違いが見られた。

学生は飾りつけた街並みに対して比較的活気を感じていたのに対し、地域住民は普段の街並みへのイメージが強く、そのため活気を感じにくかったことが考えられる。また、「風彩」においては飾りつけるものに対して、地域住民は高宮布の意識があったのに対し、学生は単純に「青い布」として捉えていたため、地域住民よりも緊張が高かったことが考えられる。

風土や歴史的なものを感じることで、景観イメージが異なることが分かった。

6-2-2 風景の構成要素

「1-3-2 風景の構成要素」にて、構成要素の種類の多少や密度により景観に対する印象が変化することを述べた。

本研究の研究結果より、飾りつけの数の多少や密度により、街並みへの印象が変わることが分かった。飾りつけの数が多いほど活気や明るさを感じられ(図 6-2)、少ないほど感じられなかった(図 6-3)。また、連続性については、飾りがない部分があり連続性を感じられないと活気を感じられなかった。



図 6-2 活気・連続性の感じやすい飾りつけの様子



図 6-3 活気・連続性の感じられにくい飾りつけの様子

「色彩参画」においては、飾りつけの数が多く、また連続性を感じることで、活気を感じることができる。そのため、活気や盛り上がりを期待するためには赤いものが連続的に飾られていると感じることのできる装飾が飾られていることが必要となる。

景観色彩においては、その色を連続的に感じることができる様な装飾や配列にすることで景観を活気づけることにつながると考えられる。

6-2-3 多様の統一性

「1-3-3 多様の統一性」にて、ひとつの要素に統一性を持たせることで景観に統一感が出るといった「多様の統一」について述べた。

「百彩(図 6-4)」では、飾るものの色だけを指定し、飾るものの種類や数については指定せずに自由に飾ってもらっている。そのため、「個の多様性」と「全体の統一」が成り立つ。飾りつけた街並みに対して「バラバラな」といった印象が低かったことから、飾るものが異なっても統一性を感じられていることが分かる。「風彩(図 6-5)」では飾るものの色と物が指定されている。これは「街並みに飾りつけたもの」と考えると飾りつけたものが単一のものであるため、「多様の統一」については成り立つと考えられる。



図 6-4 赤いもので統一された街並み



図 6-5 青い布で統一された街並み

どちらも、条件を指定した飾りつけを行うことで、街路景観の形成を行っている。色以外の条件については異なっているが、指定した色については地域と関わりのある色であった。飾ったものの色に対する意識については、「飾りつけを行ったこと」による意識なのか、「関わりのある色であったこと」による意識なのかは本研究では明らかにはなっていない。しかし、なんらかの「色」を飾りつけることで景観の意識の変化がみられること、趣や統一性を感じられていることから、「多様の統一性」から景観に対してまとまりを感じていることがわかる。

6-2-4 「図」と「地」の概念

「1-3-4『図』と『地』の概念」にて、「図」と「地」の考えや「色彩参画」について飾りつけたものを「図」、建物や街並みを「地」として考察することについて述べた。

街並みについては高宮には木造の建物が多く、その色の茶や、空き家などから灰が「地」の色として考えられる。飾りつけについては、「百彩」では赤い飾りが、「風彩」では青い布が、それぞれ「図」として考えられる(図 6-6)。



図 6-6 「囀」へのなりやすさの例

「百彩」では、回数を重ねることで飾りに対して「囀」としての意識が低下している、または、定着していることが考えられる。そのため、イメージする色について変化が見られ、「囀」の赤から「地」の茶や灰をイメージするという傾向が見られた。しかし、安らぎという面から見たときに、2005 年事前調査よりも 2009 年事後調査の方が安らぎ度が高い。飾りつけが「地」に馴染み、特別に意識するものではなかったことが考えられる。「風彩」では、飾りつけた街並みに対して活気がない、落ち着くなど「百彩」の飾りつけに比べ、華やかさは感じられないことが分かる。また、調査結果より「囀」としての意識は低いことが分かる。

飾りつけにおいては、「囀」へのなりやすさ、なりにくさがあることが分かる。「百彩」が「囀」としての印象が強く「風彩」がその印象が弱かった要因として、色と住民が飾りつけに関わるということが考えられる。図 6-6 に、同じ場所での「百彩」と「風彩」の飾りつけの様子を示した。赤いものを飾った場合の方が目を引き、「囀」としての意識がしやすいことが分かる。「百彩」では赤が、「1-4-2 色の持つ意味」で述べた「注目色」だったため、目に付きやすかったことでより「囀」として意識しやすかったこと、自分たちの手で飾りつけを行ったことで、景観に関わり「囀」という意識をしたことが考えられる。

また、分析結果より、「色彩参画」について考えたとき、「百彩」及び「風彩」どちらの場合にも、「図」である飾りを通して「地」である街並みを見直すきっかけになっていることが考えられる。

6-3 景観色彩についての提言

6-3-1 「色彩参画」の事例から見た景観色彩に関する結論

街並みに色を飾ることによって景観イメージに変化を与えるには、飾りつけの「連続性」が必要であると考えられる。単発的に色を加えて飾ることでも、イメージの変化は見られる。しかし、街並み全体としての変化となると、単発的な飾りがなされていても全体的な変化には至らない。色によって街並みの雰囲気に変化を与えようとするには、その色が空間的な連続性を感じられるような装飾が必要である。

また、色については、初めはインパクトの強い方がその色の印象が強いが、徐々に色そのものよりも色を見ることを通して街並みに対する意識に目が向くようになる。そのため、歴史や文化などをイメージする色など地域に関わりのある色にすることで街並みに対しての意識が高まりやすくなると考えられる。

6-3-2 景観色彩についての提言

景観における色彩の指定については、「どういった色にするか」という点が注目されやすい。しかし、本研究より色の選定だけではなく、連続性を感じる色の配置や使い方が景観の印象に関わっていることが考えられる。

また、歴史的なものが連想される色やこういった街並みにしたいなど、その地域が大切にしているものを表す、地域に関わりの色を飾ることで、住民の街並みのイメージの変化につながることも考えられる。

6-4 本研究の課題と今後の展望

6-4-1 本研究の課題

本研究の課題としては、

①「風彩」のサンプルが少なかったこと

②飾りつける色が地域に関わりの色だった場合のイメージの変化が明らかでないことが挙げられる。

①については、「風彩」の対象地域のアンケート対象者が少なく、イメージ調査による追加調査も行った。しかし、実際に街並みを見ることや、そこに居住するという意味での住民としての視点となると違いがある。そういった違いを分析するためには、サンプル数が十分ではなかった。

また、「百彩」の場合は住民が飾りつけに参加するが、「風彩」では学生が飾りつけを行う。そういった、飾りつけへの参加の有無による印象の違いについてきちんと考察が

できるほどのサンプル数としては、不足していた。

②については、今回の実験では2つの色の場合による比較を行った。しかし、「百彩」の赤はベンガラや井伊家の赤備え、「風彩」の青は高宮布をイメージしているなど、どちらの色も地域に関わりのあるものであった。地域に全く関わりのない色や、例えばあまり好かれない色を飾った場合にも、飾りつけることと街並みを見直すことがつながるのかというと、明らかではない。そのため、例えば「活気を出したいから」赤色を飾ろうとしてもその地域に赤色に関わりのない場合に、本当に活気が出るのか、またその色が地域に馴染むかといった点では、明らかではない。

その点について明らかにするためには、地域にとって関わりのない色で同様の実験を行うことが必要であると考えられる。

6-4-2 今後の展望

「色彩参画」の展望としては、住民が街並みを飾りつけるという意識と、街並み全体が飾りつけられたという意識がつながることで街並みの「連続性」を感じ、実験に対して「活気のある」という印象を持つことができる。そのため、飾りつけのない区域に松尾ら¹⁾が行ったような赤いものの装飾を行うなど、軒先だけでなく全体を飾りつけることが重要になることが明らかになった。

また、本研究では、飾りつけを行うことがその景観における「図」になるのかというと、そうではないことが明らかになった。「図」には“なりやすさ”もあることが考えられ、また“なりやすさ”は飾るものや色によって変化する。しかし本研究では青いものは「布」に限定するなど、飾るものによる影響なのか色による影響なのかが明らかになっていない。どちらかの条件を合わせた上で同様の実験をすることで、「図」への“なりやすさ”という点も明らかになると考えられる。

参考文献

- 1)松尾清：装飾物の変遷から見た「百彩」の日常的景観マネジメントとしての可能性,
滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻学士論文(2009)

謝辞

本稿は、滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻における研究成果を学位論文としてまとめたものである。

本研究を進めるにあたり、悩みながら遠回りする中で、暖かく見守ってくださった数多くの先生方、諸先輩方、諸学友にご指導、ご協力、助言などを頂き、厚く御礼申し上げます。

はじめに、研究の遂行にわたり、的確で厚みのあるご指導を頂きました滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻近藤隆二郎准教授には、調査・研究を進める中で多くのきっかけを作っていただき、また丁寧なご指導をいただけたことにより、無事研究を終えることができ、心より感謝の意を表します。

本論文の査読をして頂きました、同専攻香川雄一講師には、本研究の完成度を高めるために非常に丁寧で有意義な助言をしていただき、心より感謝の意を表します。

研究の調査をするにあたり、大変お忙しい中、こちらの不備もさることながら、暖かい目でご協力いただいた中村善一郎様を始めとする高宮学区連合自治会及び高宮夏まつり実行委員会の皆様、木村一夫様、馬場道一様をはじめとする新町自治会及び高宮寺地藏祭り実行委員会の皆様、実験を行うに当たり、多大なるご協力をいただいた小林清子様、西村佳江子様、本研究の実験及びアンケートにご協力いただいた彦根市高宮町本町、中町、七軒町、宮町、高橋町、中北町、大北町、新町をはじめとする住民の皆様、「いっしょにやろう会」のメンバーの皆様には心より感謝の意を表します。

そして、ともに同じ研究室で学び支えていただいた同期ゼミ生の浅井千穂さん、多賀瑛さん、玉井郁圭さんには、研究において行き詰ったとき、相談に乗っていただき、また支えていただけたからこそ、本研究を締めくくることができました。心より感謝の意を表します。

また、様々なアドバイスをいただいた院生の倉嶋祐介さん、齋藤毅さんに心より感謝の意を表します。

最後に、私にこのような素晴らしい方々とともに研究が出来る機会を与えてくださった両親に心から感謝致します。

2010年2月23日

安食 陽子

APPENDIX

1. 「百彩」 アンケート調査依頼
2. 「百彩」 実施依頼・概要説明
3. 「百彩」 アンケート説明
4. 「百彩」 アンケート調査票
5. 「風彩」 実施依頼・概要説明
6. 「風彩」 アンケート説明
7. 「風彩」 アンケート調査票
8. 学生イメージ調査アンケート調査票
9. 「風彩」 追加調査依頼
10. 「風彩」 追加調査アンケート調査票
11. 2009 年調査の景観イメージに関するアンケート項目
調査結果の有効回答一覧
12. 2005 年・2006 年・2008 年・2009 年の
イメージする色に関するアンケート項目の調査結果

平成 21 年 7 月吉日

高宮町の街並みに関するイメージ調査へのご協力をお願い

拝啓 時下ますますご健勝のほどお喜び申し上げます。

本研究室では、市民参加に基づいた地域環境イメージの形成過程に関する調査研究を進めております。その一環といたしまして、高宮町にお住まいの皆様を対象としてアンケート調査を行わせていただくことになりました。

本調査は、「2009 サマーフェスティバル in 高宮ー中山道高宮町の夏まつり」の一環としておこなうことになっております、「百彩 in 高宮」というイベントを通した高宮の街並みに対するイメージを調査することを目的とするものです。具体的には、イベント後に同封のアンケートに回答していただくことによって、皆様の抱く高宮の街並みに対するイメージを把握するというものです。詳細につきましては、下記にあります同封させていただきました調査に関する書類をご参照いただきたいと思います。

つきましてはご多用の折大変申し訳ございませんが、是非とも本調査にご協力いただけますようお願い申し上げます。なお、調査データにつきましては、研究以外の目的では一切使用いたしません。

ご質問等ございましたら、下記、調査担当の安食までご連絡ください。

ご多忙中のところ恐縮に存じますが、なにとぞ調査にご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

同封いたしました書類

1. 調査の説明文 1 枚
2. アンケート調査書 1 部
3. 百彩説明書 1 部

以上

滋賀県立大学環境科学部環境社会計画専攻近藤研究室

准教授 近藤隆二郎

Tel : 0749-28-8315 / FAX : 0749-28-8570

担当：安食陽子

TEL:090-6234-3586

E-mail:butterf1y02@yahoo.co.jp

〒522-8533 彦根市八坂町 2500

2. 「百彩」実施依頼・概要説明

高宮宿の皆様へ

平成20年7月28日



中山道高宮宿夏祭り実行委員会

高宮連合自治会

滋賀県立大学 近藤研究室

「百彩～ひゃくさい～」へのご協力依頼

盛夏の候、皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、毎年お忙しい中数々の赤い物を飾っていただき、誠にありがとうございます。皆様には「高宮サマーフェスティバル」におけるイベント「百彩」のご説明及びご協力依頼をさせていただきますたく、本紙を配らせていただいた次第でございます。

このイベントも今年で5年目となります。本年度も昨年同様、高宮神社から大北交差点までと、ふれあいの館から高宮小学校まで、の二カ所を赤く飾る範囲にできればと思っております。

この度、中山道沿いにお住まいの皆様にご協力をお願いしたいのは、「百彩」における街並みの飾り付けです。

ご存知の方もいらっしゃるかと存じますが、「百彩」の説明をさせていただきます。

「百彩」というのは、「街並みを赤く染めてしまおう！」という考えのもと、お祭りの雰囲気壊さぬように、また「赤鬼」や「べんがら」を由来として、赤い物を中山道沿いの各家々の方に軒先を彩っていただくといイベントです。

これまでも皆様のご協力のおかげで、まつりの開催エリア全体に「赤色」という統一感を持たせ、お祭りやお祝いの雰囲気を作りあげることに成功して参りました。また、このイベントを通して、皆様も普段見慣れた高宮町の、変わった一面を見つけることができたのではないかと存じます。

この企画は多くの人のご協力で成り立っているイベントです。是非、皆さんでこの「高宮の祭りの日の風景づくり」にご参加下さい。皆さんでまつりの日の高宮のまちを華やかに彩りましょう。

「百彩～ひゃくさい～」へのご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。ご不明な点・何かお気づきの点等がございましたら、イベント担当の安食（県立大生）までお気軽にご連絡ください。

【連絡先】 滋賀県立大学環境科学部環境社会計画専攻 近藤研究室

百彩担当 安食陽子（あじきようこ）

電話番号 090-6234-3586

E-mail butterfly02@yahoo.co.jp

スケジュール(平成 21 年 8 月 8・9 日 9:30-18:00) 小雨決行

8 月 8 日 9:00～ 電柱への布の貼り付け(学生が担当)

9:00～ 飾りつけの開始

赤いものを中山道(無賃橋～大北交差点間・ふれあいの館～高宮小学校)に飾ってください。

当日、その範囲の電柱等に赤い布が飾られます。その布と布の間に飾ってください。(お時間の都合のつかない方は、都合のよい時間に「赤いもの」を飾っていただいても結構です。)

9:30～ 百彩 in 高宮

皆さんの手で作り上げた、祭りの日の高宮の街並みを体験してみてください。
新しい高宮町の魅力を再発見しましょう。

18:00～ 片付けの開始

飾っていただいた「赤いもの」のうち、外に出したままにしておけないものは片付けてください。

8 月 9 日 夕方までは前日と同じです。

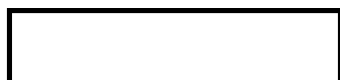
18:00～ 片付けの開始

飾っていただいた「赤いもの」を全て片付けてください。

18:00～ 片付け開始

電柱へ貼り付けた布、赤い動物の片付け(学生が担当)

19:00 片付け完了



の中の部分が皆様に協力していただきたい時間帯です。

飾る場所

■無賃橋～大北交差点

■ふれあいの館～高宮小学校

赤く塗った部分のご自宅付近に「赤いもの」を飾ってください。



飾るもの

各電柱には、こちらが赤い布を巻いています。

皆様には、ご自分の家の軒先に赤いものを飾っていただければ幸いです。飾るものはご家庭にあるもので結構です。「赤いもの」であれば何でも構いません。

例)T シャツ、座布団、ポット、カサ、おもちゃ、帽子、人形、エプロン、ハンカチなど



飾る数

飾る数は、いくつ飾っていただいても結構です。

飾っていただくものが多いほどまちは華やかに彩られます。

たくさんの「赤いもの」を道に飾ってください。そして、祭りの日を演出しましょう。



注意点

- ☐ 万が一、道に並べていただいたものが紛失・破損いたしましても、一切保証できませんのでご了承くださいませ。
- ☐ 道に並べていただくものは、風で飛ばないように注意して飾ってください。
- ☐ 飾りつけを行う際は、車などに気をつけ、事故が起こらないように注意してください。
- ☐ 雨天の場合は、雨にぬれても構わないものを道に並べてください。
- ☐ 片付けの際に分かりやすいように、飾っていただくものにはお名前をつけておくと便利です。

3. 「百彩」アンケート説明 調査の説明文

アンケート調査の説明

街並みを飾りつけることによる景観イメージの変化、またそれが回数を重ねることによりどの様に変化するのか、ということを調査したいと考えております。そこで、皆様にご協力していただきたいことを、以下にご説明させていただきます。

ご協力いただきたい流れは次のようになります。

8月8・9日 9:30-18:00	百彩 in 高宮 軒先への飾りつけにご協力をお願いします。
8月10日～ 8月16日	アンケートのご記入をお願いします
8月17日 13:00-16:00	アンケートの回収に伺います。 ご不在の場合は、配布時にお渡しした封筒にご記入済みのアンケートを同封し、ご自宅の前に置いて頂きますよう、お願いします。 学生が回収に伺います。

よろしくお願いいたします。

ご不明な点などございましたら、お気軽に担当者連絡先までご連絡ください。

【 連 絡 先 】 滋賀県立大学環境科学部環境社会計画専攻 近藤研究室 百彩担当 安食陽子（あじき ようこ） 電話番号 090-6234-3586 ・ E-mail butterf1y02@yahoo.co.jp
--

4. 「百彩」アンケート調査票

高宮の町並みについて

- (1) 高宮の街並みでイメージするのは何色ですか？
イメージする色と、その理由をご記入ください。

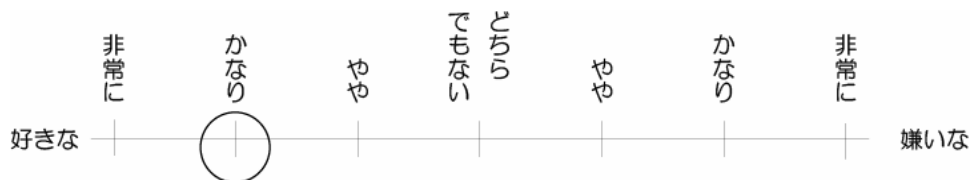
イメージする色	イメージした理由
(例)茶	(例)中山道沿いの建物から

右ページに、高宮の街並みについて対応する形容詞句が 20 対並んでいます。
最もあなたの持つイメージに近いものを一つ選んで下の記入例のように○をつけてお答えください。

(注)

- ・必ず、全ての項目に○をつけてください。
- ・形容詞句対の内容が分からない場合は「どちらでもない」に○をつけてください。
- ・この設問は、深く考えず直感でご記入ください。

(記入例)



(2)高宮の街並みについて、あなたの持つイメージをお答えください。

	非常に	かなり	やや	でもない どちら	やや	かなり	非常に	
疎遠な								身近な
質素な								華やかな
古い								新しい
殺風景な								趣のある
複雑な								単調な
活気のある								活気のない
落ち着く								落ち着かない
派手な								地味な
バラバラな								連なった
暗い								明るい
静かな								騒がしい
暖かい								冷たい
緊張した								安らいだ
閉鎖的な								開放的な
伝統的な								進歩的な
整った								乱雑な
特徴的な								一般的な
嫌いな								好きな
親しみやすい								親しみにくい
さびしい								にぎやかな

(3) 高宮の街並みで直したい場所・モノ，守りたい場所・モノはありますか？

ある ・ ない ・ その他（ ）

(4) (3)で ある と答えられた方にお伺いします。

高宮の街並みで直したい場所・モノ，守りたい場所・モノはどこですか？

場所	直したい or 守りたい	直したい or 守りたい理由
(例)中山道にある電柱	(例)直したい	(例)街並みの雰囲気を損なうから

「百彩」について

(1) 今年、赤いものを軒先に飾っていただけましたか？

飾った ・ 飾らなかった ・ その他（ ）

(2) (1)で 飾った と答えられた方にお伺いします。

どこに何を飾られましたか？

飾ったもの	数	飾った場所
(例)Tシャツ	(例)1	(例)格子戸にハンガーでかけた

(3) 今年のこのイベントではどのようなイメージが残っていますか？

4) 今後の「百彩」では、こういったことをしたいですか？

(5) 「百彩」に関してご意見・ご感想ございましたらご記入お願いいたします。
今後の参考とさせていただきます。

あなた自身について

「百彩」の回数を重ねることによる景観に対する意識の変化について調査したいと考えております。そのため、過去の「百彩」後の景観に対する意識と今回の結果を比較したいと思います。

ご記入よろしくお願いします。アンケート結果の整理以外の用途では一切使用いたしません。

性別	男 ・ 女
年齢	～20 歳 ・ 21 歳～30 歳 ・ 31 歳～40 歳 ・ 41 歳～50 歳 51 歳～60 歳 ・ 61 歳～70 歳 ・ 71 歳～
ご職業	農林漁業 ・ 会社員 ・ 商工自営業 ・ 公務員 ・ 主婦(主夫) 無職 ・ 学生 ・ その他()
お名前	

アンケートへのご協力ありがとうございました。

高宮宿の皆様へ

平成 20 年 8 月 17 日

高宮寺地蔵祭り実行委員会
滋賀県立大学 近藤研究室

軒先への飾りつけへのお願いについて

盛夏の候、皆々様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、今年の高宮寺地蔵盆にて、街並みを盛り上げるため、また風景づくりの実験的な取り組みとして「街並みを青色で飾る」という取り組みをしたいと考えております。

そこで軒先をお借りして、青い布を飾らせていただけないでしょうか。

日時の詳細については下記の通りです。また、布の準備や飾りつけ、片付けにつきましては学生が担当させていただきます。

ご迷惑をお掛けしますが、何卒、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

記

日時：平成 20 年 8 月 23 日(日) 9:00-17:00

場所：ふれあいの館～市立高宮小学校前

内容：軒先への青い布の飾りつけ

以上

ご不明な点・何かお気づきの点等がございましたら、イベント担当の安食（県立大生）までお気軽にご連絡ください。

【 連 絡 先 】	滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 近藤研究室
	イベント担当 安食陽子（あじきようこ）
電話番号	090-6234-3586 ・ E-mail butterfly02@yahoo.co.jp

「風彩」について

概要

街並みを盛り上げること、またそこから新たな高宮の街並みの魅力を発見することを目指し、街並みに「青い布」を飾り付けます。

先日開催された「百彩 in 高宮」では、赤いものを飾っていただいたと思います。そこでは街並みが盛り上がったという印象を受けた方も多いのではないのでしょうか？

「青い布」を飾ったらどうなるのでしょうか？落ち着いた、涼しげな雰囲気になるかもしれませんし、もしかしたら、赤いものを飾ったときとは違う盛り上がりがあるかもしれません。

そして、新たな高宮の魅力を発見 につながればと考えています。

今回の、青い布を飾る「風彩」は、卒業研究の一環として行う予定です。「赤色」のものを飾ったことによる効果を把握するために、実験的に「青い布」を飾らせていただきたいと思います。

「百彩」の色を変えて行う等のことは、現地点では考えておりません。

「百彩」とは違う、飾り付けた雰囲気を楽しんでいただければと思います。

方法

皆様に協力していただきたいことは、

- ・軒先を貸していただくこと

です。青い布の準備や飾りつけ・撤収等は学生が行います。また、「青いもの」を準備していただく、飾っていただくといったことは必要ありません。

軒先に傷をつけるといったことのないよう細心の注意を払い、飾りつけをさせていただきます。

イベント詳細

日時：8月23日(日)

9:00-17:00

場所：ふれあいの館から高宮小学校前

アンケート協力をお願い

前述させていただいたとおり、「百彩」の赤いものを飾った場合どのような効果があるのか、青い布の場合ではどのような違いがあるのか、ということについて調査したいと考えております。

そこで、同封させていただいたアンケートへのご記入をお願いしたいと思います。

ご面倒ではあると思いますが、ご協力よろしくお願いします。

6. 「風彩」アンケート説明

アンケート調査の説明

街並みを飾りつけることによる景観イメージの変化、また、飾り付けるものの色の違いによりどのような変化があるのかについて調査したいと考えております。そこで、皆様にご協力していただきたいことを、以下にご説明させていただきます。

ご協力いただきたい流れは次のようになります。

8月23日 9:00-17:00	風彩 軒先に飾り付けをさせていただきたいと思います。 ご迷惑をお掛けしますが、ご協力よろしくお願いします。
8月24日～ 8月30日	アンケートのご記入をお願いします
8月31日 13:00-15:00	アンケートの回収に伺います。 ご不在の場合は、配布時にお渡しした封筒にご記入済みのアンケートを同封し、 ご自宅の前に置いて頂きますよう、お願いします。 学生が回収に伺います。

よろしくお願いいたします。

ご不明な点などございましたら、お気軽に担当者連絡先までご連絡ください。

【連絡先】 滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻
近藤研究室
担当 安食陽子（あじき ようこ）
電話番号 090-6234-3586・E-mail butterfly02@yahoo.co.jp

裏に続きます

1 / 4

7.「風彩」アンケート調査票

高宮の町並みについて

- (1) 高宮の街並みでイメージするのは何色ですか？
イメージする色と，その理由をご記入ください。

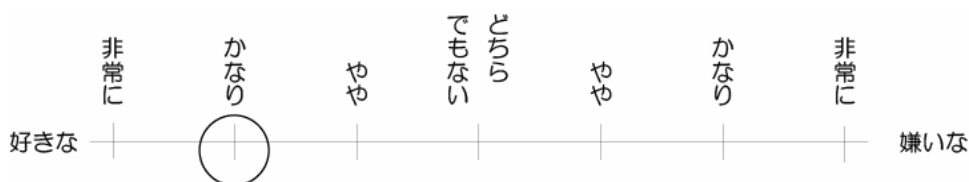
イメージする色	イメージした理由
(例)茶	(例)中山道沿いの建物から

次ページに、高宮の街並みについて対応する形容詞句が 20 対並んでいます。
最もあなたの持つイメージに近いものを一つ選んで下の記入例のように○をつけてお答えください。

(注)

- ・必ず、全ての項目に○をつけてください。
- ・形容詞句対の内容が分からない場合は「どちらでもない」に○をつけてください。
- ・この設問は、深く考えず直感でご記入ください。

(記入例)



(2)高宮の街並みについて、あなたの持つイメージをお答えください。

	非常に	かなり	やや	でもない どちら	やや	かなり	非常に	
疎遠な								身近な
質素な								華やかな
古い								新しい
殺風景な								趣のある
複雑な								単調な
活気のある								活気のない
落ち着く								落ち着かない
派手な								地味な
バラバラな								連なった
暗い								明るい
静かな								騒がしい
暖かい								冷たい
緊張した								安らいだ
閉鎖的な								開放的な
伝統的な								進歩的な
整った								乱雑な
特徴的な								一般的な
嫌いな								好きな
親しみやすい								親しみにくい
さびしい								にぎやかな

(3) 高宮の街並みで直したい場所・モノ, 守りたい場所・モノはありますか?

ある ・ ない ・ その他 ()

(4) (3)で ある と答えられた方にお伺いします.

高宮の街並みで直したい場所・モノ, 守りたい場所・モノはどこですか?

場所	直したい or 守りたい	直したい or 守りたい理由
(例)中山道にある電柱	(例)直したい	(例)街並みの雰囲気を損なうから

「風彩」について

「風彩」に関して、ご意見・ご感想ございましたらご記入お願いいたします。
今後の参考とさせていただきます。

あなた自身について

アンケート結果を整理するために必要ですので、ご記入よろしくをお願いいたします。
アンケート結果の整理以外の用途では一切使用いたしません。

お名前	
-----	--

アンケートへのご協力ありがとうございました。

8.学生イメージ調査アンケート調査票

平成 21 年 9 月 7 日

アンケート調査のお願い

滋賀県立大学 環境科学部
准教授 近藤隆二郎
調査担当 安食陽子

お忙しいところすみません。

現在、卒業論文のテーマとして、街並みに飾りつけをすることで印象がどのように変わるのか、特に「色」に注目して研究しています。そこで、研究調査のデータとして、飾りつけた印象が地域外の人と地域の方とはどういった違いがあるのか、といったことを調査したいと思い、アンケートを実施させていただくこととなりました。

アンケートは全部で 3 枚(表裏)あります。「赤いものを飾りつけた街並みの様子」「青い布を飾りつけた街並みの様子」と、それぞれの街並みの印象について質問があります。質問は、形容詞句が 20 対並んでおり、あなたの持つイメージに近いものをそれぞれ一つ選んでいただくものになります。

なお、回収させていただいたデータにつきましては、本調査の目的以外に使用することはありません。

お手数をお掛けして申し訳ありませんが、よろしくお願いいたします。

【調査担当連絡先】 滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻
近藤研究室

担当 安食陽子（あじき ようこ）

電話番号 090-6234-3586・E-mail butterf1y02@yahoo.co.jp

赤いものを飾りつけた街並みの様子



問 1

赤いものを飾りつけた街並みの様子について、あなたの持つイメージを教えてください。

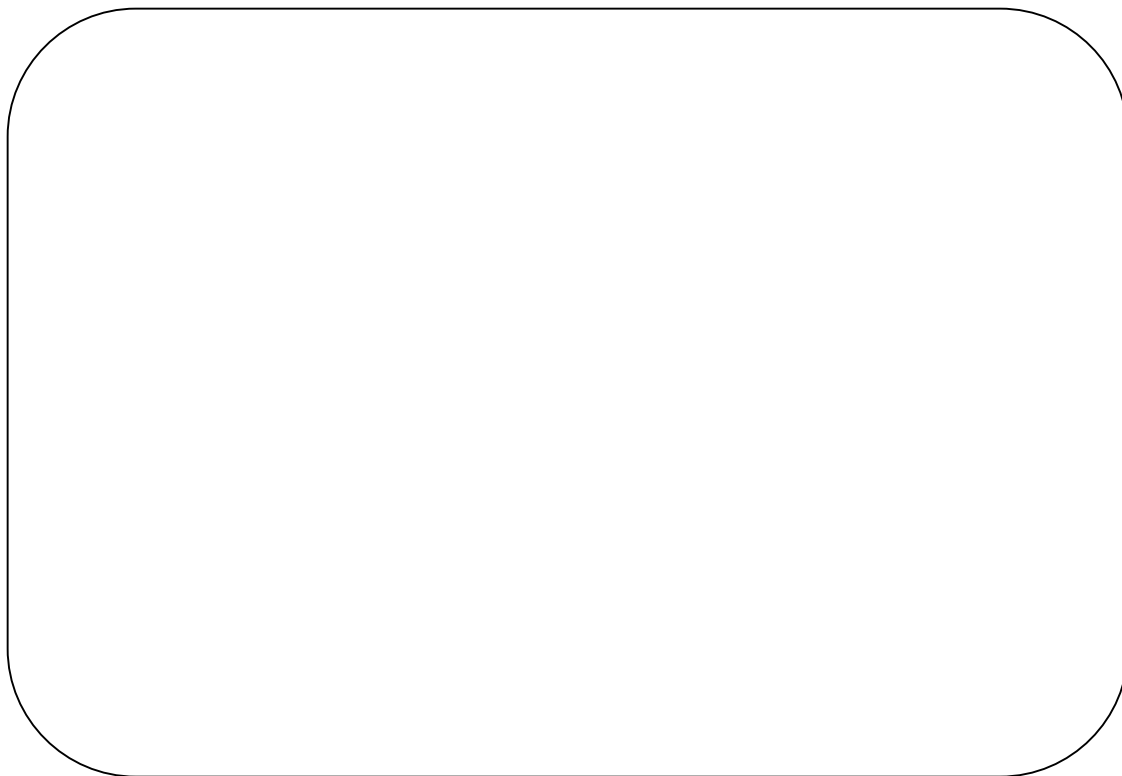
	非常に	かなり	やや	でもない どころ	やや	かなり	非常に	
疎遠な								身近な
質素な								華やかな
古い								新しい
殺風景な								趣のある
複雑な								単調な
活気のある								活気のない
落ち着く								落ち着かない
派手な								地味な
バラバラな								連なった
暗い								明るい
静かな								騒がしい
暖かい								冷たい
緊張した								安らいだ
閉鎖的な								開放的な
伝統的な								進歩的な
整った								乱雑な
特徴的な								一般的な
嫌いな								好きな
親しみやすい								親しみにくい
さびしい								にぎやかな

青い布を飾りつけた街並みの様子



問 3

2つの街並みの印象について感じられたことがありましたら、ご自由にお書きください。

A large, empty rounded rectangular box with a thin black border, intended for the respondent to write their answers to the question.

以上でアンケートは終了です。

ご協力ありがとうございました。

2009 年 9 月吉日

いっしょにやろう会の皆様

「風彩」に関するアンケート調査のお願い

滋賀県立大学環境科学部

准教授 近藤隆二郎

調査担当 安食陽子

時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

先月 23 日の高宮寺地蔵祭りの際には、軒先への青い布の飾り「風彩」にご理解・ご協力いただき、ありがとうございました。おかげ様で、無事に終えることができました。

さて、本研究では、街並みを飾りつけることで、飾りつける前と比較し街並みへの印象がどのように変化するか、特に色の違いに注目し、調査したいと考えております。

お手数をお掛けして大変申し訳ございませんが、23 日に「風彩」の飾りつけをご覧になられた方は、見た後の景観イメージの変化を、ご覧になっていない方は、アンケート 2 枚目の「風彩」の写真を参考にいただいた後の景観イメージの変化を元に、以下のアンケートにご記入ください。

なお、回収させていただいたデータにつきましては、本調査の目的以外に使用することはありません。

誠に勝手なお願いで恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

【 連 絡 先 】 滋賀県立大学環境科学部環境計画学科環境社会計画専攻
近藤研究室

担当 安食陽子（あじき ようこ）

電話番号 090-6234-3586・E-mail butterf1y02@yahoo.co.jp

10. 「風彩」 追加調査アンケート調査票

飾りつけをする前の町並みへの印象について

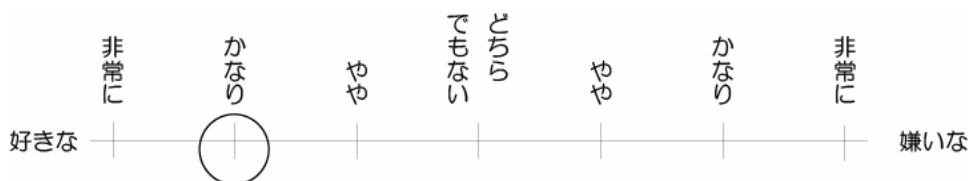
高宮の町並みについて

問1 次ページに、高宮の街並みについて対応する形容詞句が 20 対並んでいます。
最もあなたの持つイメージに近いものを一つ選んで下の記入例のように○をつけてお答えください。

(注)

- ・必ず、全ての項目に○をつけてください。
- ・形容詞句対の内容が分からない場合は「どちらでもない」に○をつけてください。
- ・この設問は、深く考えず直感でご記入ください。

(記入例)



裏に続きます

高宮の街並みについて、あなたの持つイメージをお答えください。

	非常に	かなり	やや	でもない どちら	やや	かなり	非常に	
疎遠な								身近な
質素な								華やかな
古い								新しい
殺風景な								趣のある
複雑な								単調な
活気のある								活気のない
落ち着く								落ち着かない
派手な								地味な
バラバラな								連なった
暗い								明るい
静かな								騒がしい
暖かい								冷たい
緊張した								安らいだ
閉鎖的な								開放的な
伝統的な								進歩的な
整った								乱雑な
特徴的な								一般的な
嫌いな								好きな
親しみやすい								親しみにくい
さびしい								にぎやかな

次ページに続きます

飾り付けた街並みの様子



裏に続きます

飾りつけをした後の町並みへの印象について

高宮の町並みについて

問1 高宮の街並みでイメージするのは何色ですか？
イメージする色と、その理由をご記入ください。

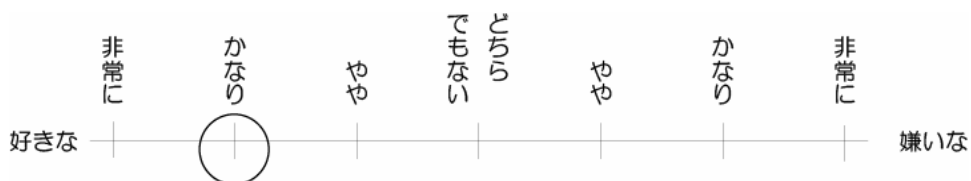
イメージする色	イメージした理由
(例)茶	(例)中山道沿いの建物から

問2 次ページに、高宮の街並みについて対応する形容詞句が20対並んでいます。
最もあなたの持つイメージに近いものを一つ選んで下の記入例のように○をつけてお答えください。

(注)

- ・必ず、全ての項目に○をつけてください。
- ・形容詞句対の内容が分からない場合は「どちらでもない」に○をつけてください。
- ・この設問は、深く考えず直感でご記入ください。

(記入例)



次ページに続きます

高宮の街並みについて、あなたの持つイメージをお答えください。

	非常に	かなり	やや	でもない どちら	やや	かなり	非常に	
疎遠な								身近な
質素な								華やかな
古い								新しい
殺風景な								趣のある
複雑な								単調な
活気のある								活気のない
落ち着く								落ち着かない
派手な								地味な
バラバラな								連なった
暗い								明るい
静かな								騒がしい
暖かい								冷たい
緊張した								安らいだ
閉鎖的な								開放的な
伝統的な								進歩的な
整った								乱雑な
特徴的な								一般的な
嫌いな								好きな
親しみやすい								親しみにくい
さびしい								にぎやかな

裏に続きます

問3 高宮の街並みで直したい場所・モノ、守りたい場所・モノはありますか？

ある ・ ない ・ その他（ ）

問4 問3で「ある」と答えられた方にお伺いします。

高宮の街並みで直したい場所・モノ、守りたい場所・モノはどこですか？

場所	直したい or 守りたい	直したい or 守りたい理由
(例)中山道にある電柱	(例)直したい	(例)街並みの雰囲気を損なうから

「風彩」について

問5 あなたは「風彩」はご覧になりましたか？

はい ・ いいえ

問6 「風彩」に関して、ご意見・ご感想ございましたらご記入お願いいたします。
今後の参考とさせていただきます。

あなた自身について

アンケート結果を整理するために必要ですので、ご記入よろしくお願いいたします。
アンケート結果の整理以外の用途では一切使用いたしません。

お名前	
-----	--

アンケートへのご協力ありがとうございました。

11.2009 年調査の景観イメージに関するアンケート項目

調査結果の有効回答一覧

		疎遠な 一身近な	質素な 一華やかな	古い 一新しい	殺風景な 一趣のある	複雑な 一単調な	活気のある 一活気のない	落ち着く 一落ち着かない	派手な 一地味な	バラバラな 一連なった	暗い 一明るい	静かな 一騒がしい	暖かい 一冷たい	緊張した 一安らいだ	閉鎖的な 一開放的な	伝統的な 一進歩的な	整った 一乱雑な	特徴的な 一一般的な	嫌いな 一好きな	親しみやすい 一親しみにくい	さびしい 一にぎやかな
2009年事後調査参加有	a1	2	-1	-2	1	0	-1	-1	0	1	1	-1	-1	1	0	-2	0	-2	1	-2	0
	a2	-2	-2	-2	-2	-2	2	0	2	-2	-2	3	0	-2	-2	0	0	1	-1	1	-2
	a3	0	-1	-2	-1	0	1	-1	0	0	0	0	0	0	0	-1	0	0	0	0	0
	a4	1	-1	-1	-1	0	1	-1	1	-1	-1	-1	0	0	-1	-1	1	0	0	-1	-1
	a5	1	-2	-1	0	0	1	-2	2	1	0	-1	-1	1	0	-1	-1	0	2	-2	0
	a6	1	-1	-1	1	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	1	-1	-1	0	1	2
	a7	0	0	-1	-2	0	2	0	2	1	0	1	0	0	-2	-1	0	2	0	0	-2
	a8	0	0	0	0	0	0	-1	0	1	1	1	-1	1	0	-1	-1	1	1	1	1
	a9	2	-1	-2	1	0	0	-2	1	3	1	-1	-2	2	2	-3	-2	-1	2	-2	1
	a10	2	0	-1	1	0	2	3	3	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0
	a11	1	-1	-2	1	0	2	0	0	-2	-1	-2	-1	1	-2	-2	0	1	0	-1	-1
	a12	2	-2	-2	-1	0	1	-2	2	2	0	-2	0	0	-1	-1	-1	-1	0	0	-1
	a13	2	-1	-1	0	1	2	-1	1	-1	-1	-1	-1	0	-2	-1	0	1	1	0	-1
	a14	-1	-2	-2	-2	0	2	-1	2	-2	-2	-2	0	1	-1	-1	-1	2	1	-1	-1
	a15	-2	-2	-2	-1	0	1	-1	1	-1	-1	-1	-1	1	-1	-2	-1	-2	-1	-1	-1
	a16	0	-3	-3	-3	1	3	1	3	-3	-3	-3	0	0	-3	-3	1	1	0	0	-3
	a17	-3	-2	-2	-2	0	3	1	3	-3	-3	-2	-1	0	-2	-1	1	0	0	0	-3
	a18	2	3	-2	-2	0	2	0	0	0	-2	-1	2	0	-1	0	0	0	0	0	0
	a19	0	-2	-2	-2	-3	1	0	2	2	1	2	1	0	2	0	1	0	0	0	-1
	a20	1	-2	-2	-2	0	3	-1	0	0	0	-1	-2	1	1	1	1	1	0	0	1
	a21	0	0	0	0	-1	1	-2	0	0	-1	-1	-2	0	-2	1	1	3	0	0	0
	a22	0	-2	-2	-2	0	3	2	2	2	2	2	2	0	2	0	2	0	0	2	-2
	a23	3	0	-1	-1	-1	1	-2	1	1	1	1	1	2	1	-2	-1	0	3	-3	1
	a24	1	0	-1	1	0	2	-1	1	0	1	0	0	0	0	-1	0	0	1	-1	-2
	a25	3	-1	0	0	1	0	-1	0	-1	0	-1	-1	0	0	0	0	0	1	0	0
	a26	0	-3	-3	-3	0	-3	-2	3	-1	-2	-2	0	1	-3	-2	1	2	1	0	-2
	a27	2	-1	2	1	2	1	-1	1	1	1	-1	-1	1	0	-2	-1	-1	1	1	1
	a28	2	0	-1	0	0	2	0	0	0	1	-1	0	0	-1	-2	2	-2	0	0	0
	a29	0	-2	-1	-1	-1	2	0	2	2	0	1	1	0	-1	-2	0	0	0	0	-1
	a30	0	-2	-2	0	0	2	0	2	1	-2	-1	0	0	-2	-3	0	-2	0	0	-2
	a31	1	0	-1	0	0	1	-2	1	0	0	-2	-2	1	-1	-2	0	-1	1	-2	-1
	a32	-1	-2	-1	0	0	-2	0	1	-1	1	-1	-2	0	1	1	0	0	1	-1	2
	a33	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0
	a34	0	-1	-1	-1	1	2	1	1	-2	-2	0	1	0	-2	0	2	1	0	1	-1
	a35	1	-2	-1	-1	0	2	1	2	0	-1	-1	0	0	-1	-1	0	-1	0	0	-1
	a36	0	-2	-2	2	1	2	-1	2	0	-1	-1	0	0	-1	-1	0	-1	0	0	-1
	a37	3	-1	-2	1	0	2	-2	1	1	0	-1	0	1	0	-1	0	-2	1	1	0
	a38	2	-2	-2	1	2	1	-2	2	-2	-1	-2	0	1	-2	-2	0	-2	0	0	-2
	a39	2	-1	-2	1	0	1	-2	2	2	-1	-3	-2	2	-1	-1	-1	1	2	-2	-2
	a40	1	0	-2	1	1	1	-2	1	1	0	0	-1	1	0	-2	0	-1	2	-1	0
2009年事後調査参加無	b1	1	-2	-1	0	0	0	1	0	-1	0	-1	-1	1	0	0	1	1	1	0	0
	b2	-1	-2	-2	-1	1	2	0	1	-2	0	-2	0	0	-1	-2	0	-1	1	-1	0
	b3	-1	-1	-1	0	-1	1	0	1	0	0	1	0	0	-1	0	0	0	0	0	0
	b4	0	0	-2	-1	0	1	0	1	0	1	-2	0	0	-1	-1	0	0	0	-1	-1
	b5	1	0	-2	0	-1	1	0	1	-1	0	-1	0	0	-1	1	1	0	0	1	-1
風彩事後調査	c1	0	-2	-1	-1	1	1	-1	1	0	-2	1	0	0	-1	-1	0	-1	0	-1	-1
	c2	2	0	-1	1	0	1	-2	1	1	1	-2	-2	2	0	-2	0	0	2	-2	1
	c3	0	-1	-1	1	0	2	-1	2	-2	-1	-2	-1	0	-2	-2	1	-1	1	0	-2
	c4	1	-1	-2	0	1	1	-1	1	0	0	-2	-1	1	-1	-1	-1	0	0	-1	-1
	c5	1	0	-2	1	1	1	-2	1	1	0	0	-1	1	-1	0	0	-1	2	-1	0
	c6	1	-2	-2	-1	1	2	0	2	2	1	1	1	0	-2	-2	1	-2	0	0	-2
	c7	3	-1	-1	3	2	1	-2	1	0	1	-1	-2	0	0	-1	-1	-1	2	2	1
風彩イメージ事前調査	d1	3	1	-1	1	0	0	0	1	-1	0	-1	-1	0	-1	-3	1	1	3	3	1
	d2	0	0	-1	0	-1	0	-1	0	0	0	1	0	1	0	-1	0	0	0	0	-1
	d3	3	-1	-1	3	1	1	3	1	2	0	-1	-2	2	1	-3	-2	-2	2	-2	1
	d4	1	-1	-2	0	0	1	-1	1	-1	0	-2	0	1	-1	-1	0	-1	0	0	0
	d5	2	-1	-1	-1	0	2	0	2	2	-2	0	1	0	0	-1	0	0	1	-1	0
	d6	-2	-2	-2	-1	-1	0	1	0	0	0	0	1	0	-2	-2	-1	0	0	0	0
	d7	2	0	-1	2	0	0	2	0	1	1	0	2	1	1	-1	-1	-2	2	2	1
	d8	2	1	2	1	-1	2	1	2	-1	-1	-1	-1	1	-1	-2	-1	0	1	-1	-1
	d9	2	-2	-3	-2	-2	3	-1	2	2	-2	-2	-1	2	-2	-3	-2	-1	1	-2	-3
	d10	2	0	0	1	0	2	0	0	-2	-1	0	-1	0	0	-1	0	-1	1	-1	-2
	d11	-1	-1	0	1	0	-1	0	1	-1	-1	-1	0	0	-1	0	1	0	0	-1	0
	d12	1	0	-1	1	0	-1	-1	0	1	1	0	-1	0	0	-1	0	-1	1	-1	1

		疎遠な 一身近な	質素な 一華やかな	古い 一新しい	殺風景な 一趣のある	複雑な 一単調な	活気のある 一活気のない	落ち着く 一落ち着かない	派手な 一地味な	バラバラな 一連なった	暗い 一明るい	静かな 一騒がしい	暖かい 一冷たい	緊張した 一安らいだ	閉鎖的な 一開放的な	伝統的な 一進歩的な	整った 一乱雑な	特徴的な 一一般的な	嫌いな 一好きな	親しみやすい 一親しみにくい	さびしい 一にぎやかな
風彩イメージ事前調査	d13	2	-2	-2	2	1	2	1	2	-1	0	-1	-1	1	-1	-1	1	0	2	2	0
	d14	3	1	2	1	-2	2	1	2	0	0	-2	-1	1	-2	-1	0	2	-1	-2	0
風彩イメージ事後調査	e1	3	1	-1	1	0	0	0	1	-1	0	-1	-1	0	-1	-3	1	1	3	3	1
	e2	0	-1	0	0	0	0	-1	0	0	1	0	0	0	0	-1	-1	0	0	0	0
	e3	3	-2	-1	2	-2	3	-3	2	-2	-1	-1	1	0	-3	0	0	0	3	3	0
	e4	1	1	-1	2	0	0	-1	0	1	0	-1	0	2	0	-1	-1	-1	1	-1	0
	e5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	e6	-2	-2	-2	0	0	-1	1	0	0	0	0	0	1	0	-1	-1	0	0	0	0
	e7	2	0	-1	1	0	-1	-1	0	2	1	-1	-2	1	0	-1	-1	-1	2	-1	1
	e8	2	-1	-1	2	-1	-1	-2	1	1	0	-1	1	1	-1	-1	-1	0	1	-1	1
	e9	1	1	1	1	0	-1	-1	-1	0	1	-1	-1	1	1	1	-1	-1	0	-1	1
	e10	0	1	1	2	1	-2	0	0	0	2	0	-2	0	1	1	-2	0	0	-1	1
	e11	0	-1	-1	0	-1	1	0	1	2	-1	-1	0	0	-1	0	1	0	0	-1	-1
	e12	0	1	1	1	0	-1	-1	-1	1	1	0	-1	1	1	0	-1	-1	1	-1	1
	e13	2	-2	-2	2	1	2	1	2	-1	0	-1	-1	0	-2	-2	0	-1	2	2	-1
	e14	3	1	2	0	-2	2	1	2	0	1	-1	-2	2	0	0	0	1	0	-2	0
百彩学生調査	f1	-1	-1	-2	1	1	-1	-1	1	1	-1	1	-1	1	-1	-2	1	-1	-1	-1	-1
	f2	-1	0	-1	1	0	-1	-3	1	1	0	-1	-2	1	-2	-3	-1	1	1	-1	0
	f3	-1	-2	-1	-3	2	-3	1	3	1	-2	-2	2	1	-1	-1	-1	-1	-3	3	-2
	f4	1	-2	-2	2	1	1	-2	2	1	-1	-2	0	2	2	-2	-2	-1	1	-2	-1
	f5	-1	-3	-3	2	1	-2	-1	2	3	0	1	-1	1	-1	-3	-2	-2	3	-3	1
	f6	1	-3	-3	2	1	0	-1	2	2	-2	-2	0	0	-2	-1	-1	-1	0	1	-1
	f7	-1	-2	-2	-2	0	1	-1	2	-3	-1	3	3	0	-2	0	3	1	0	0	0
	f8	0	-1	-2	1	1	1	-1	1	1	0	-2	0	1	-1	-1	-1	-1	1	-1	0
	f9	-1	0	-1	1	0	0	0	1	1	1	1	-2	2	-1	-1	1	1	1	-2	-1
	f10	-2	-2	-2	-2	2	2	-2	2	2	-2	-2	0	2	0	-1	-1	-1	0	-1	-1
百彩学生イメージ調査	g1	0	1	-1	2	0	-1	1	-2	0	0	1	1	-1	0	-1	1	-1	0	-1	1
	g2	1	1	-1	1	1	-2	1	-1	1	0	2	-2	0	-1	-1	1	-1	2	-1	0
	g3	0	1	0	0	-1	-1	1	-1	-1	1	0	-1	0	1	-1	0	-1	0	0	1
	g4	1	2	0	1	-2	-2	2	-2	2	2	-2	0	1	0	1	-1	0	1	2	1
	g5	0	1	-1	-1	0	1	1	-1	1	1	0	-1	-1	0	-1	0	-1	0	1	1
	g6	-2	1	-1	1	0	-1	0	2	-2	0	0	-1	1	0	-1	0	-2	-2	-3	1
	g7	-1	0	-2	0	-3	1	3	-3	2	3	3	-3	-3	3	0	-1	-2	-2	0	-3
	g8	-1	1	1	1	0	-3	3	-3	0	2	2	-2	-2	0	0	0	-3	3	-2	0
	g9	0	3	3	3	3	-3	2	-3	0	3	3	-3	-2	3	0	0	-3	1	-1	3
	g10	0	2	3	0	0	-2	1	-2	0	1	1	-1	0	1	0	1	-3	0	1	1
	g11	2	3	-2	2	1	3	3	-3	0	2	1	-1	1	1	-2	1	0	3	-2	2
	g12	1	2	-1	2	0	-1	-1	0	1	1	1	-2	1	1	-2	-2	-1	1	-2	1
	g13	0	1	-2	0	2	-1	-1	-1	1	1	0	-1	1	1	-2	0	3	1	0	0
	g14	-2	2	-1	-1	0	-1	2	-3	2	2	2	-1	-1	1	-3	-1	-1	1	-1	1
	g15	-1	1	0	1	0	-1	-1	-1	1	1	1	-1	0	0	-1	0	-1	1	-1	1
	g16	0	1	-1	2	1	-2	0	-2	1	1	0	-1	0	0	-3	0	-2	0	-1	0
	g17	-1	0	0	0	0	0	1	-1	0	1	1	0	-1	0	-1	0	-1	0	1	1
	g18	-1	1	1	0	-1	-3	1	-3	2	0	3	0	0	0	2	2	-1	1	-1	2
	g19	-1	2	-1	0	0	-2	2	-1	1	2	1	0	0	1	-1	-1	-2	0	1	2
	g20	0	1	1	2	0	2	2	2	0	1	0	-1	0	-1	-1	-1	-1	1	0	2
	g21	-1	2	-1	-2	0	-3	2	-2	0	1	-1	-3	-1	1	-2	1	-2	2	-1	2
	g22	1	1	-1	2	2	-2	-1	0	1	1	1	-2	-1	2	-3	1	0	2	-2	1
	g23	-2	1	0	0	0	-1	1	-1	1	1	0	-1	0	0	0	0	-1	0	0	1
	g24	0	1	-2	0	0	1	-1	1	1	-1	0	0	0	-2	-2	-1	-1	0	0	2
	g25	-2	3	2	-3	-2	1	-3	-3	-3	3	3	-1	-1	0	0	3	1	-2	3	3
	g26	-2	2	1	0	-1	-1	2	-2	-2	2	3	0	-2	0	2	1	-2	-1	2	0
	g27	-1	2	-1	1	-1	-3	2	-3	2	3	3	-2	1	2	1	-1	-3	2	-1	3
風彩学生イメージ調査	h1	1	1	2	0	0	1	1	1	1	0	-1	1	0	1	1	-2	0	2	0	0
	h2	2	3	3	3	-1	-2	-3	0	3	3	-3	0	3	3	3	-3	0	3	-3	0
	h3	-1	-1	0	-1	0	1	2	2	0	-1	-2	2	-1	-1	0	0	-1	-1	1	-1
	h4	0	-1	-1	-1	1	2	-2	1	1	-1	-1	2	-1	-1	-1	-1	0	-1	2	-2
	h5	1	1	0	1	1	-1	-1	-1	0	1	0	1	1	1	1	-1	1	1	1	0
	h6	0	-2	-1	-3	-1	0	-1	0	1	-2	-1	1	-1	0	-2	-3	-3	-3	-2	-3
	h7	2	-1	-1	2	0	-1	3	0	1	-1	1	3	3	-1	0	0	-1	3	3	-1
	h8	0	0	0	1	-1	2	-2	0	0	1	-2	2	-2	0	0	0	0	-3	-2	0
	h9	-3	-3	0	-3	3	-1	3	-3	-3	3	-3	3	-2	-3	0	0	0	-2	3	-3
	h10	-1	-1	0	-1	1	1	0	2	0	-1	-1	1	0	-1	0	0	0	0	0	-3

		疎遠な —身近な	質素な —華やかな	古い —新しい	殺風景な —趣のある	複雑な —単調な	活気のある —活気のない	落ち着く —落ち着かない	派手な —地味な	バラバラな —連なった	暗い —明るい	静かな —騒がしい	暖かい —冷たい	緊張した —安らいだ	閉鎖的な —開放的な	伝統的な —進歩的な	整った —乱雑な	特徴的な —一般的な	嫌いな —好きな	親しみやすい —親しみにくい	さびしい —にぎやかな
風彩学生イメージ調査	h11	-2	-2	2	0	0	2	2	1	-1	-2	-1	3	-3	-3	0	1	0	-2	2	-2
	h12	-2	-2	1	-2	1	2	1	1	0	-2	-2	2	-1	-2	2	0	-2	-1	2	-2
	h13	-1	0	1	1	1	0	-1	0	2	-1	1	0	0	0	2	-1	-1	1	0	0
	h14	-2	-1	1	1	1	0	-1	1	-1	-1	-1	1	1	-1	1	0	-1	0	1	0
	h15	-1	-1	1	-1	1	1	1	1	-1	-1	-1	1	0	-1	1	0	-1	0	1	-1
	h16	-3	0	0	0	-1	0	2	0	0	0	1	1	-2	-1	1	0	-3	-2	2	0
	h17	-1	1	1	1	0	0	-1	0	0	0	-1	1	0	0	1	-1	0	0	0	0
	h18	0	1	1	2	2	-1	-1	-1	2	0	-1	1	1	2	2	-2	1	3	-2	3
	h19	0	1	1	1	1	0	-2	1	1	0	-2	0	1	-1	1	-1	-1	2	0	-1
	h20	0	-1	0	-1	1	1	-1	0	2	0	-1	0	1	-1	0	-1	-1	0	0	0
	h21	-2	-1	1	-1	0	2	-1	1	-2	1	-2	2	-1	-1	2	-1	-2	0	-1	-1
	h22	-1	1	-2	0	1	-2	-1	0	0	1	0	1	2	-2	-3	-2	1	1	-2	-3
	h23	-2	1	0	0	0	-1	1	-1	1	1	0	-1	0	0	0	0	-1	0	0	1
	h24	-2	0	0	-2	1	0	3	0	-2	-2	2	0	-3	-3	0	1	0	-3	3	-3
	h25	0	0	-1	-3	3	2	3	2	0	-2	-2	3	-1	-2	0	0	-1	0	0	0
	h26	-1	2	2	-2	0	1	2	-1	-2	-1	1	2	-2	-1	2	0	-2	0	2	0
	h27	-1	1	3	2	1	-1	3	1	2	-1	-3	2	2	-2	3	-3	-2	2	-2	-1

12.2005 年・2006 年・2008 年・2009 年の

イメージする色に関するアンケート項目の調査結果

2005年事前調査	w1	薄茶色	派手さが無い。特徴が少ない	現状	-
	w2	ブルー	琵琶湖の色	自然	
	w3	茶色	古風なかんじがするから	現状	歴史
	w4			無記載	
	w5	藍色	高宮上布のことを考えると、赤色は中山道の街並には考えものだ	現状	物
	w5	きなり	高宮上布のことを考えると、赤色は中山道の街並には考えものだ	現状	物
	w6			無記載	
	w7	赤	なんとなく元気がでるようだ	イメージ	
	w8	赤	活気と呼ぶ	イメージ	
	w9	ベージュ	古い木造住宅が多く暖くふんわりした感じがする	現状	+
	w10	黒	夜になるとどの店もしめて暗い	現状	-
	w11			無記載	
	w12	黒	おちついたイメージ	イメージ	
	w13	濃茶	暗くて元気がない	現状	-
	w14	不明		無記載	
	w15	灰色	旧宿場町のイメージ	現状	宿場町
	w16	?		無記載	
	w17	ちやいろ		なし	
	w17	みどり		なし	
	w18	グレー		なし	
	w19	雑色	車の交通量が多いため	現状	-
	w20	青	琵琶湖をイメージ	自然	
	w21	ブルー	涼しい色だから	イメージ	
	w22	みどり	自然	自然	
	w23	グレー	町全体が暗いから	現状	-
	w24	黄色	道中がせまく、歩行が危険	現状	-
	w25			無記載	
	w26	灰色から黒	比較的古い家並が残っている	現状	街並み
	w27	茶	古く、さびれているイメージ	現状	-
	w28	グレー	特徴がないイメージ	現状	-
	w29	茶色	中山道の町並み	現状	街並み
	w30			無記載	
	w31			無記載	
	w32	灰	沈滞化した商店街	現状	-
	w33	ブルー	さびれた町	現状	-
	w34			無記載	
	w35	赤	彦根の色は赤が良いと思う	現状	赤備え
	w36	紺		なし	
	w37	ミドリ	好きな色	他	
	w37	青	好きな色	他	
	w37	白	好きな色	他	
	w38	赤	井伊の赤鬼	現状	赤備え
	w39			無記載	
	w40			無記載	
	w41	青	川、水	自然	
	w41	赤	学区内で分割した支部カラー	現状	他
	w41	青	学区内で分割した支部カラー	現状	他
	w41	黄	学区内で分割した支部カラー	現状	他
	w41	白	学区内で分割した支部カラー	現状	他
	w42			無記載	
	w43			無記載	
	w44			無記載	
	w45	みどり	旧宿場町の雰囲気がでるのでは	イメージ	
	w46	紺色	藍染めの色	現状	物
	w46	竹色	ササラのイメージ	現状	物
	w47	水の色	昔、よく川が氾濫した	自然	
	w48			無記載	
	w49	ブルー	熱気・盛り上がり欠けている	現状	-
	w50			無記載	
	w51			無記載	
	w52	赤	高宮の祭りの太鼓をイメージしたため	現状	祭り
	w52	黒	高宮の祭りの太鼓をイメージしたため	現状	祭り
	w53	ダークブルー	活気に欠ける、余り変化がない	現状	-
	w54			無記載	
	w55	水色	さわやかな水(犬上川)をイメージ	自然	
	w56	青		なし	
	w57			無記載	
	w58			無記載	
	w59	水色	犬上川の水と琵琶湖の水	自然	
	w60	緑色	環境に配慮した色	イメージ	
	w61			無記載	
	w62	灰色	少しいイメージ	現状	
	w63	青色	犬上川にちなみ水色でさわやかな	自然	
	w64			無記載	

	w64		無記載	
	w65	建物のイメージ	現状	建物
	w65	建物のイメージ	現状	建物
	w66	コハク色	現状	街並み
	w67		無記載	
	w68	白	現状	建物
	w68	白壁と瓦のイメージ	現状	建物
	w69	グレー	現状	-
	w70	町並みが全体的にもの静かな感じがする	無記載	
	w71	オレンジ色	イメージ	
	w72	伝統と団結力がある(希望か?)	無記載	
	w73		無記載	
	w74	茶	現状	宿場町
	w75	黒	現状	-
	w76	華やかな町をイメージしたため	イメージ	
	w77	高宮布をイメージ	現状	物
	w78	だんだん薄れていく感じ	現状	-
	w79	灰色	現状	-
	w80	活気がない、空家が多い	無記載	
	w81		無記載	
	w82	茶	現状	-
	w83	地味である	イメージ	
	w84	街並みが引き立った	現状	建物
	w84	茶色	現状	
	w85	古い木の家が多いから	イメージ	
	w86	さわやか	現状	-
	w87	店舗が少ない為	現状	-
	w87	人通り少ない、道路狭い、若者が少ない、 商店に活気がない。新鮮さがない。自主性が無い。	現状	-
	w88	茶	現状	-
2005年事後調査	x1	良く目立つ	百彩	
	x2	オレンジ色	百彩	
	x3	淡いオレンジ	イメージ	
	x4		無記載	
	x5	赤	イメージ	
	x6	目立ちそう	イメージ	
	x7	町の活気	イメージ	
	x8	活気を呼ぶ	イメージ	
	x9	気分が華やかになった	百彩	
	x9	赤	百彩	
	x10	薄いグレー	なし	
	x11	華やかなイメージがした	百彩	
	x12	赤がすごく目に入る	百彩	
	x13	不明	無記載	
	x14	灰色	現状	宿場町
	x15	?	なし	
	x16	みどり	現状	他
	x17	足りない色	無記載	
	x18		無記載	
	x19	ブルー	イメージ	
	x20	涼しい感じがする	イメージ	
	x21	赤	イメージ	
	x22	暖かさがほしい	イメージ	
	x23	はなやか、暖かさ	イメージ	
	x24	真夏の太陽	イメージ	
	x25		無記載	
	x26	灰色から黒	現状	街並み
	x27	オレンジ	現状	他
	x28	人々の温かい心	無記載	
	x29	赤	イメージ	
	x30	華やか	自然	
	x31	桜の色	百彩	
	x32	ソフトグリーン	百彩	
	x33	赤はきつすぎる	百彩	
	x34	赤いものが目についたので	百彩	
	x35	赤	イメージ	
	x36	目立つ、強い、情熱	無記載	
	x37		なし	
	x38	紺	イメージ	
	x39	赤	イメージ	
	x40	暖かい	イメージ	
	x41	赤	イメージ	
	x42	野望	無記載	
	x43		無記載	
	x44	水色	自然	
	x45	水色	現状	街並み
	x46		無記載	
	x47		無記載	
	x48	赤	百彩	
	x49	今回の百彩創装でイメージができた	イメージ	
	x50	黄緑	イメージ	
	x51	明るい	無記載	
	x52	赤	百彩	
	x53	よく目立つ	無記載	
	x54		無記載	
	x55	ブルー	現状	
	x56	活気がない、落ち着く	現状	
	x57	グレー	現状	
	x58	活気がない、落ち着く	現状	

	x48		無記載	
	x49		無記載	
	x50	赤	春の大祭の太鼓のイメージ	現状 祭り
	x50	黒	春の大祭の太鼓のイメージ	現状 祭り
	x51		無記載	
	x52	赤	明るくあたたかなかんじ	イメージ
	x53	水色	琵琶湖をイメージ	自然
	x54	青色	町じるしのハタの色	現状 物
	x55		無記載	
	x56	赤	街に活気が感じられた	百彩
	x57		無記載	
	x58		無記載	
	x59		無記載	
	x60		無記載	
	x61	みどり	自然が多い	自然
	x62		無記載	
	x63		無記載	
	x64	ライトグリーン	なし	
	x65		無記載	
	x66		無記載	
	x67		無記載	
	x68	緑	宿場町からまわりの田畑をイメージしました	自然
	x69		無記載	
	x70		無記載	
	x71	赤	明るく活気があるから	イメージ
	x72		無記載	
2006年事後調査	y1	赤	活気がある色	イメージ
	y2	赤	2年続いて赤のイメージついた	百彩
	y3		無記載	
	y4		無記載	
	y5	オレンジ	赤色がお日様に映えて美しくみえた	百彩
	y6		無記載	
	y7	赤	井伊の赤備えから	現状 赤備え
	y8	茶色系	宿場町として少し古風なもの良いかなと思う	イメージ
	y9		無記載	
	y10	赤	赤になれます。	百彩
	y11	こげ茶	古い街並みのため	現状 街並み
	y12	グレー	落ち着いている	現状
	y13	やや青み強い 紺色	江戸時代宿場から	現状 宿場町
	y14	赤	赤は活気があり人々にインパクトを与えるから	イメージ
	y15		無記載	
	y16	赤	赤いものを吊ったから	百彩
	y17	赤	花火大会、百彩イベントから	百彩
	y18		無記載	
	y19	黒	タイコ	現状 祭り
	y20	赤	なし	
	y21	赤	赤一色に統一したから	百彩
	y22	灰色	北と南で感じが違う	現状 他
	y23	赤	今回のイベントの色	百彩
	y24	青	なし	
	y25	白	壁の色	現状 建物
	y25	黒	壁の色	現状 建物
	y26	茶	落ち着いた街並みから	現状 街並み
	y27		無記載	
	y28		無記載	
	y29	グレー	どちらかわからない	他
	y30		無記載	
2008年事後調査	z1	赤	城下町の赤備え	現状 赤備え
	z2	赤	百彩in高宮で赤が定着して、すばらしいことだと思うから、 若い人の頭で高宮をかえてほしいです	百彩
	z3	黒かグレー	かわらの色	現状 建物
	z4	グレー	暗い	現状 -
	z5		無記載	
	z6		無記載	
	z7	山吹色	うすい色で花が咲いたかんじ	イメージ
	z8	灰	シャッター通り	現状 -
	z9		無記載	
	z10		無記載	
	z11	黒	格子	現状 建物
	z12		無記載	
	z13	白	町の蔵	現状 建物
	z13	黒	町の蔵	現状 建物
	z14	赤	活力がある	百彩
	z15	赤	現在でよい	百彩
	z16	赤	地域が暖かく見える	百彩

	v16	灰色		なし	
	v17	赤		なし	
	v18	灰	空家, 更地	現状	
	v19	黒	ほとんどシャッターが閉じた店ばかりで暗い町並み	現状	街並み
	v20	赤	過去4年「赤」でやっていいと思った(あたたかみがある)	百彩	
	v21	濃い紺色	高宮に限らず古くから人々が住み続けている町並みより	現状	街並み
	v22	黒～茶の間	古い店舗と一般住宅のあつまりで店の数が減少して来ている	現状	
	v23	赤	町全体がはなやかになる	百彩	
	v24	赤		なし	
	v25	特になし		無記載	
	v26	白っぽい	鳥居の色から	現状	歴史
	v27			無記載	
	v28	ピンク	街並みがやわらかな感じ	イメージ	
	v29	赤	祭り(春)のタイコから	現状	祭り
	v30	黒		無記載	
	v31	焦げ茶色	簾格子の色から	現状	建物
	v32	紺		無記載	
	v33	赤	最初から赤だから	他	
	v34	ベージュ	空気が濁っているようだから	現状	-
	v35	グレー	昔からの宿場町	現状	宿場町
	v36			無記載	
	v37	赤系統	建物が木造住宅で表が格子戸	現状	建物
	v38	茶	古いから	現状	
	v39	きみどり	新しく伸びる若葉のよう	イメージ	
	v40			無記載	
	v41	赤	百彩	百彩	
	v42	木の色	紅がらがはげた色	現状	建物
	v43	赤	強くたくましく活気のある町	イメージ	
	v44	赤	べんがら	現状	建物
	v45	特別派手な色でなければよい		他	
	v46	青		なし	
	v47	藍色	藍色の意味・街並みのイメージ	現状	街並み
	v48	灰色	瓦屋根	現状	建物
	v49	白	白壁	現状	建物
	v50	黒	柱	現状	建物
	v50	茶	柱	現状	建物
	v51	茶色	なんとなく	イメージ	
	v52	グレー	中仙道の古い建物	現状	街並み
	v53			無記載	
	v54			無記載	
風彩	u1			無記載	
	u2	グレー	かわらやねの色	現状	建物
	u3	青	高宮布の色	現状	物
	u4	茶色	なんとなく	他	
	u5	白	倉の壁	現状	建物
	u6	茶	柱	現状	建物
	u6	黒	柱	現状	建物
	u7	藍色	伝統的な風土から	現状	歴史
	u8	白	瓦屋根に太陽の光が反射して白ぼく見えるから	現状	建物
	u9	灰色	古い感じがする	イメージ	
	u10	こげ茶	色的に落ちつくと思う	イメージ	
	u11	ジャパンプルー	藍染から	現状	物
	u12	藍色	藍染ののれんから	現状	物
	u13	明るい色	活気・運氣を取り入れる, 呼び込む	イメージ	
	u14			無記載	
	u15	茶	商店街, 建物	現状	街並み
	u16	茶	連格子の色から	現状	建物
	u16	白	白壁の色から	現状	建物
	u17	黒みがかったグレー	静かで華やかさがなくどことなくよどんだ感じから	イメージ	
	u18			無記載	
	u19	灰色	中山道沿いの建物から	現状	街並み
	u20	赤	そのイメージがついてしまったから	百彩	
	u21	赤	お祭りのイメージ	百彩	
	u22			無記載	